農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

子嚢菌類

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

子嚢菌類 (Class. Ascomycetes.)

半子嚢菌族 (Order. Hemiascales.)

紅糟菌科 (Fam. Monascaceae.)

紅糟菌屬 (Genus. Monascus.)

三四 紅糟菌

Monascus purpureus Went.

Saito, K. - Note on Some Formosan Fermentation Organisms. (Tokio Bot. Mag. Vol. XXII. No. 252. p. 4.) 1908.

和名 べにこうじ

酵母菌科 (Fam. Saccharomycetaceae.)

裂殖酵母菌屬 (Genus. Schizosaccharomyces.)

三五 臺灣糖蜜菌

Schizosaccharomyces formosensis Nakaz.

Nakazawa, R. - 臺灣産酸酵菌類ノ研究、其二、(臺灣總督府研究所報告、第三回、一一八頁) 一九一四

和名 臺灣糖蜜菌

三六 阿緱糖蜜菌

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

Schizosaccharomyces formosensis Nakaz. var. akoensis Nakaz.

Nakazawa, R. - 臺灣産醱酵菌類ノ研究、其二、(臺灣總督府研究報告、第三回、一一九頁) 一九一四

和名 阿候糖蜜菌

三七 噍吧哖糖蜜菌

Schizosaccharomyces formosensis Nakaz. var. tapaniensis Nakaz.

Nakazawa, R. - 臺灣産醱酵菌類ノ研究、其二、(臺灣總督府研究報告、第三回、一二〇頁) 一九一四

和名 噍吧哖糖蜜菌

三八 北港糖蜜菌

Schizosaccharomyces hokkoensis Nakaz.

Nakazawa, R. - 臺灣産醱酵菌類ノ研究、其二、(臺灣總督府研究報告、第三回、一二二頁) 一九一四

和名 北港糖蜜菌

三九 卑南糖蜜菌

Schizosaccharomyces pinan Nakaz.

Nakazawa, R. - 臺灣産醱酵菌類ノ研究、其五、(臺灣總督府研究報告、第七回、二二五頁) 一九一八

和名 卑南糖蜜菌

四〇 蒜頭糖蜜菌

Schizosaccharomyces santawensis Nakaz.

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

Nakazawa, R. - 臺灣產醱酵菌類ノ研究、其二、(臺灣總督府研究所報告、第三囘、一二二頁) 一九一四

和名 蒜頭糖蜜菌

四一 臺東糖蜜菌

Schizosaccharomyces taito Nakaz.

Nakazawa, R. - 臺灣產醱酵菌類ノ研究、其五、(臺灣總督府研究所報告、第七囘、二二四頁) 一九一八

和名 臺東糖蜜菌

眞子嚢菌族 (Order. Euascales.)

亂生子嚢菌亞族 (Subord. Plectascineae.)

麴黴科 (Fam. Aspergillaceae.)

麴黴屬 (Genus. Aspergillus.)

四二 黃色泡盛麴菌

Aspergillus aureus Nakaz.

Nakazawa, R. - 泡盛麴菌ニ就テ (第一報) (臺灣總督府研究所報告、第四囘、二一五頁) 一九一五

和名 黃色泡盛麴菌

四三 泡盛麴菌

Aspergillus Awamori Nakaz.

Nakazawa, R. - 泡盛麹菌ニ就テ（第二報）（臺灣總督府研究所報告、第四回、二一五頁）一九一五

和名　泡盛麹菌

黑蟲生菌科 (Fam. Myriangiaceae.)

黑蟲生菌屬 (Genus. Myriangium.)

四四　黑蟲生菌

Myriangium Duriaei Mont. et Berk.

Engler, A. und K. Prantl. - Die Naturl. Pflanzenfam. Teil I. Abt. 1. s. 320., 1897.

Zimmermann, A. - Centralbl. fuer Bakt. Abt. II. Bd. VII., 1901.

Rolfs, P. H. and H. S. Fawcett. - Fung. Dis. of Scale Insects and Whitefly. p. 13., 1908.

South, F. W. - Control of Scale Insects in British West Indies by means of Fung. Parasit. p. 25., 1910.

Sawada, K. - 臺灣總督府農事試驗場. 特別報告. 第九號. p. 107., 1914.

Sawada, K. 日本產蟲生菌ノ珍種（植物學雜誌. 第廿八卷. 第 330, 331.）1914.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料. 第五.（臺灣博物學會々報. 第二十號）1915.

記載　子座ハ黑色地衣狀ニシテ介殼蟲ヲ全ク被ヒ猶其周圍ニ僅カニ擴カル表面粗ニシテ小疣ノ集合ノ如ク見ユ又

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

稍ゝ若キ子座ハ中央部ノミニ小疣ヲ作ル直徑〇・八―五ミメ、アリ内部藁色ヲ呈ス小疣ノ如キハ子嚢盤ニシテ子嚢盤ハ圓狀ニシテ直徑〇・二―一ミメ、アリテ暗黄褐色乃至黑色、上面平坦又ハ凹陷シ其縁邊反卷ス時ニ上面凸面ヲナスコトアリ其内部ニハ箇々分離シテ子嚢盤ノ組織内ニ多數ノ子嚢ヲ形成ス

子嚢ハ球狀、倒卵狀、倒卵狀橢圓形等ニシテ無色大サ二八―四八×二二―四〇ミューアリ 内ニ八箇ノ子嚢胞子ヲ形成ス

子嚢胞子ハ長橢圓狀卵狀乃至短棍棒狀卵狀ヲナシ無色乃至淡色、横ニ三―八箇ノ隔膜ヲ有シ猶縱ニ之レト約等數ノ隔膜ヲ有シ隔膜ニ於テ縊ヲナサス大サ二一―三六×八―一七ミューアリ 其周圍ニ無色透明ナル膠質ノ被膜ヲ被ヒ其厚サ三―四ミューアリ

寄主

柑橘ノ枝上ニ寄生スルみかんかひがらむし (Lepidosaphes citricola Pack.) 及葉及枝ニ寄生スルひめくろかひがらむし (Parlatoria Zizyphus Lucas.) ニ寄生ス、又茶樹ノ葉及枝ニ寄生スル茶樹介殼蟲 (Chionaspis sp.) ニ寄生ス又桑ノ枝ニ寄生スルくはのかひがらむし (Diaspis pentagona Targ.) 又苹樹、梨ノ枝幹上ニ寄生スル San Jose Scale (Aspidiotus perniciosus Komus.) ニ寄生ス

又たいわんせんだんノ長介殼蟲ニ寄生ス

外國ニ於ケル寄主

Aspidiotus Camelliae.

Asp. perniciosus.

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

Chionaspis Camelliae.
Chionaspis perniciosus.
Ischnaspis filiformis.
Lepidosaphes citricola.
Lepidosaphes Gloverii.

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳基隆　（柑橘）　明治四十四年三月　澤田兼吉
臺北廳頂內埔庄　（桑）　大正四年一月二十日　澤田兼吉
同　同　（楝）　大正六年五月二日　澤田兼吉
臺北廳芳蘭山　（茶）　大正三年十二月二十日　澤田兼吉　藤黑與三郎
新竹廳大芽埔　（柑橘）　大正二年三月二十日　澤田兼吉

分布　佛蘭西、伊太利、北米合衆國、西印度諸島、南亞米利加、濠洲、ニュージーランド、印度、錫蘭、爪哇、日本、臺灣

記事

一、本菌ハ普通ニ發見セラルヽ蟲生菌ノ一ニシテ時ニ甚シク發生シ無數ノ介殼蟲ヲ悉ク侵シテ死滅セシムルコトアリ

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

二、本菌ノ子嚢及子嚢胞子ハ其産地又ハ場所ニヨリテ大小アルモノ、如ク北米フロリダ産ノモノハ北方ノモノヨリ大形ナリトイヒ又西印度産ノモノハフロリダ産ノモノト殆ント等シク爪哇産ノモノハフロリダ産ノモノヨリ小形ナリ而シテ日本産ノモノハ臺灣産ト等シク又爪哇産ニ近シ

三、又フロリダ産ノモノハ縁子座ヲ有セズシテ北方ノモノハ縁子座ヲ有シ Millardet 氏ニ從ヘル Naturlichen Pflanzenfamilien ニ現ハサレタル繪ニヨレハフロリダ産ノ如ク縁子座ヲ有セス又靜岡産ノモノハ若キモノハ縁子座ヲ有シ老熟セルモノハ之レヲ有セス臺灣産ノモノニアリテモ同樣ナリ而シテ余ノ觀察ニ於テハ此縁子座ノ大少又ハ有無ハ子座ノ老若ニヨルモノニシテ若キモノハ之レヲ有シ老熟シタルモノハ之レヲ缺ケリ卽チ老熟セル子座ニアリテハ全面ニ子嚢盤ヲ形成スルヲ以テナリ

和名 黒蟲生菌

被子嚢菌亞族 (Suborder Perisporiineae.)

粉菌科 (Fam. Erysiphaceae.)

粉菌亞科 (Subfam. Erysiphae.)

粉菌屬 (Genus. Erysiphe.)

Subgen. Euerysiphe.

四五 煙草粉病菌 (第六圖版、一—六)

Erysiphe Cichoracearum DC.

de Candolle, A. P. - Flore Francaise. Tome II. p. 274., 1805.

Winter, G. - Rabh. Kryptogamenflora von Deutschl., Oesterr. & der Schweiz. Bd. I. Abt. 2. p. 33., 1887.

Frank, A. - Krankh. der Pflanzen. Bd. II. p. 263., 1896.

Salmon, E. - Monograph of the Erysiphaceae. p. 193., 1900.

Duggar, B. - Fungous Diseases of Plants. p. 228., 1909.

Sawada, K. - 臺灣總督府農事試驗場. 特別報告. 第九號. p. 31., 1914.

病徵 葉ノ兩面ニ白粉ヲ布ケル如キ觀ヲ呈シ漸次全葉面ヲ占ムルニ至ル被害葉ハ之カ爲メニ漸次黃變衰弱シ遂ニ枯死ス殊ニ曇天引續キタル時ニ於テ蔓延甚シ

後ニ至リテ白層上ニ黑色ノ極微細ナル粒ヲ生ス此白粉狀ニ見ユル時代ハ分生胞子ノ時代ニシテ黑色ノ細粒ハ子嚢胞子時代ナリ

病原菌 菌絲ハ表生ニシテ葉ノ兩面ニ生シ又莖ノ上ニモ生スルコトアリ白色又ハ灰白色ノ薄層ヲ作リ一面ニ擴カル菌絲ハ絲狀ニシテ分枝シ疎ニ隔膜ヲ有シ無色ニシテ直徑普通八ミューアリ

吸器ハ寄主表皮細胞內ニ穿入セラレ其形卵狀乃至長楕圓狀ニシテ短柄ヲ有シ大サ一八—二七×一〇—一五ミューアリテ常ニ明瞭ナル鞘被ヲ有ス

擔子梗ハ表生菌絲ヨリ垂直ニ上方ニ分タレ又ハ側方ヨリ分タレ圓柱狀ニシテ大サ三四—八〇×七—一二ミューアリ

擔子梗ノ分出點ニ於ケル菌絲ハ膨大セス

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

分生胞子ハ連鎖狀ニ形成セラレ楕圓狀乃至長楕圓狀ニシテ兩端圓頭、無色、單胞、平滑ニシテ無色ノ空胞ヲ含ミ顯著ナル Fibrosin 體ヲ含有セス大サ二四—四五×一二—一三ミューアリ

子嚢殼ハ散生又ハ群生シ寄主ノ表面上ニ生シ球狀乃至扁球狀ニシテ暗褐色直徑九〇—一四五ミューアリ 普通六—一二箇ノ子嚢ヲ含ム附屬器ハ絲狀ニシテ淡色乃至褐色、長短不定、單條又ハ分岐シ隔膜ヲ有シ菌絲ト共ニ交リテ平伏ス子嚢ハ卵狀、倒卵狀又ハ長卵狀ニシテ薄膜基部ニ短柄ヲ有シ無色ニシテ大サ五二—七〇×三〇—四五ミューアリ內ニ二箇ノ子嚢胞子ヲ含ム子嚢胞子ハ楕圓狀乃至長楕圓狀、無色乃至藁色ヲ呈シ大サ二五—三一×一五—二〇ミューアリ

寄主植物

たばこ (Nicotiana Tabacum L.)
けし (Papaver Somniferum L.)
あかめがしは (Mallotus japonicus Muell. Arg.)
おほばこ (Plantago major L. var. asiatica Decne.)
のげし (Sonchus oleraceus L.) ノ葉及莖ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

〔煙草〕

臺北廳頂內埔庄	明治四十一年三月十二日	藤黒與三郎
同　同	大正三年十一月二十三日	澤田兼吉

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

新竹廳	食水坑	明治四十一年五月八日	藤黒與三郎
同	罩蘭	明治四十年四月二十日	鈴木力治
同	同	明治四十一年五月二日	鈴木力治
南投廳	水社	明治四十年十月三十一日	鈴木力治
嘉義廳	中埔	大正元年十月	川上瀧彌
同	鹽館	大正七年四月四日	澤田兼吉
阿緱廳	クラル	明治四十三年七月七日	澤田兼吉
花蓮港廳	薄々社	明治四十二年五月六日	澤田兼吉
同	吳全城	明治四十四年六月三日	澤田兼吉
同	廸佳	明治四十四年五月三十一日	澤田兼吉
臺東廳	嗄吧灣	明治四十四年五月二十五日	澤田兼吉

〔のげし〕

臺北廳	頂內埔庄	明治四十四年五月二日	藤黒與三郎
同	同	明治四十五年三月二日	澤田兼吉
同	同	大正二年三月	澤田兼吉
桃園廳	湊合	大正六年四月二日	澤田兼吉

〔おほばこ〕

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

臺北廳頂内埔庄		明治四十年四月二十六日	藤黒與三郎
同	同	明治四十五年一月十六日	澤田兼吉
同	同	大正二年三月十五日	澤田兼吉
同	ウライ社	大正四年四月三日	藤黒與三郎
花蓮港廳花蓮港		明治四十二年五月六日	澤田兼吉

〔わかめがしは〕

臺北廳頂内埔庄		明治四十四年三月二日	澤田兼吉
同	同	大正二年三月九日	澤田兼吉
新竹廳	太湖	大正二年三月二十日	澤田兼吉

〔けし〕

臺中廳	葫芦墩	大正八年一月二十五日	澤田兼吉
同	同	大正八年二月十八日	御竿信吉
嘉義廳	竹頭崎	大正七年四月三日	澤田兼吉

分布　歐洲、亞細亞、北米合衆國、ニユージーランド、日本、臺灣

病名

和名　煙草粉病

四六　くすのきだまし粉病菌（第六圖版、七—八）

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

Erysiphe Cinnamomi Sawada. sp. nov.

病徵　嫩葉及嫩梢ヲ侵シ其表裏兩面ニ白色ノ粉末ヲ生シ圓狀ニ擴ガリ全葉面ヲ被ヒ或ハ一部分ヲ侵ス、侵サレタル部分ハ褪色シテ黃色ヲ呈シ葉ハ爲メニ充分ノ生育ヲ遂ケ能ハズシテ收縮シ又一部侵サレタルモノニアリテハ被害部ハ生長ヲ妨止セラル、ヲ以テ卷縮シ芽ハ萎縮シ特ニ若木ニアリテハ葉悉ク侵サレテ甚シク生育ヲ害セラル

病原菌　菌絲層ハ葉ノ表裏ニ生シ圓狀ニ擴ガリ初メ白粉狀後消滅ス菌絲ハ表生ニシテ寄主ノ表面ヲ匍匐シ分枝シ無色ニシテ疎ニ隔膜ヲ有シ直徑四―五ミューアリ ソレヨリ寄主表皮細胞內ニ吸器ヲ出ス吸器ハ塊狀ヲナス擔子梗ハ表生菌絲ヨリ上方ニ垂直ニ分出セラレ其分出點ニ於ケル菌絲ノ部分ハ膨大スルコトナシ直立シ圓柱狀、無色ニシテ隔膜ヲ有セザルカ或ハ一箇ヲ有ス大サ二〇―五四×五―八ミューアリ

分生胞子ハ連鎖狀ニ形成セラレ概形橢圓狀乃至長橢圓狀ニシテ兩端稍々切頭(ビール樽形)單胞ニシテ無色、平滑顯著ナルフイブロシン體ヲ含有セズシテ顆粒體ヲ含ム大サ二五―三二×一四―一七ミューアリ

寄主植物

くすのきだまし (Cinnamomum Camphora Nees. et Ebe. var. nominale Hay.) ノ葉及梢ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺東廳　里壠　大正八年五月二十日　澤田兼吉

仝　鹿野村　大正八年五月二十一日　澤田兼吉

分布　臺灣

記事

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

一、本菌ノ子嚢胞子ハ充分捜索ヲ試ミタルモ遂ニ之レヲ發見シ得サリシモ其分生胞子時代卽チ擔子梗及分生胞子ノ性質ハ全ク Erysiphe 屬ノ特徵ヲ有セリ

二、本菌ノ分生胞子及擔子梗ハ他植物上ノ Erysiphe Cichoracearum 菌ニ比較スレバ小形ナリ　又本菌ノ吸器ハ塊狀ニシテ小形ナルハ Erysiphe Cichorcearum ノソレト異ナレリ

病名

和名　くすのきだまし粉病

Subgen. Bulbigera.

四七　麥粉病菌

Erysiphe graminis DC.

de Candolle, A. P. - Flore Francaise. Tome VI. p. 106., 1815.

Cooke, M. C. - Handb. of British Fungi. Vol. II. p. 651., 1871.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. I. p. 19., 1882.

Winter, G. - Rabh. Krypt-flora von Deutschl., Oesterr. und der Schweiz. Bd. I. Abt. 2. p. 30., 1887.

Frank, A. B. - Krankh. der Pflanzen. Bd. II. p. 264., 1896.

Tubeuf, K. - Diseases of Plants. p. 175., 1897.

Prillieux, Ed. - Maladies des Plantes Agricoles. p. 9., 1897.

Salmon, E. - Monograph of the Erysiphaceae. p. 209., 1900.
Ideta, A. - 日本植物病理學. p. 203., 1909.
Foëx, Et. - Ann. de L'Ecole Nation. D'Agric. de Montpellier. Tome XI. Fasc. III, IV. p. 246 - 264., 1912.
Sawada, K. - 臺灣總督府農事試驗場. 特別報告. 第九號. p. 35., 1914.

SYN. *Oidium monilioides* (*Nees.*)

Lindau, G. - Rabh. Kryptogamenflora von Deutschl., Oesterr. und der Schweiz. Bd. I. Abt. VIII. p. 78., 1907.

病徵　葉ノ表裏、葉鞘、穗等ヲ侵ス初メ帶白色乃至灰白色ノ粉狀物カ長サ二―三ミメ、アル楕圓狀ニ生シ漸次葉脈ニ沿フテ伸ヒ長形トナリ又漸次其數ヲ增シ烈シク發生セシ時ハ葉面殆ント殘ス所ナク被ハル、ニ至ル日ヲ經ルニ從ヒテ淡褐色トナリ且ツ粉狀膜層上ニ數多ノ微細ナル黑粒ヲ群生ス灰白色粉狀ナルハ本病菌ノ分生胞子時代ニシテ黑色ノ細粒ヲ生スルハ子囊胞子時代ナリ

天候陰濕又ハ曇天引續ク時ニ蔓延甚シク被害葉ハ漸次黃變シ早ク枯死セシメラル

被害最モ多キハ稞麥次テ大麥ニシテ最モ被害少ナキハ小麥ナリ而シテ稞麥中ニアリテモ最モ被害多キハ熊玉島稞及熊米稞、おそめ等ナリ

病原菌　菌絲ハ表生ニシテ葉ノ兩面、稈、穗等ヲ侵ス帶白色乃至淡褐色粉狀ナル寧ロ厚キ膜層ヲ作ル永存的ナリ吸器ハ寄主ノ表皮細胞內ニ穿入シ吸器ノ本體ハ楕圓狀大サ一五―二五×一〇―一八ミュー ニシテ常ニ明瞭ナル鞘被ヲ有シ其一端又ハ兩端ヨリ手狀ニ叢生セル五又ハ六本ノ細枝（長サ三〇―五五ミュー）ヲ生ス

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

擔子梗ハ表生菌絲ヨリ上方ニ垂直ニ分出シ圓柱狀ニシテ大サ六〇―七〇×六―七ミューアリ基部紡錘狀乃至球狀ニ膨大シ其膨大部ノ直徑ハ一二―一四ミューアリ

分生胞子ハ連鎖狀ニ形成セラレ無色乃至淡灰色平滑ニシテ長楕圓狀圓柱狀又ハ圓柱狀ニシテ兩端圓頭又ハ切頭ヲナシ切頭ノ場合ニ於テハ稍ミ長八角形ヲナセリ内ニ圓狀ノ空胞ヲ含ミフイブロシン體ヲ含有スルコトナクシテ大サ三六―四五×一二―一五ミューアリ

子嚢殼ハ表生シテ菌絲層ノ内ニ半ハ又ハ全ク埋モレ扁球狀ニシテ暗褐色直徑一三〇―一五二ミューアリ數多ノ子嚢ヲ含ム附屬器ハ帶褐色ニシテ短絲狀其數不定ナリ

子嚢ハ例卵狀長楕圓ニシテ頂端圓頭基端ニ於テ狹マリ大サ六〇―八〇×二八―三六ミューアリ子嚢胞子ハ一子嚢内ニ八箇形成セラル、モ其年内ニ形成セラル、コト極メテ稀ナリ、子嚢殼ノ膜壁ハ二層ヨリ成リ外層ハ暗褐色ナル多角狀ノ細胞ノ二三層ヨリ成リ其細胞ノ大サハ九―一二×八―一一ミューアリ又内層ハ無色多角狀ナル細胞ヨリ成リ外層ト子嚢トノ間隙ヲ充實セリ其細胞ノ大サハ八―二〇×六―一三ミューアリ

又子嚢殼形成時代ニ於ケル菌絲層ハ淡褐色稍ミ羅紗狀トナル之レ菌絲上ニ多數ノ絲狀ナル剛毛ヲ生スルカ故ナリ此剛毛ハ彎曲シ同質ニシテ殆ント無色、光線ヲ屈折シ長サ約三〇〇ミュー直徑約七ミューアリ

寄主植物

大麥 (Hordeum sativum Jessen. var. vulgare)

裸麥 (Hordeum sativum Jessen. var. hexastichon)

小麥 (Triticum valgare Vill.) ノ葉、葉鞘、稈及穗等ニ寄生ス

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

臺灣ニ於ケル分布

〔小麥〕

臺北廳頂內埔庄		明治四十一年二月二十五日	鈴木力治
同	同	明治四十一年五月二十日	鈴木力治
同	同	大正四年二月十八日	澤田兼吉
同	同	大正四年二月二十五日	藤黑與三郎
同	同	大正五年一月十日	藤黑與三郎
同	同	大正五年三月二日	藤黑與三郎
同	同	大正五年四月七日	藤黑與三郎

〔大麥〕

臺北廳頂內埔庄		明治四十一年二月二十五日	藤黑與三郎
同	同	明治四十一年四月十七日	藤黑與三郎
同	同	明治四十三年四月十五日	藤黑與三郎
同	同	明治四十四年一月十六日	藤黑與三郎

〔裸麥〕

臺北廳頂內埔庄		明治四十一年二月六日	鈴木力治
同	同	明治四十一年二月二十日	藤黑與三郎

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

臺北廳頂內埔庄		明治四十一年二月二十五日	鈴木力治
同	同	明治四十二年三月十二日	澤田兼吉
同	同	明治四十二年三月二十五日	藤黑與三郎
同	同	明治四十二年四月十七日	澤田兼吉
同	同	明治四十四年二月十日	藤黑與三郎
同	同	明治四十四年一月十六日	澤田兼吉
同	同	明治四十四年三月六日	澤田兼吉
同	同	明治四十五年一月二十二日	藤黑與三郎
同	同	大正二年一月十四日	澤田兼吉
同	同	大正三年一月十日	藤黑與三郎
同	同	大正三年二月七日	澤田兼吉
同	同	大正三年二月十二日	藤黑與三郎
同	同	大正三年三月二日	藤黑與三郎
同	同	大正五年四月六日	藤黑與三郎
同	古亭庄	大正二年一月十三日	藤黑與三郎

分布 歐羅巴、亞細亞、北亞米利加、濠洲、亞弗利加、日本、臺灣

病名

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

和名　麥粉病

球嚢菌屬 (Genus. Sphaerotheca.)

四八　胡瓜粉病菌 (第六圖版、一四―二〇)

Sphaerotheca fuliginea (Sahlecht.) Sawada.

Sawada, K. - 臺灣總督府農事試驗場. 特別報告. 第九, p. 37., 1914.

SYN. Sphaerotheca Humuli (DC.) Burr.

var. fuliginea (Schlecht.) Salm.

Salmon. E. - Monogaph of the Erysiphaceae. p. 49., 1900.

病徵　葉ノ兩面、葉柄及莖ノ上ニモ生ズ白色粉狀ニ圓狀ニ擴ガリ烈シク侵サレタルモノニアリテハ全面白粉ヲ布キタル如クナリ葉ハ黃變頓テ乾枯スルニ至ル殆ンド年中發生ス

病原菌　菌絲ハ表生ニシテ葉ノ兩面ニ生シ白粉狀ノ層ヲ作リ後消滅スル性質アリ無色絲狀ニシテ匍匐シ分枝シ疎ニ隔膜ヲ有シ直徑普通六―一〇ミューアリ　吸器ハ寄主表皮細胞內ニ穿入シ廣卵狀乃至長楕圓狀ニシテ短柄ヲ有シ大サ一三―二二×一一―一八ミューアリ

擔子梗ハ表生菌絲ヨリ垂直ニ上方ニ分出シ分出點ニ於ケル菌絲ノ部分ハ膨大セズ圓柱狀ニシテ大サ二八―一二〇×一〇―一三ミューアリ

分生胞子ハ連鎖狀ニ形成セラレ楕圓形乃至長楕圓形ニシテ兩端圓頭、無色、單胞、平滑ニシテ常ニ顯著ナルフィ

ブロシン體ノ多數ヲ含ミ又圓狀ノ空胞ヲ含ミ大サ二六—四五×一三—二四ミューアリ

子嚢殼ハ表生ニシテ球狀褐色ニシテ直徑七〇—一二〇ミューアリ一子嚢ヲ含ム其膜壁ハ内外二層ヨリ成リ外層ハ褐色ニシテ多角形ノ大ナル細胞二層ヨリ成リ其細胞ノ大サハ二三—五〇×一八—三四ミューアリ 又内層ハ無色多角形ノ二三層ヨリ成リ外層ト子嚢トノ間隙ヲ充シ其細胞ノ大サハ一二—二〇×八—一二〇ミューアリ

附屬器ハ子嚢殼ノ下位ヨリ出デ匍匐シ菌絲狀ニシテ圓柱狀又ハ扁壓狀比較的短ク長キモノハ三〇〇ミューニ達スルモノアリ直徑五—一一ミューアリテ普通一—四個ノ隔膜ヲ有シ無色乃至淡褐色ナリ

子嚢ハ無色楕圓狀乃至長楕圓狀ニシテ柄ヲ有セサルカ或ハ僅カニ之レヲ有スルモノアリ大サ六三—九八×四六—七四ミューアリ八胞子ヲ含ム

子嚢胞子ハ楕圓形乃至長楕圓形ニシテ單胞、平滑、無色乃至藁色ヲ呈シ大サ一五—二六×一三—一七ミューアリ

寄主植物

牛蒡 (Arctium Lappa L.)

苧麻 (Boehmeria nivea Hook, et Arn.)

黃麻 (Corchorus capsularis L.)

胡瓜 (Cucumis sativus L.)

南瓜 (Cucurbita Pepo L.)

たいわんにしきさう (Euphorbia pilulifera L.)

とろゝあふひもどき (Hibiscus Abelmoschus L.)

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

ふやう (Hibiscus mutabilis L.)

あきのげし (Lactuca brevirostris Champ.)

へうたん (Lagenaria vulgaris Seb.)

はまぢんちやう (Myoporum bontioides A. Gr.)

きんま(荖草) (Piper Betle L.)

うすべにがな (Senecio sonchifolia L.)

茄 (Solanum Melongena L.)

てんぐすゞめうり (Zehneria umbellata Thw.)

ノ葉及莖ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

〔牛蒡〕

臺北廳	頂內埔庄	明治四十二年三月八日	澤田兼吉
同	同	明治四十三年五月十六日	藤黑與三郎
同	同	明治四十四年五月二日	藤黑與三郎
同	同	大正二月十二月一日	澤田兼吉
同	同	大正五年五月十二日	藤黑與三郎
同	古亭庄	明治四十一年四月二十四日	藤黑與三郎

臺中廳 臺中	明治四十年六月一日	鈴木力治
〔胡瓜〕		
臺北廳頂内埔庄	明治四十年十月十六日	藤黒與三郎
同 同	明治四十年十二月二十日	鈴木力治
同 同	明治四十四年十一月八日	澤田兼吉
臺中廳 臺中	明治四十年六月一日	鈴木力治
同 同	明治四十一年一月二十五日	鈴木力治
〔南瓜〕		
臺北廳頂内埔庄	明治四十年五月二十日	藤黒與三郎
同 同	明治四十年六月六日	藤黒與三郎
同 同	明治四十年七月五日	藤黒與三郎
同 同	明治四十年十二月五日	藤黒與三郎
同 同	明治四十一年五月二十五日	藤黒與三郎
同 同	明治四十一年六月十日	鈴木力治
同 同	明治四十三年一月十二日	藤黒與三郎
同 同	明治四十三年一月十六日	澤田兼吉
同 同	明治四十三年四月五日	藤黒與三郎

臺北廳	頂内埔庄	明治四十四年五月二日	藤黑與三郎
同	同	大正二年三月一日	藤黑與三郎
同	同	大正三年十二月十八日	澤田兼吉
南投廳	新城	大正二年十月十七日	藤黑與三郎
花蓮港廳	荳蘭	明治四十四年六月六日	澤田兼吉
同	璞石閣	明治四十二年五月十三日	澤田兼吉
臺東廳	針塱庄	明治四十二年五月十一日	澤田兼吉
同	大馬武屈	明治四十二年四月二十九日	澤田兼吉
同	都鑾	明治四十二年四月二十九日	澤田兼吉

〔へうたん〕

臺北廳	頂内埔庄	明治四十一年六月五日	藤黑與三郎
同	同	明治四十三年六月十五日	藤黑與三郎
臺中廳	東勢角	明治四十年六月三日	鈴木力治

〔茄〕

臺北廳	頂内埔庄	明治四十年十二月四日	藤黑與三郎
同	同	明治四十一年六月十五日	鈴木力治
同	同	明治四十三年一月十二日	藤黑與三郎

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

臺北廳頂內埔庄	明治四十三年五月十六日	藤黒與三郎
同　同	大正二年三月十日	澤田兼吉
同　同	大正二年四月二日	澤田兼吉
同　同	大正二年十二月二十五日	藤黒與三郎
臺中廳　東勢角	明治四十年六月三日	鈴木力治
臺中廳湖水坑庄	明治四十年五月三十日	鈴木力治

（黄麻）

臺北廳頂內埔庄	明治四十二年十月十三日	澤田兼吉
同　同	明治四十二年十月十六日	澤田兼吉
同　同	明治四十二年十月十六日	細田勝次郎
同　同	明治四十二年十月二十五日	藤黒與三郎
同　同	明治四十三年八月二十五日	藤黒與三郎
同　同	明治四十三年九月二十三日	藤黒與三郎
同　同	大正三年十月十四日	澤田兼吉

（てんぐすゞめうり）

臺北廳頂內埔庄	明治四十二年十一月二十九日	藤黒與三郎
同　同	大正二年十二月十七日	澤田兼吉

臺北廳北新庄	明治四十年十月二十日	鈴木力治
〔あきのげし〕		
臺北廳頂內埔庄	明治四十三年三月六日	澤田兼吉
同　同	大正二年三月十日	澤田兼吉
臺南廳大目降	明治四十一年十月四日	鈴木力治
同　安平	明治四十一年十一月四日	澤田兼吉
〔うすべににがな〕		
臺北廳頂內埔庄	大正二年四月七日	澤田兼吉
〔荖草〕		
臺中廳關帝廳	大正二年十月十三日	藤黑與三郎
阿緱廳頓物潭	大正二年五月六日	澤田兼吉
〔とろゝあふひもどき〕		
臺北廳頂內埔庄	大正元年十一月十三日	澤田兼吉
同　同	大正二年一月三十日	藤黑與三郎
〔苧麻〕		
臺北廳頂內埔庄	明治四十一年一月二十七日	鈴木力治
同　同	明治四十二年一月十五日	藤黑與三郎

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

臺北廳頂內埔庄	明治四十二年二月十七日	澤田兼吉
同　同	明治四十二年三月二十五日	澤田兼吉
宜蘭廳　利澤簡	明治四十一年二月二十八日	鈴木力治

〔しまにしききさう〕

臺北廳頂內埔庄	明治四十二年十一月三十日	澤田兼吉
同　同	大正二年十二月一日	澤田兼吉
同　同	大正三年十二月十四日	藤黑與三郎
臺北廳古亭庄	明治四十年十二月五日	鈴木力治
同　和尙洲	明治四十年十月十八日	鈴木力治
嘉義廳士庫	明治四十年五月二十八日	鈴木力治
臺南廳臺南	大正六年六月十五日	澤田兼吉

〔はまぢんちやう〕

臺北廳頂內埔庄	大正五年五月二十三日	澤田兼吉

分布　歐羅巴、亞細亞、北亞米利加、臺灣

記事

一、Salmon 氏ハ既ニ本菌ト Sphaerotheca Humuli 菌トノ區別點ヲ認メ本菌ヲ其變種トシテ取扱ヘリ然レ共余ノ觀察ニ於テハ左記ノ點ニ因リテ變種トナスヨリハ寧ロ一ノ種類トシテ取扱フノ優レルヲ信ス

イ、本菌ノ子嚢殼ハ Sph. Humuli 菌ノソレヨリモ球狀ニシテ且ツ後者ノ表面ハ平滑ノ如ク見ユルモ本菌ニアリテハ低キ大ナル疣ヲ生セリ

ロ、子嚢殼壁ノ細胞ハ Sph. Humuli 菌ニ於テハ外觀上不明瞭ニシテ大抵三層ヨリ成リ其細胞ノ大サハ一三—二〇×九—一七ミューアルモ本菌ニアリテハ外觀上明瞭ニシテ二層ヨリ成リ其細胞ノ大サハ遙カニ大形ニシテ大サ二二—五〇×一八—三四ミューアリ

ハ、子嚢殼ノ附屬器ハ Sph. Humuli 菌ニアリテハ一子嚢殼上ニ一七—二五本ヲ生シ厚膜ニシテ長ク且ツ細ク長サ一〇〇—四二〇直徑五—七ミュー普通五—六ミューアリ二—八箇ノ隔膜ヲ有スルモ本菌ニアリテハ一子嚢殼上ニ八—一二本ヲ生シ薄膜ニシテ太ク長サ二〇—三〇〇直徑五—一一ミュー普通八—九ミューアリ零—四箇ノ隔膜ヲ有ス

ニ、擔子梗ノ直徑ハ Sph. Humuli 菌ニアリテハ七・五—一〇ミュー平均八・五ミューアルモ本菌ニアリテハ九—一三ミュー平均一〇・五ミュー時ニ一五ミューニ達スルモノアリ

ホ、分生胞子ノ大サハ Sph. Humuli 菌ニアリテハ二二—三六×一二—二〇ミュー平均二七・五×一七ミューアルモ本菌ニアリテハ二六—四五×一三—二四ミュー平均三三・五×一八・五ミューアリ 猶前者ヨリ多量ノ Fibrosin 體ヲ含有ス

病名

和名　胡瓜粉病

四九　あらがし粉病菌（第六圖版、二一—二九）

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

Sphaerotheca lanestris Harkn.

Harkness. - New Calif. Fung. p. 20.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. IX. p. 364., 1891.

Sawada, K. - **臺灣菌類資料. 第二.** (**臺灣博物學會々報. 第十六號**) 1914.

Sawada, K. - Cystotheca **屬ハ存立セシムヘキヤ否ヤ** (**札幌博物學會々報. 第五卷. 第三號.** p. 204.) 1915.

SYN. Cystotheca lanestris (*Harkn.*) *Miyabe.*

Ideta, A. - **日本植物病理學.** p. 226., 1911.

SYN. Cystotheca lanestris (*Harkn.*) *Sacc.*

Saccardo, P. - Notae Mycol. (Ann. Mycol. Vol. IX. p. 349.) 1911.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. XXII. p. 20., 1913.

SYN. Cystotheca Wrightii Sacc.

Saccardo, P. - Ann. Mycol. Vol. VIII. p. 342., 1910.

病徴 春季わらがしノ新葉ノ葉裏ニ白色粉狀ノ薄層ヲ作リ圓狀ニ擴大シ其部分ノ葉表ハ褐色シテ綠黃色トナリ多少收縮ス日ヲ經ルニ從ヒテ白粉狀ノ薄層ハ增々擴大シ殆ント全葉裏面ヲ占ムルニ至ル此頃ニ至レハ古キ部分ヨリ暗褐色鷲絨樣ニ變シ遂ニハ葉裏暗褐色ニ變シ葉表ハ褐色遂ニハ枯損シ來ルヘシ場所ニヨリテ被害多シ

病原菌 分生胞子時代ハ新葉ノ葉裏ニ生シ一部又ハ全面ヲ被ヒ白粉狀ナリ菌絲ハ表生ニシテ無色隔膜ヲ有シ直徑約五ミューアリ吸器ハ表生菌絲ヨリ寄主表皮細胞内ニ穿入シ卵狀乃至楕圓狀ニシテ鞘被幽カナリ大サ八—一一×七

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

—八ミューアリ

擔子梗ハ表生菌絲ノ上方ヨリ垂直ニ分出直立シ圓柱狀ニシテ大サ九二—一二四×一〇—一二ミューアリ頂端ニ連鎖狀ニ分生胞子ヲ形成ス擔子梗カ菌絲ヨリ分出セル分岐點ニ於ケル隔膜ハ常ニ稍々分岐點ヨリ上方ニ存在ス、分生胞子ハ無色單胞平滑ニシテ甕狀即チ中央部最モ廣ク兩端ニ向ツテ漸細シテ兩側ノ壁線ハ大弓狀ニ彎曲シ兩端切頭ナリ而シテ之レニ狹長廣短種々アリ大サ三〇—四四×一七—二四ミューアリテ最モ長形ナルハ四四×一七ミュー小形ナルハ三〇×二〇ミュー廣短ナルモノハ三二×二四ミュー普通三三—三六×二一—二二ミューアリ無色折光的ノ原形物ヲ含ミ猶圓狀ノ空胞ト少數ノ Fibrosin 體（缺如スルモノアリ又多數ナルモノハ八箇ニ達スルモノアレ共普通一—三箇ヲ含ム）ヲ含ム

子嚢胞子時代＝菌絲ハ永存シ初メ灰色後暗褐色トナリ菌絲上ヨリ夥シク剛毛ヲ生シ鵞絨狀ノ見エヲナス剛毛ハ飴褐色ニシテ折光的、內空ヲ見ス又隔膜ヲ有セス單條又ハ基端ヨリ分岐シ著シク彎曲シ長サ約一五〇—二〇〇ミュー直徑五ミューアリ、圓柱狀ニシテ頂端ニ漸細シテ殆ンド鋭頭ヲナス

子嚢殼ハ剛毛叢內ニ匿レ球狀ニシテ濃暗褐色直徑七二—八八ミューアリ內ニ一子嚢ヲ藏ス其基部ニ菌絲狀或ハ剛毛（菌絲上ニ生スルト同樣ナル）ヲ生ス、子嚢殼壁ヲ構成スル細胞ハ多角狀ニシテ大サ六—一〇×五—一三ミューアリ普通二層ヨリナル又子嚢殼內ニ一層ノ無色多角狀ノ細胞層アリ子嚢ヲ包ミテ嚢狀ヲナシ子嚢殼ヲ壓潰スル時ハ子嚢ト共ニ外出ス其細胞ノ大サハ一八—二五×九—一六ミューアリ折光的ナリ、子嚢ハ楕圓形乃至長楕圓形基部ニ短柄ヲ有シ無色大サ七六—一三六×四八—六四ミューアリ內ニ八箇ノ子嚢胞子ヲ含ム、子嚢胞子ハ楕圓形乃至長楕圓形ニシテ無色、單胞、平滑ニシテ微細ナル顆粒體ヲ充實シ大サ二六—三二×一六—一八ミューアリ

寄主植物

あらがし (Quercus glauca Thunb.) ノ新葉上ニ寄生ス

世界ニ於ケル寄主植物

Quercus agrifolia.

Q. alba

Q. crispula

Q. castanea

Q. glandulifera

Q. macrocarpa

Q. minor

Q. primus.

Q. serrata

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳士林　大正三年四月三日　藤黒與三郎

分布　北米合衆國、墨西哥、日本、臺灣

記事

本菌ハ西暦一八八六年北米 California ニ於テ Quercus agrifolia ノ上ニ發見セラレ Harkness 氏ハ Sphae-

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

rotheca lanestris ト命名セリ其後北米合衆國ノ諸所ニ發見セラレタリ又日本ニ於テハこなら、くぬぎ等ノ上ニ發見セラレ西暦一九〇九年宮部博士ハ之レヲ Cystotheca 屬ニ移シ又一九一〇年 Saccardo 氏ハ之レヲ Cystotheca Wrightii ト同種ナリトセシガ一九一一年更ニ Saccardo 氏ハ C. lanestris ト訂正シ共ニ區別シ得難キモノトナセリ

余ガ撿シタル所ニヨル本菌ノ分生胞子時代及子嚢胞子時代ハ全ク Sphaerotheca 屬ノ特徴ニ一致スルモノナリ即チ分生胞子ハ Oidium 形ナルコト Fibrosin 體ヲ含ムコト吸器ハ Sphaerotheca 屬ノモノト同樣ナルコト子嚢殼ニハ多少附屬器ヲ有シ菌絲狀又ハ剛毛狀ナルコト子嚢殼內壁細胞層ノ存在スルコト及一子嚢八胞子ナルコト等一致ス

病名

和名　あらがし粉病

足球菌屬 (Genus Podosphaera)

五〇　桃粉病菌 (第七圖版、一―四)

Podosphaera tridactyla (Wallr.) de Bary.

Winter, G. - Rabh. Kryptogamenflora von Deutschl., Oesterr. und der Schweiz. Bd. I. Abt. 2. p. 28., 1887.

Massee, G. - Diseases of Cultiv. Plants and Trees. p. 146., 1910.

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

Prillieux, Ed. - Malad. des Plantes Agricoles. p. 33., 1897.

Sawada, K. - 臺灣總督府農事試驗場. 特別報告. 第九號. p. 47., 1914.

SYN. Podosphaera Oxyacanthae (DC.) de Bary. var. trydactyla.

Salmon, E. - Monograph of the Erysiphaceae. p. 36., 1900.

病徵　葉及嫩芽嫩梢ヲ侵シ葉ニアリテ表裏兩面ニ生ス初メ白色粉狀物カ圓狀ニ生シテ漸次ニ擴カリ後ニハ帶白色ノ薄層ヲ作ル其侵サレタル部分ハ黃綠色ニ褪色シ後ニハ帶褐色トナル被害烈シキハ嫩芽ニシテ嫩葉ハ之レカ爲メニ卷縮セシメラレ開展シ得ス植物ノ生育ヲ害スルコト甚シ

病原菌　菌絲ハ葉ノ表裏及嫩梢上ニモ生シ初メ白色粉狀後帶白色ノ薄膜ヲ作リ多少永存的ナリ圓狀ニ擴カル、吸器ハ寄主表皮細胞內ニ穿入シ球狀乃至塊狀ヲナシ鞘被不明瞭ニシテ直徑七—九ミューアリ

擔子梗ハ表生菌絲ヨリ垂直ニ上方ニ分出シ其分岐部ニ於ケル菌絲ノ部分ハ著シク膨大シ普通彎曲セリ擔子梗ハ圓柱狀ニシテ無色大サ三〇—一二〇×七—九ミューアリ

分生胞子ハ連鎖狀ニ形成セラレ楕圓狀乃至長楕圓形兩端圓頭、無色、單胞、平滑ニシテ圓狀ノ空胞及顯著ナルFibrosin體ヲ含有シ大サ二四—三三×一三—一六ミューアリ子囊殼ハ表生ニシテ球狀暗褐色直徑八六—九〇ミューアリ其頂ニ數本ノ附屬器ヲ有ス附屬器ハ直立シ先端三—五回兩叉分岐シ第一枝及第二枝ハ多少長ク第三枝第四枝ト漸次短縮シ頂端稍々膨大ス其基部ハ褐色ニシテ先端ニ淡ク長サ子囊殼ノ一倍半乃至三倍アリ子囊ハ一子囊殼內ニ各一箇ヲ包藏シ八胞子ヲ含ミ球狀無色ニシテ薄膜大サ五六—八〇×五二—七八ミューアリ　子囊胞子ハ長楕圓形單胞ニシテ無色乃至藁色ヲ呈シ大サ二二—二四×一一—一四ミューアリ

寄主植物

李 (Prunus communis Huds)

桃 (Prunus Persica. S. et Z. var. vurgaris Max.)

ノ葉及嫩芽ヲ侵ス

臺灣ニ於ケル分布

〔李〕

臺北廳頂內埔庄	明治四十年四月二十二日	藤黒與三郎
同　同	明治四十四年五月二日	藤黒與三郎
臺北廳木柵	大正五年四月二十五日	藤黒與三郎
新竹廳旱坑仔庄	大正六年六月五日	澤田兼吉

〔桃〕

臺北廳頂內埔庄	明治四十年十一月五日	藤黒與三郎
同　同	明治四十一年七月十日	鈴木力治
同　同	明治四十一年九月二十七日	藤黒與三郎
同　同	明治四十一年十一月十九日	澤田兼吉
澎湖廳	明治四十二年五月	川上瀧彌

分布　歐羅巴、北米合衆國、日本、臺灣、

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

病名
和名 李粉病、桃粉病

小球菌屬 (Genus Microsphaera.)

五一 紫雲英粉病菌

Microsphaera Astragali (DC.) Trev.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. I. p. 12., 1882.

Winter, G. - Rabh. Kryptogamenflora von Deutschl., Oesterr. und der Schweiz. Bd. I. Abt. 2. p. 35., 1887.

Salmon, E. - Monograph of the Erysiphaceae. p. 127., 1900.

Sawada, K. - 臺灣總督府農事試驗場. 特別報告. 第九號. p. 58., 1914.

病徵 葉ヲ侵シ表裏ニ初メ白色粉狀物ヲ一面ニ生シ後白色ノ稍々厚キ菌絲層ヲ作ル被害部ハ褪色シテ黃綠色トナリ頓テ乾枯ス北部臺灣ニ於テハ冬期紫雲英ヲ栽培セルカ此時期ハ曇天引續キ濕氣多キ時期ナルヲ以テ本菌ノ蔓延殊ニ烈シク紫雲英栽培地ハ恰モ強キ降霜又ハ淡雪ノ降リタル如ク畑一面ニ白色トナル此病害ノ爲メ生育ヲ損スルコト甚シ

病原菌 菌絲ハ葉ノ兩面白色乃至灰色ナル菌絲層ヲ作リ永存的ナリ菌絲ハ表生ニシテ無色、絲狀疎ニ隔膜ヲ有シ分枝シ直徑普通六—七ミューアリ

擔子梗ハ表生菌絲ヨリ垂直ニ上方ニ分出シ其分出點ニ於ケル菌絲ハ膨大スルコトナシ圓柱狀ニシテ大サ二六—四八×七—九ミューアリ

分生胞子ハ單生楕圓形乃至長楕圓狀短圓柱狀ニシテ兩端圓頭、無色、單胞、平滑ニシテ內ニ極メテ僅カニ微細ナル顆粒體ヲ含ミ猶不規則ナル空胞ヲ含ム大サ二八—四三×一六—二一ミューアリ

寄主植物

げんげ(紫雲英)(Astragalus sinicus L.)

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內埔庄	明治四十一年一月二十七日	鈴木力治
同　同	明治四十一年二月六日	鈴木力治
同　同	明治四十一年三月十三日	藤黒與三郎
同　同	明治四十三年一月二十三日	藤黒與三郎
同　同	明治四十三年四月三日	澤田兼吉
同　同	明治四十四年三月十日	藤黒與三郎
同　同	大正二年三月六日	澤田兼吉
同　同	大正四年三月十二日	澤田兼吉

分布 歐羅巴、日本、臺灣

病名

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

和名　紫雲英粉病

五二　木藍粉病菌（第七圖版、五―一一）

Microsphaera Polygoni (DC.) Sawada.

Sawada, K. - 臺灣總督府農事試驗場. 特別報告. 第九號. p. 52., 1914.

SYN. *Erysiphe Polygoni DC.*

Salmon, E. - Monograph of the Erysiphaceae. p. 174., 1900.

Duggar, G. - Fungous Diseases of Plants. p. 227., 1909.

Massee, G. - Diseases of Cultivated Plants and Trees. p. 159., 1910.

SYN. *Erysiphe communis (Wallr.)*

Cooke, M. C. - Handb. of British Fungi. Vol. II. p. 652., 1871.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. I. p. 18., 1882.

Winter, G. - Rabh. Kryptogamenflora von Deustchl., Oesterr. und der Schweiz. Bd. I. Abt. 2. p. 32., 1887.

Prillieux, Ed. - Maladies des Plantes Agricoles. Tome II. p. 14., 1897.

SYN. *Erysiphe Martii Lév.*

Cooke, M. - Handb. of British Fungi. Vol. II. p. 651., 1871.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. I. p. 19., 1882.

Winter, G. - Rabh. Kryptogamenflora von Deutschl., Oesterr. und der Schweiz. Bd. I. Abt. 2. p. 31., 1887.

病徵　葉ノ表裏、葉柄、嫩梢、莖、果實等ヲ侵シ寄主表面ニ初メ白色粉狀物ヲ一面ニ生シ後帶白色乃至汚白色ノ菌絲層ヲ生シ被害部ハ褪色シテ黃綠色トナリ漸次枯損シ植物ノ生育ヲ害スルコト甚シ早期ニ發生甚シケレハ植物實ハラスシテ枯死スルコト屢々ナリ曇天引續ク時ハ蔓延甚シ

病原菌　菌絲ハ葉ノ兩面嫩梢等ヲ侵シ白色乃至灰白色ノ薄キ層ヲ作リ一面ニ擴カリ永存的ナリ菌絲ハ表生ニシテ絲狀疎ニ隔膜ヲ有シ分枝シ無色ニシテ直徑普通四—六ミューアリ

吸器ハ寄主表皮細胞内ニ穿入シ球狀乃至扁球狀ニシテ鞘被不明瞭大サ二二—三〇×一八—一九ミューアリ

擔子梗ハ表生菌絲ヨリ垂直ニ上方ニ分出シ分岐點ニ於ケル菌絲ノ部分ハ膨大スルコトナシ圓柱狀ニシテ大サ二四—五六×七—一〇ミューアリ分生胞子ハ單生ニシテ橢圓狀乃至短圓柱狀ニシテ兩端圓頭、單胞、無色、平滑ニシテ顯著ナル顆粒體ヲ有スルコトナク僅カニ極微細ナル顆粒ヲ含ムカ或ハ之ヲ含マス猶不規則ナル形ノ空胞ヲ含ミ大サ二三—四六×一四—二三ミューアリ

子囊殼ハ表生ニシテ群生又ハ散生シ扁球狀暗褐色ニシテ直徑八一—一七六ミューアリ三—八箇ノ子囊ヲ含ム　子囊殼ノ外壁ハ暗褐色ナル四—六層ヲナセル細胞ヨリ組成セラル內壁細胞ハ帶黃白色折光的ニシテ外壁ト子囊トノ空隙ヲ充シ一—三層ヲナシ多角形ニシテ大サ八—一二×五—八ミューアリ　附屬器ハ絲狀ニシテ一子囊殼上ニ九乃至四十五本ヲ生シ無色乃至褐色ヲ帶ヒ單條乃至二三回兩叉分枝シ隔膜ヲ有セサルカ或ハ數箇ヲ有シ大サ五三—六一〇×六—七ミューアリ菌絲ト共ニ平伏ス、子囊ハ卵狀乃至長橢圓狀ニシテ多クハ斜形ヲナシ基部ニ短柄ヲ有シ無色ニシ

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

テ大サ五四—七八×三二—四八ミュー三—五箇普通四箇ノ子嚢胞子ヲ含ム、子嚢胞子ハ楕圓形乃至長楕圓形ニシテ兩端圓頭無色、單胞、平滑ニシテ大サ一九—三七×九—一八ミューアリ

寄主植物

まるばたけはぎ (Alysicarpus vaginalis DC.)

おほからし(刈菜) (Brassica juncea Hook. f. et T.)

かはらけつめい (Cassia mimosoides L.)

蕎麥 (Fagopyrum esculentum Moench.)

なんばんこまつなぎ(蕃菁) (Indigofera Anil L.)

たいわんこまつなぎ(本菁) (Indigofera tinctoria L.)

蕃茄 (Lycopersicum esculentum Mill.)

うまごやし(苜蓿) (Medicago denticulata Willd.)

ゑんだう(豌豆) (Pisum sativum L.)

しろいぬたで (Polygonum lapathifolium L.)

さはふたぎ (Symplocos crataegoides Ham.)

ノ葉、嫩梢、莖、果實等ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

〔豌豆〕

臺北廳頂內埔庄　明治三十九年十二月二十四日　甲斐良三
同　同　明治四十年十一月四日　鈴木力治
同　同　明治四十年十二月十二日　藤黒與三郎
同　同　明治四十一年二月六日　鈴木力治
同　同　明治四十一年十二月四日　澤田兼吉
同　同　明治四十二年十二月十八日　澤田兼吉
同　同　明治四十三年一月二十六日　藤黒與三郎
同　同　明治四十三年三月五日　藤黒與三郎
同　同　大正三年一月十日　藤黒與三郎

〔蕎麥〕

臺北廳頂內埔庄　明治四十三年十一月二十三日　澤田兼吉
同　同　大正三年一月二十七日　藤黒與三郎

〔蕃茄〕

臺北廳頂內埔庄　明治四十年四月五日　鈴木力治
同　同　明治四十年四月二十二日　藤黒與三郎
同　同　明治四十年十二月十二日　鈴木力治
同　同　明治四十年十二月二十日　鈴木力治

臺北廳頂內埔庄		明治四十一年十二月二十六日	澤田兼吉
臺中廳臺中		明治四十年六月一日	鈴木力治

〔木藍〕

臺北廳頂內埔庄		明治四十年十月十六日	藤黑與三郎
同	同	明治四十一年十月二十一日	藤黑與三郎
同	同	明治四十二年十一月三十一日	澤田兼吉
同	同(I. Anil)	明治四十三年十二月十五日	澤田兼吉
同	同	大正二年十一月二十五日	藤黑與三郎
臺南廳歸仁北庄		明治四十一年十月三十一日	澤田兼吉

〔さわふたぎ〕

臺北廳頂內埔庄		明治四十二年四月四日	澤田兼吉
同	同	明治四十四年五月二日	藤黑與三郎
同	同	大正二年三月十日	澤田兼吉
同	同	大正三年十二月二十日	澤田兼吉
同	同	大正四年三月八日	澤田兼吉
臺北廳北新庄		明治四十年十月二十一日	鈴木力治
桃園廳埔仔庄		大正六年六月一日	澤田兼吉

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

桃園廳湊合　大正六年四月三日　澤田兼吉

南投廳皮仔寮　大正二年五月十二日　澤田兼吉

〔まるばたけはぎ〕

臺北廳頂内埔庄　大正三年五月四日　藤黒與三郎

〔苜蓿〕

臺北廳頂内埔庄　明治四十四年五月二日　藤黒與三郎

同　同　大正六年四月二十八日　藤黒與三郎

〔刈萱〕

臺北廳頂内埔庄　明治四十五年四月五日　澤田兼吉

〔しろいぬたで〕

臺北廳頂内埔庄　大正三年四月十六日　澤田兼吉

同　同　大正三年四月二十五日　藤黒與三郎

分布　歐羅巴、亞細亞、北亞米利加、濠洲、ニウジーランド、臺灣

記事

一、本菌ノ分生胞子ハ Salmon 氏及其他ノ著者ノ記スル如ク決シテ連鎖狀ニ形成セラレスシテ擔子梗ノ頂上ノ細胞ハ成熟セル胞子トナラサル内ハ第二第三又ハ以下ノ細胞ハ胞子トナルヘク發達セス此點ハ全ク Erysiphe 屬ニ見ル能ハサル性質ニシテ却ツテ Microsphaera 屬ノ種類ニ酷似シ只胞子内ニ極メテ少數ノ顆粒體ヲ

含ムカ又ハ含マサルニ依リテ差異アルノミナリ又子嚢殼及子嚢ノ形、一子嚢ニ含マル、子嚢胞子ノ數等 Erysiphe 屬ヨリ寧ロ Microsphaera 屬ニ近ク附屬器ニ於テハ一般的ニ Erysiphe 屬ニ近シト雖モくさふぢ上ノモノニアリチハ三回迄兩叉分岐シ其有樣ハ Salmon 氏ノ畫キタル Microsphaera Mougeotii ノ附屬器ニ類似シ又諸種ノ Microsphaera 屬ノ種類ノ若キ附屬器ニ近似ス又他ノ寄主植物上ノモノハ Microsphaera Astragali, M. ferruginea 等ノ附屬器ノ先端ニ似タルモノヲ交フ

以上記スル如ク本菌ハ Erysiphe 屬ヨリハ寧ロ Microsphaera 屬ニ納ムヘキモノナリ

二、本菌ハ元多クノ名ノ下ニ置カレ重ニ Erysiphe communis (Wallr.) トナサレタリシモ Léveilli 氏ハ附屬器ノ着色セラル、一群ヲ E. Martii Lév. トシテ E. communis ヨリ分離シ又 Oudemans 氏ハ子嚢內ニ含マルル子嚢胞子ノ數ノ異レルヨリ E. umbelliferarum ナル種類ヲ分チ又 de Bary 氏ハ分生胞子ノ楕圓形ナル E. communis ト圓柱狀ナル E. umbelliferarum トヲ區別シ又 Magnus 氏ハ Caragana arborescens 上ヨリ得タルモノ、附屬器ハ先端分岐スルニヨリ Microsphaera 屬ニ移シテ M. Caraganae ナル名稱ヲ與ヘタリ猶他ニ說ヲナシタルモノアリタルモ Salmon 氏ノ研究ニヨリテ皆 Erysiphe Polygoni ノ名ノ下ニ收容セラレ今日ニ於テハ實ニ本菌ノ寄主植物約三百五十餘種ノ多キニ上レリ

余カ檢シタルモノ、內寄主植物ノ異ナルニ從ヒテ菌絲層ノ厚薄アリ分生胞子ノ長短アリ附屬器ノ着色ノ有無、長短、數ニ差アル等異ナレルモノ多ク今日直チニ之レヲ分離シ難キモ猶精細ナル研究ノ結果ニ問ハ、或ハ多種類ノ混合セルモノナルヘシ

和名　木藍粉病、　豌豆粉病

五三　かたばみ粉病菌

Microsphaera Russellii Clint,

Saccardo. P. - Syll. Fung. Vol. I. p. 12., 1882.

Salmon, E. - Monograph of the Erysiphaceae. p. 163., 1900.

Sawada, K. - 臺灣總督府農事試驗場. 特別報告. 第九號. p. 58., 1914.

病徵　葉ヲ侵シ葉ノ兩面ニ白色ノ粉末ヲ一面ニ布キ之レカ爲メニ葉色褪セテ早ク枯死ス蔭所ニ生スルモノ又ハ曇天引續ク時ニ蔓延甚シ

病原菌　葉面一面ニ白粉ヲ布キ後消滅又ハ稍々永存的ナリ菌絲ハ表生ニシテ無色絲狀ニシテ疎ニ隔膜ヲ有シ分枝シ直徑普通五ミューアリ

擔子梗ハ表生菌絲ヨリ垂直ニ上方ニ分出シ其分岐點ニ於ケル菌絲ハ膨大セス擔子梗ハ圓柱狀ニシテ〇—一箇ノ隔膜ヲ有シ大サ四〇—一二〇×四—五ミューアリ　分生胞子ハ單生シテ橢圓形乃至長キ長橢圓形ニシテ兩端圓頭無色單胞平滑ニシテ少數ノ微細ナル顆粒體及ヒ不規則ナル形ノ空胞ヲ含ミ大サ二五—四二×一五—二〇ミューアリ

寄主植物

かたばみ　(Oxalis corniculata L.) ノ葉ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內埔庄　明治四十三年一月十六日　澤田兼吉

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

臺北廳頂內埔庄　大正二年十二月一日　澤田兼吉
桃園廳安平鎮　明治四十一年八月三十日　澤田兼吉
臺東廳知本　明治四十二年四月二十六日　澤田兼吉

分布　北米合衆國、カナダ、臺灣

病名

和名　かたばみ粉病

鈎球菌屬 (Genus Uncinula.)

五四　えのき粉病菌（第七圖版、一二―一五）

Uncinula Clintoni Peck.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. I. p. 7, 1882.
Salmon, E. - Monograph of the Erysiphaceae. p. 109, 1900.
Sawada, K. - 臺灣菌類資料. 第五（臺灣博物學會々報. 第二十號）1915.

病徵及病原菌　秋冬ノ候えのきノ葉ノ兩面一面ニ灰白色ノ甚ダ薄キ粉狀ノ膜層ヲ生シ稍々持久的ナリ之レ菌絲カ葉ノ表面ニ彌蔓シ其處ニ擔子梗及胞子ヲ形成シタルモノナリ而シテ葉ノ裏面ニ於テ濃クシテ表面ニ於テ頗ル薄シ菌絲ハ全ク表生ニシテ無色隔膜ヲ有シ直徑五―六ミューアリ其菌絲ヨリ寄主表皮細胞内ニ吸器ヲ穿入ス擔子梗ハ表生菌絲ノ側方ヨリ分出シ直立スルヲ以テ其基部膝曲ス、無色ニシテ大サ六〇―六八×八―一〇ミューアリ頂ニ分生

胞子ヲ單生ス分生胞子ハ長楕圓狀圓柱狀ニシテ兩端圓頭一端ニ一小突起ヲ具ヘ内ニ顯著ナル顆粒體ヲ多數含有シ大サ三六―四一×一五―一八ミューアリ。

子嚢殻ハ表生菌絲上ニ生シ散生又ハ群生シ扁球狀暗褐色ニシテ直徑八八―一二〇ミューアリ内ニ數箇ノ子嚢ヲ藏ス附屬器ハ子嚢殻ノ基方ヨリ放射狀ニ生シ其數七―一五箇アリ無色粗面ニシテ隔膜ヲ缺キ基方厚膜ニシテ先端ニ向ツテ薄膜ナリ頂端部膨大シ一回卷曲ス其卷曲セル部ノ全直徑ハ二〇―二三ミューアリ附屬器ノ長サ七二―一三六ミュー其基部ノ直徑六―七ミュー先端ニ近キ部分ノ直徑ハ七―九ミューアリ

子嚢ハ無色卵狀ニシテ薄膜基部極メテ短キ柄ヲ有シ大サ五六―六四×四六―四八ミューアリ普通五箇ノ子嚢胞子ヲ含ム子嚢胞子ハ無色、楕圓狀、平滑、單胞ニシテ大サ一〇―二五×一四―一六ミューアリ

寄主植物

えのき (Celtis sinensis Pers.) ノ葉ニ寄生ス

外國及日本ニ於ケル寄主植物

Aphananthe aspera (日本)

Tilia americana (北米)

Zelkova acuminata (日本)

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂内埔庄　大正二年十一月二十二日　澤田兼吉

臺北廳頂内埔庄　大正三年十一月二十三日　澤田兼吉

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

同　同　大正三年十一月三十日　藤黒與三郎
同　同　大正三年十二月十四日　澤田兼吉
臺中廳六張犁　明治四十二年十一月十六日　澤田兼吉

分布　北米合衆國、日本、臺灣

記事

Salmon 氏ニヨリテ U. Clintoni トナサレタルモノ、内日本産けやき上ノモノハ子嚢殻小形ナルト附屬器ノ多數ナルトニヨリテ我菌ト稍々異ルモノ、如ク日本産むくえのき上ノモノハ我菌ニ殆ント符合ス

臺灣ニ於テハ粉病菌科 (Erysiphaceae) ノ種類ハ一般ニ子嚢殻ヲ形成シ難キモ本菌ニ於テハ普通ニ之レヲ形成ス

病名

和名　えのき粉病

五五　葡萄粉病菌

Uncinula necator (Schw.) Burr.

Salmon, E. - Monograph of the Erysiphaceae. p. 99., 1900.

Duggar, B. - Fung. Diseases of Plants. p. 229., 1909.

Ideta, A. - 日本植物病理學. p. 206., 1909.

Sawada, K. - 臺灣總督府農事試驗場. 特別報告. 第九號. p. 67., 1914.

SYN. *Uncinula americana How.*

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. I. p. 8., 1882.

Prillieux, Ed. - Malad. des Plantes Agricoles. Tome II. p. 17., 1897.

SYN. *Uncinula spiralis Berk. et Curt.*

Massee, G. - Diseases of Cultiv. Plants and Trees. p. 154., 1910.

SYN. *Oidium Tuckeri Berk.*

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. IV. p. 41., 1886.

Lindau, G. - Rabh. Kryptogamenflora von Deutschl., Oesterr. und der Schweiz. Bd. I. Abt. VIII. p. 84., 1907.

病徴 秋冬ノ候葉ノ表面ニ白色粉狀乃至帶白色ノ薄層ヲ作リ之レカ爲メニ葉色退セテ黃色ヲ呈シ早ク枯凋ス

病原菌 菌絲ハ葉ノ表面ニ多ク裏面ニ少ナシ一面ニ擴カリ白色乃至灰白色ノ薄層ヲ作リ永存的ナリ表生ニシテ絲狀ニシテ疎ニ隔膜ヲ有シ分枝シ無色直徑普通五―七ミューアリ　擔子梗ハ表生菌絲ノ側方ヨリ分出シ垂直ニ直立スルカ故ニ基部膝曲セリ圓柱狀ニシテ大サ五三―九六×七―八ミューアリ分生胞子ハ單生、長橢圓狀、短圓柱狀ニシテ兩端圓頭，單胞、無色、平滑ニシテ少數ノ微細ナル顆粒體及不規則ナル形ノ空胞ヲ含ミ大サ二七―三三×一四―一七ミューアリ

寄主植物

ぶどう（葡萄）(Vitis vinifera L.) ノ葉ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

臺北廳頂內埔庄　明治四十四年十二月五日　澤田兼吉

同　同　大正二年十二月二十五日　澤田兼吉

分布　北米合衆國、加奈陀、佛蘭西、日本、臺灣

病名

和名　ぶどう粉病

針球菌亞科 (Subfam. Phyllactineae.)

表生菌絲ハ寄主表皮細胞ニ直接吸器ヲ出サス然レ共ソレヨリ分タレタル分枝ハ氣孔ヲ通シテ寄主組織內ニ入リ細胞間空隙ヲ迷走シソレヨリ寄主細胞ニ吸器ヲ穿入ス擔子梗ハ表生菌絲ヨリ分出ス

二屬ヲ含ム卽チ Phyllactinia 及 Uncinulopsis 是ナリ

記事

余ハ Uncinulopsis ナル新屬ヲ創立シタルニヨリ亞科ノ Phyllactineae ノ範圍ヲ擴メサルヘカラサル必要ヲ生セリ

今 E. S. Salmon 氏ノ亞科 Phyllactineae ニ對スル記載ヲ轉寫スルニ

"Mycelium not sending haustoria into the epidermal cells of the host plant, but forming special branches of limited growth, which pass through the stomata into the intercellular spaces of the leaf. Each of these intercellular hyphae sends a single haustoia into the cells of the surrounding tissue (spongy parenchyma)."

ニシテ Uncinulopsis 屬ノ內生菌絲ハ豐富ニシテ葉ノ海綿狀組織ノミナラス柵狀組織ニ迄及ホシ且ツ是等菌絲ヨリ寄主細胞ニ多數ノ吸器ヲ穿入スルヲ以テ上記記載ノ內、內生菌絲ノ制限生長 (limited growth) 及內生菌絲ヨリ

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

各一箇ノ吸器ヲ生ス (sends a single haustoia) ヲ改メ範圍ヲ擴メタリ

擬鈎球菌屬 (Genus Uncinulopsis. Gen. Nov.)

Sawada, K. - 臺灣菌類資料、第七（臺灣博物學會々報、第二十三號、二七頁）一九一六、

菌絲ハ表生及內生ナリ內生菌絲ハ能ク發達シ細胞間空隙ヲ通過シテ發育シ葉肉細胞ニ吸器ヲ穿入ス表生菌絲ヨリ擔子梗ヲ垂直ニ分出ス分生胞子ハ單生ニシテ棍棒狀ヲナシ微細ナル顆粒體ヲ含ム、子嚢殼ハ表生菌絲上ニ生シ大形扁球狀ニシテ多子嚢ヲ含ム附屬器ハ子嚢殼ノ上位ニ輪狀ニ無數ニ生シ頂端鈎狀ヲナス子嚢ハ長形ニシテ數箇ノ子嚢胞子ヲ含ム

記事

粉病菌科 (Erysiphaceae) ノ專問家 E. S. Salmon 氏ハ西曆一九〇五年 Annales Mycologici 第三卷第六號ニ On the Variation shown by the Conidial Stage of Phyllactinia Corylea (Pers.) Kast. ト題シ Phyllactinia corylea 菌ノ分生胞子時代ニハ種々ノ形態ヲ有スルモノアルコトヲ記シ而シテ分生胞子ノ棍棒狀ヲナセルモノヲ本種トナシ他ニ三變種ヲ作レリ即チ分生胞子ノ稍々多角形ヲナセルモノヲ var. angulata トナシ擔子梗ノ厚膜ニシテ剛毛狀ヲナセルモノヲ var. rigida トナシ擔子梗ノ基部螺旋狀ヲナセルモノヲ var. subspiralis トナセリ余ハ大正三年三月出版臺灣總督府農事試驗場特別報告第九號中ニ分生胞子時代ヨリ觀タル粉病菌科ト題シ北海道及臺灣產粉病菌科ニ屬スル種類ヲ分生胞子時代ヨリ觀察シテ屬ノ特徵ヲ擧ケ又二十三種ノ分生胞子時代ヲ記載シ且ツ各屬ノ系統ヲ記セシカ其內臺灣ヨリ得タルえのきノ葉上ニ寄生スル Phyllactinia 菌ハ擔子梗ノ基部螺旋狀ヲナシテ Salmon 氏

ノ P. corylea var. subspiralis ト符合スルモノナレ共 P. corylea 菌トハ著シク其赴ヲ異ニスルモノナルヲ以テ余ハ其變種トナスヨリハ寧ロ一ノ種類トシテ獨立セシムルノ優レルヲ思ヒ變種名ヲ種類名ニ採用シ P. subspiralis ナル新名ヲ以テ呼ヘリ當時分生胞子時代ノミ發見セラレタリシカ大正三年十二月藤黑與三郎氏ハ只二葉ノ上ニ十數箇ノ子嚢殼ヲ發見シタルニヨリ其子嚢殼時代ヲモ知ルニ至レリ

本菌ノ內生菌絲ハ表生菌絲ヨリ分タレテ氣孔ヲ通シテ葉肉細胞間空隙ヲ迷走シテソレヨリ葉肉細胞ニ多數ノ吸器ヲ穿入シ其內生菌絲ノ豐富ニシテ且ツ多數ノ吸器ヲ出ス狀ハ Phyllactinia corylea 菌ノソレニ似ス恰モ Peronospora, Plasmopora 菌等ノ菌絲ノ狀ニ似タル程度ニアリテ却ツテ Oidiopsis ノソレニ近シ又分生胞子ノ狀態ヲ見ルニ Oidiopsis taurica ニ似タル有樣ニアリテ Phyllactinia ト Oidiopsis トノ中間ニ存スルモノヽ如ク又是等ノ條件ニ於テハ亞科 Phyllactineae ヨリ寧ロ亞科 Oidiopsideae ニ隷屬セシメサルヘカラサルカ如キモ亞科 Oidiopsideae ニ於テハ表生菌絲ナクシテ內生菌絲ヨリ直チニ氣孔ヲ通シテ擔子梗ヲ抽出スルモノナルヲ以テ之レニ屬セシムヘカラス寧ロ亞科 Phyllactineae ノ範圍ヲ廣メテ之レニ納メサルヘカラサルモノナリ更ニ子嚢胞子時代ニ就テ觀察スルニ分類上ノ主要條件タル子嚢殼ノ附屬器ハ Uncinula 屬ノソレト全ク等シク單條ニシテ頂端堅ク卷曲セリ

此子嚢胞子時代ノミニ於テハ之レヲ Uncinula 屬ニ納メサルヘカラサルモ其分生胞子時代ニ於テハ Uncinula 屬トハ全ク異ナルノミナラス菌絲ノ寄生狀態ニヨリテ亞科ノ設立セラレタル今日亞科 Erysipheae ニモ納ムヘキ性質ノモノニアラス却ツテ前述ノ如ク亞科 Phyllactineae ニ隷屬セシメサルヘカラサルモノナリ

亞科 Phyllactineae ニハ只一屬 Phyllactinia アルノミニシテ Phyllactinia ハ我菌トハ全ク異レル特徴ヲ有スルモノ

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

ナリ

我菌ハ子嚢胞子時代ニ於テハ Unicinula 屬ノ特徴ヲ有スルトハイヘ其分生胞子時代ニ於テハ Uncinula 屬ト全ク異レルモノナルカ故ニ新ニ Uncinulopsis ナル新屬ヲ創設シテ亞科 Phyllactineae 屬ニ隷セシメントス

五六　えのき裏白澁病菌（第七圖版、一六—二〇）

Unicinulopsis subspiralis (Salm.) Sawada.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料. 第七. (臺灣博物學會々報. 第二十三號.) 1916.

SYN. Phyllactinia corylea (Pers.) Karst. var. subspiralis Salm.

Salmon, E. S. - On the Variation shown by the Conidial Stage of Phyllactinia corylea (Pers.) Karst. (Ann. Mycol. Vol. III. p. 493., 1905.)

SYN. Phyllactinia subspiralis (Salm.) Sawada.

Sawada, K. - 臺灣總督府農事試驗場. 特別報告. 第九號. p. 75., 1914.

病徵　本病菌ハ殆ント年中發生スルト雖モ主ニ秋季ヨリ春季ニ亘リテ新舊ノ葉ヲ撰ハス發生ス葉ノ裏面ニ小形ナル粉狀塊カ多數群生シ初メ小範圍ニ止マレトモ後ニハ葉ノ全裏面ヲ占ムルニ至ル而シテ其發生部ノ葉表ハ褪色トシテ黃色トナリ遂ニハ古キ部分ヨリ褐色ニ枯死ス一叢ヲナセルえのきノ藪ノ葉ハ殆ント悉ク侵サレ早ク落葉セシメラル、コト稀ナラス

病原菌　葉裏ニ生シ白粉狀ノ小叢ノ密群ヲナシ永存シ表生及內生菌絲ヲ有ス

內生菌絲ハ氣孔ヲ通過セル菌絲ニヨリテ表生菌絲ト聯絡シ葉肉細胞間空隙ヲ迷走シ無色隔膜ヲ有シ直徑四—七

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

ミューアリ葉肉細胞内ニ多クノ吸器ヲ穿入ス吸器ハ棍棒狀ニシテ直又ハ彎曲シ大サ四―八・五×三―三・五ミューアリ表生菌絲ハ無色分枝シ隔膜ヲ有シ直徑五―七ミューアリ擔子梗ヲ其上方ヨリ垂直ニ分出ス

擔子梗ハ圓柱狀ニシテ長ク基部螺旋狀ヲナシ大サ七五―一一二×六―七ミューアリ頂ニ分生胞子ヲ單生ス

分生胞子ハ棍棒狀（頂圓頭）乃至卵狀紡錐形（頂鈍頭）ニシテ何レモ基部切斷形、無色單胞、平滑ニシテ微細ナル顆粒體ヲ充シ大サ四九―九二×一五―二二ミューアリ

子嚢殼ハ葉裏ノ菌絲層上ニ群生ス黑色扁球狀直徑一八〇―二五〇ミューアリ二〇―三二箇ノ子嚢ヲ藏ス子嚢殼壁ヲ構成スル細胞ハ多角狀ニシテ大サ一二―一八×一〇―一四ミューアリ附屬器ハ子嚢殼ノ上方ニ輪狀ニ密生シ其數極メテ多ク普通二〇〇又ハ以上ニ達シ單條無色、平滑、薄膜ニシテ中央部稍々太ク頂端堅ク卷曲セリ長サ一三五―一七二ミューアリ直徑四―五ミューアリ

子嚢ハ圓柱狀乃至卵狀長橢圓狀ニシテ斜形ヲナスモノアリ基部ニ顯著ナル子嚢柄ヲ具ヘ大サ六四―一〇八×二七―三九ミューアリ常ニ三箇ノ子嚢胞子ヲ含ム

子嚢胞子ハ無色、卵狀長橢圓形乃至圓柱狀ニシテ兩端圓頭、顆粒體ヲ充實シ大サ二八―三八×一五―二〇ミューアリ

寄主植物

えのき（Celtis sinensis Pers.）ノ葉ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內埔庄　明治四十年十二月一日　鈴木力治

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

臺北廳頂內埔庄	明治四十四年四月二十五日	澤田兼吉
同　同	大正二年十二月二十四日	澤田兼吉
同　同	大正三年十二月七日	藤黒與三郎
同　同	大正三年十三月十四日	澤田兼吉
同　溪仔口庄	大正三年十二月二十日	藤黒與三郎
同　古亭庄	明治四十一年十一月十六日	澤田兼吉
同　觀音山	大正四年一月十日	澤田兼吉
同　同	大正四年一月十日	藤黒與三郎
桃園廳霄裡	大正三年十月十七日	澤田兼吉
新竹廳新埔	大正四年二月十八日	澤田兼吉
臺中廳東山庄	大正六年六月十二日	澤田兼吉
嘉義廳鹽水港	明治四十一年十月二十五日	澤田兼吉
同　田寮	明治四十一年十月二十六日	澤田兼吉
臺南廳蔴荳	明治四十一年十月二十八日	澤田兼吉

分布　印度、支那(?)、日本、臺灣

記事

一、本菌ノ子嚢胞子時代ハ Uncinula 屬ノ種類ト殆ント等シ而シテ既知 Uncinula 屬ノ種類中我菌ニ最モ近親

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

ナルハ U. Polychaeta (Berk. et Curt.) Ellis. 菌ナリ今該菌ニ就テ Tracy, Galloway 及 Salmon 氏ノ記スル所ト我菌トヲ比較スルニ

	菌絲層	子嚢殼	附屬器ノ數	子嚢數	子嚢ノ大サ	子嚢胞子	子嚢胞子數
Tracy及ヒGalloway	葉裏	二五〇―三〇〇	二〇〇又以上	五〇	――	二六―三〇×一一―一四	二
Salmon	葉裏	二二五―三三〇 (二五五)	二〇〇(約)	三四―六六	七〇―八四×三〇―三六	二三―三〇×一三―一四	二―三(四)
澤田	葉裏	一八〇―二五〇	二〇〇又以上	二〇―三二	六四―一〇八×二七―三九	二八―三八×一五―二〇	三

上表ヲ通覽スルニ Salmon 氏ト Tracy 及 Galloway 氏トノ記スル所ハ殆ント相一致シ只子嚢胞子ノ數ニ於テ差アルノミナリ又我菌ハ附屬器數ニ於テ相一致スルモ子嚢殼ハ著シク小形ニシテソレニ含マル、子嚢數モ亦少ク之ニ反シテ子嚢及子嚢胞子ハ共ニ大形ナリ又一子嚢內ニ含マル、子嚢胞子ノ數ニ差アリ一子嚢中ニ含マル、子嚢胞子ノ數ニ就テ Salmon 氏ニ從ヘハ北米產ノモノハ普通二箇ニシテ極メテ稀ニ三箇又ハ四箇ナリ三箇ノ場合ハ一箇ハ成熟セスシテ終リ四箇ノ場合ハ悉ク不成熟ナリトシ又日本及支那產ノモノハ常ニ二箇ヲ含メトモ時ニ二箇ヲ含ムコトアリトセリ卽チ Salmon 氏ガ北米產ト日本及支那產トヲ同一種トナセシハ此理由ニヨル

臺灣產ノモノハ日本及支那產ト等シク常ニ三箇ヲ含メリ

Salmon 氏ノ U. polychaeta ニ對スル特徵ハ卽チ

"Very distinct in the large perithecia—the largest in the Genus—the closely crowded appendages,

more or less attenuated upwards into the small closely involute apex, and the very numerous 2—3-spored asci."

ヨリスレバ我菌ハ當然之ト同種トナサヾルヘカラサルカ如キモ如何ニ國ノ東西ヲ異ニスレハトテ一種ノ菌類ニ斯ノ如キ差別ヲ生スベキニ非ラス、此點ノミナラス一子嚢殼内ニ含マル、子嚢ノ數ハ餘リニ少ナク猶子嚢殼ハ小形ニシテ子嚢及子嚢胞子ハ却ツテ大形ナルニ於テ異ナル Salmon 氏ノ記事ニヨリテ支那產えのきノ粉病菌ハ我菌ト等シキモノ、如ク思ハル、モ兎ニ角 Uncinula polychaeta (B. et. C.) Ellis 菌トハ異レル種類ナリト思ハサルヲ得ス

二、本菌ハ內地北海道地方ノえのきニ發生スルモノ、如シ

病名

和名 えのき裏白澁病

針球菌屬 (Genus Phyllactinia.)

五七 桑裏白澁病菌 (第七圖版、二一)

Phyllactinia corylea (Pers.) Karst.

Salmon, E. S. - Monograph of Erysiphaceae. p. 224., 1900.

Salmon, E. S. - On the Identity of Ovulariopsis Pat. and Hariot. with the Conidial Stage of Phyllactinia Lév. (Ann. Mycol. Vol. II. p. 438.) 1904.

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

Salmon, E. S. - On the Variation shown by the Conidial Stage of Phyllactinia corylea (Pers.) Karst. (Ann. Mycol. Vol. III. p. 493.) 1905.

Hori, S. - 農作物病學. p. 262., 1904.

Duggar, B. - Fungous Diseases of Plants. p. 231., 1909.

Ideta, A. - 日本植物病理學. p. 215., 1909.

Butler, E. J. - Mulberry Disease caused by Coryneum Mori Nom. in Kashmir with Notes on Other Mulberry Diseases. p. 12., 1909.

Sawada, K. - 臺灣總督府農事試驗場. 特別報告. 第九號. p. 72., 1914.

Miyake, I. - 桑ノ菌類ニ就テ (蠶業試驗場報告. 第一卷. 第五號. p. 308.) 1916.

SYN. *Phyllactinia guttata Lév.*

Cooke, M. - Handb. of British Fungi. Vol. II. p. 646., 1871.

SYN. *Phyllactinia suffulta (Reben.) Sacc.*

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. I. p. 5., 1882.

Winter, G. - Rabh. Kryptogamenflora von Deutschl., Oesterr. und der Schweiz. Bd. I. Abt. 2.p. 42., 1887

Frank, A. B. - Die Krankh. der Pflanzen. Bd. II. p. 260., 1896.

Prillieux, E. - Malad. des Plantes Agricoles. Tome II. p. 29., 1897.

Massee, G. - Diseases of Cultiv. Plants and Trees. p. 154., 1910.

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

SYN. *Phyllactinia suffulta Sacc. var. moricola P. Henn.*

P. Hennings. - Fungi Japonici. (Engler's Bot. Jahrbuch., Bd. XXVIII. p. 271.) 1900.

SYN. *Ovulariopsis moricola Delac.*

Delacroix, G. - Sur le "Blanc" des Feuilles de Murier de Madagascar produit par Ovulariopsis moricola Nov. Sp. (Bull. Soc. Myc. France. Tome XIX. p. 342 - 346.) 1903.

SYN. *Phyllactinia corylea Sacc. et Syd.*

Miyake, I. - Studies in Chinese Fungi. (Tokio Bot. Mag. No. 303. p. 54.) 1912.

病徵 冬春季卽チ北部臺灣ニ於ケル年内ノ最モ濕氣多キ時期ニ此蔓延甚シク充分成長シタル葉又老葉ノ裏面ニ斑斑圓狀ニ擴カル白粉ヲ布ケル如クナリ其部分ノ葉表ハ褪色シテ黄變シ葉ヲ早落セシム此場合ニ於テハ損失著シカラサルモ春季稍々若キ葉カ侵サル、時ハ採葉上多少ノ影響ヲ蒙ムルコトアリ養蠶家ノ言ニヨレハ此病葉ハ蠶ニ與フルモ食ハストイフ

病原菌 菌絲ハ葉ノ裏面ニ生シ白色乃至灰白色薄キ又ハ厚キ膜層ヲ作リ永存的ナリ表生菌絲ハ絲狀ニシテ疎ニ隔膜ヲ有シ直徑四―五ミューアリ內生菌絲ハ寄主細胞間空隙ヲ通過シ無色絲狀ニシテ直徑五―六・五ミューアリ擔子梗ハ表生菌絲ヨリ垂直ニ上方ヨリ分出シ圓柱狀細長ニシテ大サ八五―三二〇×四・五―七ミューアリ分生胞子ハ單生ニシテ棍棒狀ヲナシ頂ニ著シキ乳頭突起ヲ有シ基端切斷セラレ無色單胞稍々粗面ニシテ圓狀ノ空胞ヲ含ミ大サ五六―一一三×二〇―三二ミューアリ

子囊殼ハ葉ノ裏面ニ表生シ、散生、扁球狀、暗褐色乃至黑色ニシテ直徑一七〇―二一〇ミューアリ內ニ十數箇ノ子

嚢ヲ含ム

附屬器ハ子嚢殼ノ赤道ニ近ク周圍ニ生シ其數八―一三アリ針狀ニシテ剛直、基部球狀(三〇―三六×三〇―三九ミュー)ニ膨大シ大サ二一九―三一五×七・五―一〇ミューアリ

子嚢ハ長楕圓狀乃至倒卵狀長楕圓ニシテ短柄ヲ有シ無色薄膜大サ七五―八四×三五―四三ミューアリ普通二箇ノ子嚢胞子ヲ含ム子嚢胞子ハ楕圓形、卵狀、乃至卵狀長楕圓、單胞、平滑、無色乃至藁色ニシテ内ニ顆粒體ヲ充シ大サ二七―四〇×一九―二六ミューアリ

寄主植物

たいわんはんのき(Alnus formosana (Burkill.) Makino.)

のぶだう(Vitis heterophylla. S. et Z.)

パ、ヤ(蕃瓜樹).(Carica Papaya L.)

はうららいけま(Cynanchum formosanum Hemsl.)

くは(桑)(Morus alba L.)

なし(Pirus sinensis Lindl.)ノ葉ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

〔たいわんはんのき〕

臺北廳頂内埔庄	大正三年十一月三十日	藤黒與三郎
同　同	大正三年十二月二十日	澤田兼吉

〔のぶだう〕

臺北廳頂內埔庄　大正二年三月十九日　澤田兼吉

〔パヽヤ〕

臺北廳頂內埔庄　明治四十年十二月十一日　鈴木力治

同　同　明治四十五年一月二十四日　澤田兼吉

〔はうらいいけま〕

臺北廳頂內埔庄　明治四十四年十二月十八日　澤田兼吉

〔桑〕

臺北廳古亭庄　大正三年十二月十四日　藤黑與三郎

同　頂內埔庄　明治四十二年十二月二十二日　澤田兼吉

同　同　明治四十三年十一月三十日　澤田兼吉

同　同　明治四十三年十二月一日　澤田兼吉

同　溪洲　大正三年五月十日　藤黑與三郎

同　同　大正六年三月十三日　澤田兼吉

同　大同　大正六年四月九日　澤田兼吉

宜蘭廳宜蘭　大正六年五月二十一日　澤田兼吉

新竹廳旱坑仔庄　大正六年六月五日　澤田兼吉

臺阿緱廳阿緱　大正六年六月十八日　澤田兼吉

分布　マダガスカル、印度、支那、日本、臺灣

記事

本菌ハSalmon氏ニ從ヘハ寄主植物約百五十種ヲ有シ其寄主植物ニヨリテ分生胞子時代及子囊胞子時代ニ於テ多少ノ差異點ヲ有ストイフ

余ハ臺灣ニ於テ得タル各寄主植物上ノ分生胞子時代ハ各多少其趣ヲ異ニス例ヘハパヽヤヨリ得タル分生胞子ハ幅狹クシテほうらいいけまヨリ得タル分生胞子ハ長クシテ頂端ニ近ク幅廣ク桑ヨリ得タル分生胞子ハ基部比較的幅廣ク且ツ粗面ヲナセリ猶一層研究ヲ要スヘキモノナリ

病名

和名　桑裏白澁病

英名　Mulberry Mildew.

佛名　Blanc du Murier.

擬連鎖菌亞科 (Subfam. Oidiopsideae.)

擬連鎖菌屬 (Genus Oidiopsis.)

五八　蕃椒裏白澁病菌（第七圖版、二二一—二二五）

Oidiopsis taurica (Lév.) Salmon.

Salmon, E. - On Oidiopsis taurica (Lév.), an Endophytic Member of Erysiphaceae. (Ann. of Bot. Vol. XX. p. 187.) 1906.

Sawada, K. - 臺灣總督府農事試驗場. 特別報告. 第九號. p. 77., 1914.

SYN. *Erysiphe taurica Lév.*

Salmon, E. - Monograph of the Erysiphaceae. p. 215., 1900.

病徵 植物ノ殆ント總テノ葉ハ其葉白粉裏ニヲ生シ漸次褐色シテ黄變シ早落又ハ枯葉シ植物ノ生育ニ至大ノ影響ヲ被ル殆ント年中發生ス

病原菌 葉裏ニ白粉狀ノ黴ヲ一面ニ生ス菌絲ハ總テ內生ニシテ細胞間空隙ヲ通過シ無色分枝シ疎ニ隔膜ヲ有シ直徑四—七ミューアリ 此ノ內生菌絲ヨリ寄主細胞內ニ吸器ヲ挿入ス吸器ハ球狀乃至多少瘤塊狀ヲナシ大サ一二—一六×九—一五ミューアリ其柄ハ短細ニシテ大サ四—五×一・五ミューアリ

擔子梗ハ氣孔ヨリ一—五本叢生シ單條又ハ稀ニ分枝シ圓柱狀一—三箇ノ隔膜ヲ有シ一一七—二三〇×六—七ミューアリ分生胞子ハ圓柱狀又ハ稍々圓柱狀ニシテ兩端圓頭又ハ一端鈍頭ヲナスコトアリ無色、單胞、平滑ニシテ單生稀ニ二箇鎖生スルコトアリ微細ナル顆粒體ヲ含ミ大サ六〇—七三×一七—一八ミューアリ 發芽管ニテ發芽シ發芽管ハ直徑四ミューアリ氣孔ヨリ寄主組織內ニ穿入ス

寄主植物

たうがらし (Capsicum annuum L.) ノ葉ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

臺北廳頂內埔庄　明治四十三年六月五日　藤黑與三郎
同　同　大正五年一月十三日　藤黑與三郎
同　同　大正五年二月六日　澤田兼吉
同　同　大正六年十一月十四日　藤黑與三郎
臺北廳和尚州　明治四十一年一月十三日　藤黑與三郎
同　深坑　明治四十一年九月二十九日　藤黑與三郎
嘉義廳山仔頂　大正七年九月二十五日　澤田兼吉

分布　菲律賓、臺灣

病名

和名　蕃椒裏白澁病

被子嚢菌科 (Fam. Perisporiaceae.)

白子煤病菌屬 (Genus Zukalia.)

五九　茶樹星煤病菌

***Zukalia nantoensis* Sawada.**

Sawada, K.－臺灣總督府農事試驗場特別報告、第十一號、一二三頁、一九一五

病徵及病原菌　主ニ葉ノ上面ニ生ジ時ニ裏面ニモ生ズルコトアリ黑色地衣狀ニシテ葉面ニ堅ク附着シ稍〻圓狀ニ

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

擴カリ其直徑普通二―五ミ、メ、アリ

菌絲ハ表生ニシテ煤色、厚膜、直徑約八ミユーアリ隔膜ヲ有シ所々ニ附屬枝（Hyphopodia）ヲ生ズ附屬枝ハ長楕圓狀ニシテ圓頭大サ約一五×九ミユーアリ

子殼及子嚢殼ハ菌絲層上ニ生ジ共ニ黑色球狀ナリ多クハ無柄ナレ共時ニ一八―二五ミユーノ長サアル柄ヲ有スルコトアリ子殼ハ直徑六三―九五ミユーアリテ無數ノ柄子（Stylospore）ヲ含ム柄子ハ楕圓又ハ長楕圓形、單胞、平滑ニシテ淡褐色ヲ帶ヒ二箇ノ油點ヲ有シ大サ六―八×三―四ミユーアリ

子嚢殼ハ直徑一三二―一八〇ミユーアリ多數ノ子嚢ヲ包藏ス子嚢ハ長楕圓狀棍棒狀乃至卵狀長楕圓狀ニシテ短柄ヲ有シ無色大サ三三―四九×一〇―一二ミユーアリ八胞子ヲ含ム

子嚢胞子ハ長楕圓狀乃至棍棒狀ニシテ兩端圓頭又ハ基端鈍頭ヲナスモノアリ中央ニ近ク一横隔アリ上方ノ細胞ハ下方ノ細胞ヨリ幅廣ク無色平滑ニシテ大サ九―一三×三・五―五ミユーアリ

寄主植物

茶樹（Thea chinensis Sims.）ノ葉上ニ生ズ

臺灣ニ於ケル分布

南投廳魚池　明治四十年十月三十日　鈴木力治

同　新城　大正二年十月十七日　藤黑與三郎

分布　臺灣

記事

本屬中ニハ二胞ヲナセル子嚢胞子ヲ有スルモノ數種アルモ何レモ我菌ト符合スルモノナシ

病名

和名　茶樹星煤病

六〇　茶樹煤病菌

Zukalia Theae Sawada.

Sawada, K. - 臺灣總督府農事試驗場特別報告、第十一號、一二二頁、一九一五

病徵及病原菌　葉及枝梢ノ表面ニ一面ニ黑色ナル薄層ヲ生シ同化作用ヲ妨ク此薄層ハ菌絲ノ錯綜シテ織ラレタルモノニシテ菌絲ハ表生初メ淡色後暗褐色トナリ絲狀ニシテ分枝シ隔膜ヲ有シ直徑三―六ミューアリ

子嚢殼ハ菌絲層上ニ生シ黑色球狀ニシテ直徑六七―一三五ミューアリテ多數ノ子嚢ヲ藏シ頂ニ近ク六―八箇ノ剛毛ヲ具フ剛毛ハ暗褐色ニシテ先端稍〻鈍頭五或ハ六箇ノ隔膜ヲ有シ大サ七〇―一〇〇×四ミューアリ　子嚢ハ無色棍棒狀乃至紡錘狀ニシテ大サ六八―九〇×一三―一六ミューアリ八胞子ヲ含ム

子嚢胞子ハ無色、平滑、倒卵狀長橢圓乃至棍棒狀ニシテ三箇ノ横隔ヲ有シ大サ一七―二三×六―七ミューアリ

寄主植物

茶樹（Thea chinensis Sims.）ノ葉及枝梢ノ表面ニ生ズ

臺灣ニ於ケル分布

新竹廳三叉河　明治四十三年五月十日　澤田兼吉

分布　臺灣

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

記事

本屬ノ既知種類ハ二十二種アリ其多クハ熱帶南亞米利加及亞弗利加ニ產シ他ノ數種ハ北米合衆國、濠洲、伊太利、及爪哇等ニ於テ發見セラレタリ然ルニ未タ茶樹ニ發見セラレタルモノナク是等ノ種類ハ我菌ト符合セズ

本病菌ノ菌絲層ニ Capnodium Footii 菌ヲ混スルコトアリ或ハ本菌ハ C. Footii 菌ノ子嚢胞子時代ナラザルカ

病名

和名　茶樹煤病

煤病菌屬 (Genus Meliola.)

六一　柑橘小煤病菌（第八圖版、七—一四）

Meliola amphitricha Fries.

Fries, E. M. - Elench. Fung. II. p. 109., 1828.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. I. p. 63., 1882.

Engler, A. und K. Prantl. - Nat. Pflanzen-fam. Teil. I. Abt. 1. p. 308., 1897.

Hennings, P. - Bot. Jahrb. Bd. XXXII. p. 42., 1903.

Nambu, N. - Tokio Bot. Mag. Vol. XVIII. p. 3.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料. 第五.（臺灣博物學會々報. 第二十號）1915.

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

SYN. *Meliola Montagnei Pat. P. P.*

Gaillard, A. - Le Genre Meliola. p. 85., 1892.

SYN. *Meliola Butleri Syd.*

Sydow, H. et P. et E. J. Butler. - Fungi Ind. Orient. III. (Ann. Mycol. Vol. IX. p. 379.) 1911.

病徵　葉ノ兩面及梢上ニ生シ黑色圓狀ニ擴ガリ普通直徑一―四ミメ、ニシテ決シテ他ノ煤病菌ノ如ク葉全面ニ一樣ニ生スルコトナシ而シテ葉面ニ密着シテ剝取シ難シ之レヲ擴大鏡ニテ窺ヘバ短枝ヲ多數生セル黑色菌絲ノ放射狀ニ擴ガレルト球形ノ小黑點ト毛ノ生スルヲ認ムベシ多クハひめくろかひがらむしニ隨伴シテ生ス

病原菌　菌絲ハ煤色ニシテ隔膜ヲ有シ厚膜ニシテ直徑八―九ミユーアリ多クノ附屬枝ヲ生ス附屬枝ハ互生シ一隔膜ヲ有シ頂圓頭大サ一三―一五×八―九ミユーアリ又變形セル附屬枝ヲモ生ス此變形附屬枝ハ互生又ハ對生シ斜形ナル德利狀ヲナセリ、又菌絲上ヨリ長キ剛毛ヲ生ス剛毛ハ黑褐色不透明ナルカ故ニ隔膜ノ數ヲ認メ難シ直立シ長サ三八〇―六三七ミユー直徑八―一二ミユーアリ其頂端ハ鋭尖ニシテ屢〻二乃至四ノ突起ヲ分ツモノアリ

子囊殼ハ球形黑色ニシテ直徑一四二―二二五ミユーアリ內ニ子囊ヲ叢生ス

子囊ハ長楕圓狀卵狀、倒卵狀又ハ圓狀ヲナシ基端ニ短柄ヲ有シ無色薄膜ニシテ二乃至四箇（普通二箇）ノ子囊胞子ヲ含ミ大サ四五―七八×二三―四七ミユーアリ子囊胞子ハ煤色卽チ暗褐色ニシテ長楕圓狀乃至短圓柱狀、兩端圓頭、四箇ノ隔膜ヲ有シ隔膜ニ於テ縊ヲナシ平滑ニシテ大サ四一―四五×一四―一九ミユーアリ、未ダ分生胞子時代ヲ發見セス

寄主植物

柑橘類（Citrus）ノ葉及梢

外國ニ於ケル寄主植物

Loranthus, Magnolia, Callicarpa, Salacia, Coccoloba, Persea, Psidium, Garria, Cladium, Terminalia, Olea, Bignonia, Osmanthus, Citrus medica.

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳	和尚洲	（椪柑）	明治四十年十月十八日	鈴木力治
同	林日庄	（雪柑）	明治四十年十二月十四日	鈴木力治
同	頂內埔庄	（椪柑）	明治四十三年一月二十九日	澤田兼吉
同	內湖庄	（年柑）	大正五年四月二十五日	藤黑與三郎
同	木柵	（年柑）	大正五年四月二十五日	藤黑與三郎
宜蘭廳	紅紫林		明治四十年七月十八日	鈴木力治
同	礁溪	（年柑）	大正二年五月十九日	澤田兼吉
新竹廳	新埔	（椪柑）	大正二年三月十九日	澤田兼吉
同	太湖	（年柑）	大正二年三月二十日	澤田兼吉
臺中廳	員林	（椪柑）	大正三年二月十日	澤田兼吉
同	同	（椪柑）	大正四年二月十六日	澤田兼吉
同	關帝廳	（椪柑）	大正二年四月二十七日	澤田兼吉

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

南投廳炭寮　（椪柑）　明治四十三年十月七日　澤田兼吉
嘉義廳西螺　（椪柑）　明治四十二年十一月十三日　澤田兼吉
同　同　（柚仔）　明治四十二年十一月十三日　澤田兼吉
同　土庫　（椪柑）　明治四十年五月二十八日　鈴木力治
同　嘉義　（椪柑）　明治四十二年十一月十日　澤田兼吉
同　水屈頭　（椪柑）　明治四十二年十一月十一日　澤田兼吉
同　同　（文旦）　明治四十二年十一月十一日　澤田兼吉
臺南廳蘇荳　（文旦）　明治四十一年十月二十八日　澤田兼吉
阿緱廳阿緱　（椪柑）　明治四十二年十一月六日　澤田兼吉
臺東廳呂家　（柚仔）　明治四十二年四月二十七日　澤田兼吉

分布　佛蘭西、北亞米利加、キユバ、南亞米利加、濠洲、印度、トンキン、日本、小笠原島、臺灣

記事

一、宮部博士ノ厚意ニヨリテ米國フロリダ産 Bignonia capreolata ノ葉ニ生ゼル Meiiola amphitricha Fr. 菌ヲ檢スルニ我菌ト符合セリ只我菌ニアリテハ一子嚢内ニ含マルヽ胞子ノ數ハ普通二箇又ハ三箇ニシテ三箇ノ場合ハ大抵其一箇ハ未熟ニ終ル然レ共米國産ニ於テハ普通二箇乃至四箇含マレテ四箇共成熟スルコト多シ

二、印度ニ於テ柑橘ヲ侵ス煤病菌 Meliola Butleri Syd. ナルモノアリ此記載ヲ見ルニ其子嚢胞子時代ハ全ク我菌ト符合スルモノナリ Sydow 氏ハ之レガ特徴トシテ剛毛ノ先端分岐ストセルモ既ニ Gaillard 氏ノ圖版ニ

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

明記セラル、所ナリ又 Sydow 氏ハ之レガ分生胞子時代ヲモ附記セリ、此分生胞子時代ナル菌類ハ臺灣ニ普ク存在ス然レドモ此菌ハ Meliola amphitricha Fr. トハ關係ナキモノニシテ其菌絲層ハ廣ク擴ガリテ M. amphitricha 菌ノ遠ク及バザル所ナリ臺灣ニ於テモ屢々是等兩者ガ混在スルコトアリ恐ラクハ Sydow 氏ガ之レヲ M. amphitricha 菌ノ分生胞子時代トナセルハ誤ナリ

病名

和名 柑橘小煤病

粉煤病菌屬 (Genus Capnodium.)

六二 茶樹粉煤病菌

Capnodium Footii Berk. et Desm.

Berkeley, M. J. and Desmazières. - On Some Moulds referred by Authors to Fumago. p. 13., 1849.
Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. I. p. 80., 1882.
Watt, sir G. and H. H. Mann. - The Pests and Blights of the Tea-Plant. p. 391., 1903.
Speschnew, N. N. von. - Die Pilzparasit. des Teestrauches. p. 15., 1907.
Delacroix, G. et. A. Maublanc. - Maladies des Plantes Cult. dans les Pays Chauds. p. 426., 1911.
Sawada, K. - 臺灣總督府農事試驗場. 特別報告. 第十一號. p. 125., 1915.

病徵及病原菌 葉ノ上面一面ニ又ハ圓狀ニ密着セル煤狀物ヲ生シ之レガ爲メニ同化作用ヲ妨ケラル菌絲ハ表生ニ

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

シテ若キモノハ稍々無色絲狀ニシテ老成セルモノハ煤色念珠狀ヲナシ隔膜ヲ有シ分枝ス此菌絲ノ錯綜ニヨル菌絲層上ニ多クノ剛毛狀ニ見ユル菌絲束ヲ生ス此菌絲束ハ直立單條又ハ一二回分岐シ高サ二五〇―六〇〇ミューニ達シ直徑基部ニ於テ二〇―三〇ミュー中位ニ於テ一六―二二ミューアリ其各頂端ニ子殼ヲ形成ス子殼ハ長楕圓狀ニシテ縱ニ並ヘル菌絲束ニテ組成セラレ先端淡色基部ニ向ツテ黑色ヲナシ大サ六〇―七〇×二四―二七ミューアリ其內部ヨリ頂端ノ孔口ヲ通シテ微細ナル柄子ヲ溢出ス柄子ハ楕圓狀無色單胞、平滑ニシテ大サ三―四・五×二―二・五ミューアリ Triposporium 其他ノ分生胞子時代ヲ生ズルモ未ダ子囊胞子時代ヲ發見セス

寄主植物

茶樹（Thea chinensis Sims.）ノ葉面上ニ生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳北勢湖　明治四十年七月九日　鈴木力治

分布 歐洲、印度、臺灣

記事

本菌ハ Saccardo 氏 Sylloge Fungorum 第一卷ニ記載サレタルモノト符合ス

病名

和名 茶樹粉煤病

佛名 Fumagine du Théier.

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

毛煤病菌屬 (Gen. Scorias.)

六三　茶樹毛煤病菌

Scorias capitata Sawada.

Sawada, K. - 臺灣總督府農事試驗場特別報告、第十一號、一一三頁、一九一五

病徵及病原菌　葉、枝稍等植物體ノ上面ヲ全ク被ヒテ擴ガリ稀ニ葉ノ裏面ニモ生スルコトアリ黑色ノ短毛ヲ密生セル如キ狀ヲ呈シ葉ノ同化作用ヲ妨ク

菌絲ハ植物ノ表面ニ匍匐シ即チ表生ニシテ煤色稍々念珠狀ヲナシ直徑二・五—五ミューアリ黑色短毛狀ニ見ユルハ子嚢殼ヲ頂生スル菌絲束ナリ此菌絲束即チ子嚢殼柄ハ煤色ニシテ單又ハ一二回分岐シ種々ナル形ヲナスモ概シテ圓錐狀圓柱狀又ハ紡綞狀乃至橢圓狀ヲナス又屢々二箇中央マデ癒合スルモノアリ大サ一一〇—二四七×五二—七五ミューアリ頂縊レヲナシテ子嚢殼ヲ頂生ス

子嚢殼ハ黑色稍々卵狀ヲナシ或ハ球狀ヲナシ大サ六〇—八三×五〇—七八ミューアリ　内ニ數多子嚢ヲ藏ス子嚢ハ棍棒狀、圓頭、無色ニシテ六—八箇ノ子嚢胞子ヲ含ミ大サ三〇—三五×九—一二ミューアリ　子嚢胞子ハ紡綞狀乃至棍棒狀紡錘形ヲナシ兩端鈍頭、無色、三箇ノ隔膜ヲ有シ大サ一〇—一一・五×三—三・五ミューアリ

寄主植物

茶樹（Thea chinensis Sims.）ノ葉、枝梢ノ表面ニ生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂内埔庄　明治四十年十二月十二日　藤黒與三郎

分布　臺灣

記事

一、本菌ハ一子嚢内ニ含マル、子嚢胞子ノ數及其着色如何ニ就テ見ルニ Antennaria 屬ト Scorias 屬トノ中間ニ位スベキモノ、如ク思ハル子嚢胞子ハ充分成熟セル子嚢殼ヨリ得タルモノニ於テモ常ニ無色ニシテ此點ヨリスレバ Scorias 屬ニ納メサルベカラズ又一子嚢内ニ含マル、子嚢胞子ノ數ヨリスレバ六―八箇ヲ含ムヲ以テ四箇ヲ含ム所ノ Scorias 屬ヨリハ Antennaria 屬ニ近キモノ、如シ然レ共 Scorias 屬ハ元 S. spongiosa (Schw.) Fr. ナル一菌ニヨリテ建設セラレタルモノナレバ此屬ノ記載ハ完備セサル點モアルベク之レト親近ナル屬ノミナラズ Perisporiaceae（科）ノ性質ヨリスレバ此屬ノ菌類モ亦四箇以上ノ子嚢胞子ヲ含ム性質アルベキヲ暗示ス余ハ此理由ニヨリテ子嚢胞子ノ數多キニ係ラス我菌ヲ Scorias 屬ニ納メタリ

二、本菌ハ Scorias paulensis P. Henn. 菌ニ近シ然レドモ種々ナル形態ヲナセル柄上ニ頭状ニ生スル子嚢殼及大形ナル子嚢及一子嚢内ニ含マル、子嚢胞子ノ數多キニヨリテ差異ス

病名

和名　茶樹毛煤病

黒脂菌亞族 (Subord. Phacidiineae.)

黒脂菌科 (Fam. Phacidiaceae.)

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

黑脂菌亞科 (Subfam. Phacidieae.)

隱菌屬 (Genus Cryptomyces.)

六四　茶樹枝枯病菌

Cryptomyces Theae Sawada. Sp. Nov.

病徵　茶ノ枝條ヲ侵シ被害部ハ初メ赤褐色トナリ漸次周圍ニ擴カリ又枝ノ上下ニ伸ビテ長サ一セメ乃至六セメ以上ニ達シ褐色ヨリ猶暗褐色ニ變シ遂ニハ灰白色トナリ其表面ニハ大小アル黑色ノ點ヲ多數散生ス初メ皮層部ノミ侵サル、ヲ以テ被害部ノ表面稍ヽ凹陷シ嫩梢ハ綠色ヲ失ヒテ褐變シ漸次內部ヲ侵スヲ以テ新古ノ枝ヨリ生スル芽竝ニ嫩梢ノ嫩葉ヨリ萎凋シ始メ特ニ嫩芽ハ早ク萎凋シ後古葉ニ及ボシテ病枝上ノ葉ハ悉ク褐變枯死シ枝枯病ヲ起ス

臺刈シタル圃場又ハ肥料ヲ多量ニ施用シタル圃場ニ特ニ被害多ク約二三割ノ被害ヲ見ルコトアリ

病原菌　菌絲ハ寄主枝條ノ皮層部ノミナラズ木質部ニモ穿入シ無色ナル極メテ纖細ナル絲狀ニシテ直徑約一ミューアリ

子囊殼ハ散生或ハ群生シレンシズ狀ニシテ漆黑色表面平滑光澤アルモ後稍ヽ凋ミテ其中央梢ヽ隆起シテ丸介殼蟲ノ如キ觀ヲ呈ス成熟スレバ中央ヨリ一二ノ劇裂ヲ生ズ表皮下ニ形成セラレ成熟セルモノ、直徑ハ四〇〇—七〇〇×二〇〇—四〇〇ミューアリ又其高サハ八〇—一二〇ミューアリ多量ノ側絲ト其間ニ介在セル子囊トヲ藏ス

子囊ハ圓柱狀、棍棒狀、頂圓頭無色ニシテ大サ七二—九六×一二—一五ミューアリ八胞子ヲ藏ス

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

子嚢胞子ハ短圓柱狀、兩端圓頭、直又ハ多少彎曲シ平滑、無色、單胞ニシテ粗キ顆粒體又ハ二箇ノ顆粒狀含有物ヲ含ミ大サ一八―二〇×四―五ミューアリ 側絲ハ夥シク存在シ絲狀ニシテ單條端頂膨大スルコトナク又分岐スルコトナク無色ニシテ大サ八〇―九六×二―二・五ミューアリ

寄主植物

茶樹（Thea chinensis Sims.）ノ枝ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

桃園廳安平鎮　大正八年六月三日　井上房邦

分布　臺灣

記事

Cryptomyces 屬ノ既知種類ハ約十二種アリ而シテ是等ノ多クハ葉ヲ侵スモノニシテ枝ヲ侵スモノハ只 C. maximus (Fr.) Rehm. 一種アルノミナリ我菌ニ最モ近キハブラジル産 C. Leopoldinus Rehm. 菌ナリ然レドモ其子嚢殼ハ甚ダ大ニシテ子嚢モ亦甚ダ長ク子嚢胞子ハ粘質物ヲ被ヒテ兩端鋭頭、側絲ノ頂端ハ稍々彎曲シ葉ヲ侵スニヨリテ異ル又 Cryptomyces 屬ノ種類ニハ未ダ茶樹又ハ近似ノ植物ニ寄生セル記事ナシ依ッテ余ハ之レヲ新種ト認メタリ

病名

和名　茶樹枝枯病

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

椀菌亞族 (Suborder Pezizineae.)

釘形菌科 (Fam. Helotiaceae.)

菌核屬 (Genus Sclerotinia.)

六五　葱小菌核病菌（第九圖版、六―一二）

Sclerotinia Allii. Sawada.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料、第四（臺灣博物學會々報、第十九號）一九一四

病徵　冬春季葱ハ圃場ニアリテ若キモノト成長セルモノトヲ問ハズ葉及花梗カ先端又ハ中位ヨリ稍褪色セル枯死萎凋セル部分ヲ生ジ其病班漸次擴大シテ遂ニハ全葉又ハ全花梗ガ全ク枯死シテ下垂シ後漸次漂白セラレテ白色トナル、幼植物ノ圃場ニ於テ烈シク發生スルトキハ葉漸次枯死シテ一株一二葉ヲ殘スニ止マリ圃場ハ恰モ疎植セル如キ狀トナリ又老成セル植物ノ圃場ニアリテハ漂白セラレタル葉及花梗ガ直立シテ大半白葉ニ見エ猶手入ヲ怠リタル場合ニ於テハ殆ント全部白葉トナリテ僅カニ綠葉ヲ殘スニ至ルコトアリ、冬春季ハ本菌ノ發生時期ナリトハ云ヘ北部臺灣ニ於テハ此時期ハ霖雨引續キ空氣ハ水濕ニ飽和セラレタル狀態ナルヲ以テ斯ク烈シク侵サル、モノナリ

罹病初期ニ於ケル葉ヲ取リ外部ヲ檢スルモ何等一物ヲモ認メザルモ之ヲ裂キテ内面ヲ檢スレバ白色蜘蛛巢狀ノ菌絲僅カニ存在スルヲ認ムベシ而シテ之レヲ取リテ顯微鏡ニテ窺フモ全ク胞子ノ存在ヲ認メス只無色有隔ノ菌絲ヲ見ルニ止マルノミナリ更ニ病葉枯死シテ白色トナル時期ニ至レバ其表面（表皮下ニ）所々ニ乳白色ノ扁平ナル小塊

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

タル如キ見エトナリ枯葉ノ白色ナルニ於テ一層顯著ニ認メラル

此黒色扁平ナル小塊ハ本菌ノ菌核ニシテ形成數ケ月後又ハ翌年ニ至リテ多濕ナル時ニ子嚢盤ヲ形成シ再ビ蔓延ス

病原菌　菌絲ハ寄主細胞ヲ貫通シ又葉ノ内空内ニ蜘蛛巣狀トナリテ存在シ外面ニ現ハル、コト少ナシ無色ニシテ隔膜ヲ有シ分枝シ多クノ空胞ヲ含ミ直徑三—一四ミューアリ、菌核ハ表皮下ニ生シ薄片狀普通楕圓狀乃至長楕圓狀ニシテ又卵狀棍棒狀稀ニ甚シク長形ヲナスモノアリテ一定セス大サ普通一・五—二×一ミメ、最小形ナルモノハ〇・五×〇・三ミメ、最大ナルモノハ一五×二・五ミメ、アリ外面黒色ニシテ肉眼ニテハ表面平滑ノ如クナルモ擴大鏡ニテ撿スレバ針先ヲ以テ衝キタル如キ無數ノ細點ヲ滿面ニ生シ内部ハ淡紅白色ナリ菌核ノ斷面薄層ヲ作リテ檢スルニ最外層ノ一列ニ並ベル細胞ハ黒色ニシテ亞層ヨリ内部ハ錯綜セル無色ノ菌絲ガ互ニ融合シテ組成セラル其菌絲ハ直徑ハ約三—三・五ミューアリ

菌核ハ圃場ニ於テ葱ノ葉ニ附着シタル儘ニテ子嚢盤ヲ形成シ又濕室内ニ置クトキハ數ケ月後又ハ翌年ニ至リテ子嚢盤ヲ形成ス

子嚢盤ハ菌核ノ大小ニヨリ其ノ生スル數ニ多少アリト雖モ一菌核上ニ普通四—五箇多キハ十二箇ヲ生ス極メテ小形ニシテ飴色高サ一—三ミメ、アリテ頂皿狀ヲナシ直徑〇・八—二ミメ、アリ柄ハ平滑ニシテ基部ノ一小部分ノミ黒色ヲ呈ス子嚢ハ圓柱狀ニシテ基部ニ向ッテ少シク狹マリ無色大サ一八四—二一二×一二—一八ミューアリ八胞子ヲ含ミ多クノ側絲ヲ介在ス、側絲ハ子嚢ト殆ンド等長ニシテ其中位又ハ以下ヨリ二三分枝ヲ生シ隔膜ヲ有シ其頂端膨大スルコトナシ

子嚢胞子ハ長楕圓形、兩端圓頭、單胞、平滑、無色ニシテ屢々兩端ニ近ク不明瞭ナル微細ナル顆粒體群ヲ含ムコ

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

トアリ大サ一七—二一×七—一一ミューアリ

寄主植物

ねぎ (Allium fistulosum L.)

たまねぎ (Allium Cepa L.) ノ葉及花梗ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

〔葱〕

臺北廳	頂內埔庄	明治四十二年三月十五日	藤黑與三郎
同	同	明治四十四年四月二十三日	澤田兼吉
同	同	明治四十五年五月十七日	藤黑與三郎
同	同	大正元年十二月二十一日	澤田兼吉
同	同	大正二年一月二十九日	澤田兼吉
同	同	大正二年三月七日	澤田兼吉
同	同	大正二年三月二十六日	澤田兼吉
同	同	大正二年十二月一日	澤田兼吉
同	同	大正三年三月二十五日	藤黑與三郎
同	同	大正四年二月十五日	澤田兼吉
同	同	大正五年三月二十七日	澤田兼吉

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

臺北廳古亭庄	大正三年十二月十四日	藤黒與三郎
臺北廳溪洲	大正五年四月四日	黄　金
桃園廳桃園	大正三年二月十三日	澤田兼吉

〔たまねぎ〕

臺北廳頂内埔庄	大正二年五月二十三日	石原義雄

分布 日本（九州）臺灣

記事

一、Sclerotinia 屬菌類ニシテ葱ニ寄生スルモノ只一種アリ即チ S. Libertiana Fuck. 是ナリ臺灣ニ於テモ屢々之レヲ發見ス然レ共本菌トハ性質ヲ異ニシ菌核ハ寄主ノ外面ニ生シ塊状ニシテ子嚢盤ハ大形ニシテ其柄モ亦長ク子嚢及子嚢胞子ハ本菌ヨリ著シク小形ナリ

二、葱屬植物ニ寄生スル既知 Sclerotinia 菌ハ八種アリ其内本菌ニ最モ近キハ S. Brassicae Pers. 菌ナリ然レ共其菌核ハ緣部ヲ有シ内部後ニ黒色トナルニヨリテ異ナレリトス

病名

和名　葱小菌核病

六六　菌核病菌

Sclerotinia Libertiana Fuck.

Fuckel. - Sym. Myc. p. 331, 1869.

de Bary, A. von. - Ueber einige Sclerotien und Sclerotienkr. (Bot. Zeit. 1886. Nr. 22 - 27.) 1886.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. VIII. p. 196., 1889.

Humphrey, J. E. - Diseases of Cucumber Plant, A Sclerotium Disease. (Massach. Agric. Expt. St. Rept. X. p. 212.) 1892.

Frank, A. B. - Krankh. der Pflanzen. Bd. II. p. 490., 1896.

Rehm, H. - Rabh. Kryptogamenflora. Bd. I. Abt. III. p. 816., 1896.

Prillieux, Ed. - Malad. de Plantes Agric. Tome II. p. 401., 1897.

Stone, G. E. and R. E. Smith. - Drop of Lettuce. (Massach. Agr. Expt. St. Rept. IX. p. 79.) 1897.

Smith, R. E. - Botrytis and Sclerotinia; Their Relation to Certain Plant Disease and to Each Other. (Bot. Gaz. Vol. XXIX. No. 6. p. 369.) 1900.

Shirai, M. - 最近植物病理學. p. 375., 1903.

Yamada, G. - 植物病理學. p. 352., 1904.

Freeman, E. M. - Minnesota Plant Diseases. p. 320, 322, 380., 1905.

Osterwalder. - Zeitschr. fuer Pflanzenkr. Bd. XV., 1905.

Hanzawa, M. - 大豆菌核病ニ就テノ研究 (北海道農會報. 第六卷. 第六十二號.) 1906.

Lindau, G. - Handb. der Pflanzenkrankh. Bd. II. p. 293., 1908.

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

Duggar, B. M. - Fung. Diseases of Plants. p. 198., 1909.

Ideta, A. - 日本植物病理學. p. 327., 1910.

Stevens, F. L. and J. G. Hall. - A Serious Lettuce Disease and a Method of Control. (North Carol. Agric. Expt. St. Technical Bull. 8.) 1911.

Westerdijk. J. - Med. uh Phytopath. Lab. W. C. Scholten, Amsterdam., 1911.

Sawada, K. - 臺灣總督府農事試驗場. 特別報告. 第四號., 1912.

Stevens, F. L. - The Fungi which cause Plant Disease. p. 141., 1913.

Harshberger, J. W. - Text Book of Mycol. and Plant Pathol. p. 522., 1917.

SYN. Sclerotinia sclerotiorum Lib.

Tubeuf, K. F. von. - Diseases of Plants. p. 263., 1897.

Schroeter, J. - Engler, A. und K. Prantl, - Naturl. Pflanzenfam. Teil I. Abt. 1. p. 199., 1897.

Hori, S. - 農事試驗場成績. 第十四號. 1899.

Hori, S. - 農作物病學. p. 241, 253., 1903.

SYN. Sclerotinia sclerotiorum Mass.

Massee, G. - Diseases of Cultiv. Plants and Trees. p. 266., 1910.

SYN. - Peziza Kauffmanniana Trichom.

Peziza Kauffmanniana, seine Neue aus Sclerotium stammende und auf Hanf Schmarotzende Besherpilz-

species. (Bull. Soc. Imp. Natur. de Moscou.) 1868.

SYN. *Rhizoctonia Napi West.*

Shaw, F. J. F. and S. L. Ajrekar. - The Genus Rhizoctonia in India. (Mem. of Dept. of Agric. in India. Bot. Ser. Vol. VII. No. 4.) 1915.

病徵 本病菌ハ十一月中旬ヨリ五月下旬ニ亘リテ發生シ頗ル多數ノ植物ヲ侵シ其地上部ノ何レノ部分ヲ撰ハス侵害シ植物ノ一部又ハ全植物體ヲ枯死セシム其被害實ニ多大ニシテ冬春季ニ於ケル最モ烈シキ作物病害ナリトス葉ニ現ハレタル場合ハ汚褐色圓狀ニ擴カル病斑ヲ生シ其表裏ニ多少白色ノ菌絲ヲ疎ニ生シ迅速ニ擴カリテ數日ニシテ葉腐敗シ又ハ大ナル葉ニアリテハ一部腐敗シテ垂下シ他ノ葉ニ接觸スレハ直チニ他葉ニ傳染シ又葉ヨリ莖ニ及ホシテ枯死セシメ幼苗ニアリテハ一二日ニシテ倒伏枯死シ木生ノ堅キ苗ニアリテハ四五日乃至約一週間ニシテ全ク枯死ス

萵苣ノ如キ軟キ植物ニアリテハ充分生長セルモノニアリテモ週日ナラスシテ全ク腐敗シ去リ被害五割以上ニ達スルコト珍ラシカラス、甘藍、萵苣、白菜等ノ如キ結球スルモノニアリテ葉ハ全ク腐敗シ去リテ只外面侵害サレテ汚褐色トナレル球葉カ髑髏ノ如ク多數散棄セラルヽ慘狀ヲ呈スルコトアリ甘藍栽培地ニ於テ三四割ノ被害ヲ被ムルコト屢々ナリ

又桑、佛桑花、ロゼル、オクラ等ノ如キ木質ヲ帶ヘル植物ニアリテハ屢々枝條ニ現ハレ被害部變色シ其處ニ白色菌絲ヲ疎ニ生シ漸次上下ニ擴カリ局部以上ノ部分ハ枯死シ被害部ノ稍々古キ部分ハ漸次ニ漂白セラレ皮層部ニ於ケル纖維カ分離シテ亂ルヽヲ常トス又軟キ草生ノ莖ニアリテハ忽チ被害部ヨリ折曲下垂ス被害部ニ於テ屢々白色

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

菌絲カ集塊シテ初メ白色漸次灰色遂ニ黒色トナル鼠糞狀ノ塊卽チ菌核ヲ形成ス莖ニアリテハ其外面ニ形成セラル、コト甚タ少ナク却ツテ其髓部ニ形成セラル菌核ノ形ハ全ク一定セス大ナルアリ小ナルアリ長キアリ短キアリ殊ニ髓部ニ形成セラル、モノハ其髓部ノ形ニヨリテ支配セラル此菌核ハ本菌ノ越年繁殖器關ナリ

病原菌　菌絲ハ植物ノ組織内及外面ニ蔓延シ細胞膜ヲ貫通シ一種ノ酸ヲ分泌ス無色隔膜ヲ有シ多分枝シ大小ノ空胞ヲ含ミ直徑四―一八ミュー普通八―一三ミューアリ

菌核ハ植物ノ外面及髓部又ハ空間ニ形成セラレ黒色ニシテ内部帯白色形及大小不定ナリ、概シテ外面ニ生スルモノハ扁平、圓狀、融合狀、曲形等ニシテ髓部ニ生スルモノハ圓柱狀又ハ鼠糞狀ヲナセリ甘藍ヨリ得タル菌核ノ大サハ

一・五×二・〇ミメ、　二・五×三・五　四・〇×八・〇　四・〇×九・〇
七・〇×一二・〇　八・〇×一一・〇　七・〇×一八・〇　六・〇×一九・〇
五・〇×二五・〇　九・〇×一九・〇

等アリ又オクラノ髓内ニ形成セラレタルモノ、大サハ

三・〇×一八・〇ミメ、　二・五×一九・〇　三・〇×二五・〇　五・五×二二・〇
四・〇×三五・〇

等アリ又時計草ノ髓ヨリ得タルモノ、大サハ

〇・七×二・〇ミメ、　〇・七×〇・七　〇・八×三・〇

等アリ又向日葵ノ花部ヨリ得タルモノ、大サハ

五・〇×一〇・〇ミメ、　九・〇×一四・〇　一八・〇×二五・〇　二九・〇×三八・〇
一九・〇×四〇・〇　三六・〇×五五・〇

等アリテ大小不同ナリ

菌核ハ皮層部ト心髓部トニ分タレ皮層部ハ黒色多角形ノ三四層ニ竝ヘル柔組織狀ノ細胞ヨリ成リ其細胞ハ直徑七—一八ミユーアリ 心髓部ハ無色ナル菌絲カ密ニ縱橫ニ走リテ空隙ヲ殘サス相互ニ融合シテ密着シ光線ヲ屈折ス其菌絲ノ直徑ハ明瞭ニ測定シ難キモ四—一〇ミユーアリ此菌核ハ大約一ケ年後ニ於テ發芽シ子嚢盤ヲ形成ス子嚢盤ハ一箇ノ菌核ヨリ大抵一乃至六、七箇ヲ生シ初メ圓柱狀ノ突起ヲ生シ其頂漸次中央凹陷セル淺キ漏斗狀ヲナシ後上面平坦或ハ凸面ヲナスニ至ルコトアリ少シク隆起スルカ或ハ平坦ナリ時ニ畸形ナルモノヲ生スルコトアリ其緣邊波狀ヲナスモノ又ハ緣邊數多分裂スルモノアリ飴色ニシテ直徑三—九ミメ、アリ 柄ハ子嚢盤ノ中央ニ着生シ同色ニシテ平滑其長サハ菌核カ地中ニ埋沒セラレタル深淺ニヨリテ異ナリ普通四—一三ミメ、直徑〇・五—一ミメ、アリ 强キ日向性ヲ有ス

子嚢盤ノ上面ニハ一面ニ子嚢ヲ形成ス子嚢ハ圓柱狀棍棒狀ニシテ頂圓頭、基部ニ漸細シ、無色ニシテ大サ九四—一三八×六—九ミユーアリ 八胞子ヲ含ム無數ノ絲狀體ヲ介在ス、絲狀體ハ絲狀ニシテ單條二—六箇ノ隔膜ヲ有シ大サ一二〇—一三五×三ミユーアリテ密ニ竝列シ子嚢形成ニ先チテ生シテ子嚢ヲ保護ス

子嚢胞子ハ橢圓形乃至長橢圓形ニシテ時々卵狀ヲ帶フルモノアリ無色透明、單胞、平滑ニシテ大サ九—一四×三—六ミユーアリ 之レヲ蒸溜水中ニ置ク時ハ一日後ニシテ發芽管約五ミユーノ長サニ達シ三日後ニシテ約七ミユーニ達シ後發育セザルモ水飴五%水溶液中ニ置キタルモノハ一日後ニ於テ發芽管一八〇ミユーノ長サニ達シ三日後ニハ頗ル長ク

伸長シ全數ノ五分ノ三ハ先端數多ノ分岐ヲ生シテ擔子梗ヲ作ル擔子梗ハ大サ六—一〇×二・五—三・五ミューアリテ德利狀ヲナシ其頂端ニ連鎖狀ニ分生胞子ヲ形成ス其分生胞子ハ無色、球形、單胞ニシテ内ニ一箇ノ油點ヲ有シ直徑二—三・五ミューアリ又子嚢胞子ノ發芽管ニシテ分生胞子ヲ形成セサルモノハ直徑三—四ミューアリ隔膜ヲ有シ養分ヲ得テ漸次大サヲ増シ又長サヲ増シ若シ物體ニ接觸スル時ハ菌絲ノ一部ハ多分枝シテ總房狀ノ觸器ヲ形成ス

臺灣ニ於ケル寄主植物

	Acanthaceae	爵牀科	
1.	Lepidagathis formosensis Clark.		うろこまり
	Aizoaceae	蕃杏科	
2.	Tetragonia expansa Ait.		つるな
	Amarantaceae.	莧科	
3.	Alternanthera sessilis R. Br.		つるのげいたう
4.	Amarantus viridis L.		あをびゆ
	Apocynaceae.	夾竹桃科	
5.	Vinca rosea L.		にちにちくわ
	Borraginaceae.	紫草科	
6.	Bothriospermum tenellum Fisch. et May var. asperugoides Max.		はないばな
	Campanulaceae.	桔梗科	

7.	Lobelia radicans Thunb.		みぞかくし
	Capparidaceae.	白花菜科	
8.	Pedicellaris viscida (Bge.) Matsum.		ふうてふさう
	Chenopodiaceae.	藜科	
9.	Beta vulgaris L.		ふだんさう
10.	Chenopodium ficifolium Smith.		こあかざ
11.	Spinacea oleracea L.		はうれんさう
	Commelinaceae.	鴨跖草科	
12.	Commelina nudiflora L.		しまつゆくさ
	Compositae.	菊科	
13.	Arctium Lappa L.		ごばう
14.	Bidens pilosa L.		しろばなせんだんぐさ
15.	Blumea sericans Hook. f.		しまじわうぎく
16.	Calendula arvensis L.		きんせんくわ
17.	Centaurea Cyanus L.		やぐるまぎく
18.	Centipeda orbicularis Lour.		ときんさう
19.	Chrysanthemum cinerariifolium (Trev.) Bocc.		しろばなむしよけぎく

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

20. Chrysanthemum coronarium L.	しゆんぎく
21. Cirsium japonicum DC.	のあざみ
22. Crepis japonica Benth.	おにたびらこ
23. Dahlia variabilis (W.) Desf.	てんじくぼたん
24. Dichrocephala letifolia DC.	ぶくりうさい
25. Eclipta alba Hassk.	たかさぶろう
26. Emilia sonchifolia DC.	うすべにゝがな
27. Erigeron linifolius Willd.	あれちのぎく
28. Eupatorium formosanum Hay.	たいわんひよどり
29. Gaillardia pulchella Fong.	てんにんぎく
30. Gnaphalium indicum L.	ちちこぐさもどき
31. Gnaphalium multiceps Wall.	ははこぐさ
32. Helianthu nuus L.	ひまわり
33. Helichrysum bracteatum Willd.	むぎわらぎく
34. Lactuca brevirostris Champ.	あきのげし
35. Lactuca dibilis Max.	ぢしばり
36. Lactuca formosana Max.	たいわんにがな

37. Lactuca Oldhami Max.		あつばにがな
38. Lactuca Scariola L. var. sativa Bisch.		ちしや
39. Lactuca sp.		劍菜 (鵞仔菜)
40. Saussurea affinis Spreng.		きつねあざみ
41. Siegesbeckia orientalis L.		めなもみ
42. Soliva anthemifolia R. Br.		しまときんさう
43. Sonchus arvensis L.		はちじやうな
44. Sonchus oleraceus L.		のげし
45. Tagetes patula L.		藤　菊
46. Vernonia cinerea Less.		むらさきむかしよもぎ
47. Xanthium strumarium L.		をなもみ
Convolvulaceae.	旋花科	
48. Ipomaea aquatica Forsk.		甕　菜
49. Ipomaea Batatas Lam.		さつまいも
Cruciferae.	十字科	
50. Brassica juncea Hook. f. et T.		刈　菜
51. Brassica campestris L.		油菜 (蕓薹)

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

52. Brassica Campestris L.		白　菜
53. Brassica Campestris L.		蕪　菁
54. Brassica oleracea L.		甘　藍
55. Brassica oleracea L.		格藍菜
56. Brassica oleracea. L. var. cauliflora.		花椰菜
57. Capsella Bursa-pastoris (L.) Moench.		なづな
58. Cardamine hirsuta L.		たねつけばな
59. Nasturtium montanum Wall.		いぬがらし
60. Rhaphanus sativus L.		だいこん
61. Rhaphanus sativus L.		大　菜
Euphorbiaceae.	大戟菜	
62. Acalypha australis L.		えのきぐさ
63. Manihot utilissima Pohl.		キャッサバ
64. Phyllanthes Niruri L.		きだちこみかんさう
65. Ricinus communis L.		たうごま
Gramineae.	禾本科	
66. Eleusine indica Gaertn.		おひしば

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

67. Panicum repens L.		はひきび
Labiatae.	唇形科	
68. Leonurus sibiricus L.		めはじき
69. Mentha arvensis L. var. piperascens Holms.		はくか
Leguminosae.	荳科	
70. Astragalus sinicus L.		げんげ
71. Crotalaria juncea L.		サンヘンプ
72. Crotalaria striata DC.		おほめつばまめ
73. Dolichos sp.		
74. Glycine Soja Benth.		大 豆
75. Indigofera arrecta Hochst.		なたるこまつなぎ
76. Medicago sativa L.		むらさきうまごやし
77. Phaseolus trinervius Heyne.		
78. Phaseolus vulgaris L.		菜 豆
79. Phaseolus vulgaris L. var. nana.		つるなしいんげん
80. Pisum sativum L.		豌 豆
81. Vicia Faba L. var. equina Pers.		蠶 豆

	Liliaceae.	百合科	
82.	Allium fistulosum L.		ねぎ
	Malvaceae.	錦葵科	
83.	Hibiscus esculentus L.		オクラ
84.	Hibiscus rosa-sinensis L.		佛桑花
85.	Hibiscus schizopetalus Hook. f.		ふうりんぶつさうげ
86.	Hibiscus sabdariffa L.		ロゼル
87.	Malva verticillata L.		ふゆあふひ
	Menispermaceae.	防已科	
88.	Stephania hernandifolia Walp.		はすのはかづら
	Moraceae.	桑科	
89.	Morus alba L.		くわ
	Oxalidaceae.	酢漿草科	
90.	Oxalis corniculata L.		かたばみ
	Passifloraceae.	西蕃蓮科	
91.	Passiflora coerulea L.		とけいさう
	Plantaginaceae.	車前科	

92.	Plantago major L. var. asiatica Dcne.		おほばこ
	Polygonaceae.	蓼科	
93.	Polygonum lapathifolium L.		しろいぬたで
	Portulacaceae.	馬歯莧科	
94.	Portulaca oleracea L.		すべりひゆ
	Primulaceae.	櫻草科	
95.	Anagallis arvensis L.		るりはこべ
	Scrophulariaceae.	玄參科	
96.	Mazus rugosus Lour.		さぎごけ
	Solanaceae.	茄科	
97.	Capsicum longum L.		たうがらし
98.	Datura alba Nees.		しろてうせんあさがほ
99.	Lycopersicum esculentum Mill.		蕃茄
100.	Petunia violacea Lindl.		つくばねあさがほ
101.	Solanum Melongena L.		なす
102.	Solanum tuberosum L.		馬鈴薯
	Umbelliferae.	繖形科	

103.	Apium graveolens L.		芹菜
104.	Carum Petroselinum Benth.		おらんだぜり
105.	Cryptotaenia japonica Hassk.		みつば
106.	Daucus Carota. L.		にんじん
107.	Foeniculum officinale All.		うゐきやう
108.	Hydrocotyle asiatica L.		つぼくさ
109.	Hydrocotyle rotundifolia Roxb.		ちどめぐさ
110.	Oenanthe stronifera DC.		せり
	Urticaceae.	蕁麻科	
111.	Boehmeria nivea Bl.		からむし

外國及日本ニ於ケル寄主植物

	Borraginaceae.	紫草科	
1.	Omphalodes.		
	Campanulaceae.	桔梗科	
2.	Platycodon gradiflorum DC.		ききやう
	Chenopodiaceae,	藜科	
3.	Beta vulgaris L.		ふだんさう

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

4. Beta vulgaris L. var. Rapa Dmrt.		さとうだいこん
Compositae	菊科	
5. Chrysanthemum		
6. Cichorium Intybus L.		チコリー
7. Dahlia variabilis (W.) Desf.		てんじくぼたん
8. Helianthus annuus L.		ひまわり
9. Helianthus tuberosus L.		きくいも
10. Lactuca scariola L. var. sativa Bisch.		ちしや
11. Senecio vulgaris L.		のぼろぎく
12. Zinnia elegans L.		百日草
Convolvulaceae.	旋花科	
13. Pharbitis hederacea L.		あさがほ
Cruciferae.	十字科	
14. Brassica Campestris L.		あぶらな
15. Brassica Campestris L.		蕪　菁
16. Brassica Campestris L.		そてつな
17. Brassica Napus L.		レープ

18.	Brassica oleracea L.		甘藍
19.	Brassica oleracea L. var. cauliflora.		花椰菜
20.	Lepidium sativum L.		こせうさう
21.	Rhaphanus sativus L.		だいこん
22.	Sinapis alba		きくばからし
	Cucurbitaceae.	胡蘆科	
23.	Cucumis sativus L.		きうり
24.	Cucurbita Pepo L.		かぼちや
	Leguminosae.	荳科	
25.	Glycine Soja Benth.		大 豆
26.	Medicago sativa L.		むらさきうまごやし
27.	Phaseolus Mungo L.		小 豆
28.	Phaseolus vulgaris L.		桊 豆
29.	Pisum sativum L.		豌 豆
30.	Trifolium repens L.		しろつめくさ
31.	Vicia Faba L.		蠶 豆
	Liliaceae.	百合科	

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

32. Allium Cepa L.		たまねぎ
33. Allium fistulosum L.		ねぎ
Malvaceae.	錦葵科	
34. Althaea rosea Cav.		たちあふひ
Moraceae.	桑科	
35. Cannabis sativa L.		あさ
36. Morus alba L.		くわ
Oleaceae.	木犀科	
37. Forsythia intermedia		
38. Forsythia suspensa Vahl.		
Rutaceae.	芸香科	
39. Citrus limonum		レモン
Solanaceae.	茄科	
40. Datura stramonium		
41. Lycopersicum esculentum Mill.		番　茄
42. Petunia nyctaginiflora		
43. Petunia violacea Lindl.		つくばねあさがほ

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

44. Solanum tuberosum L. 馬鈴薯

Umbelliferae. 繖形科

45. Apium graveolens L. セルリー

46. Carum Carvi

47. Carum Petroselinum Benth. パーセリー

48. Daucus Carota L. にんじん

49. Foeniculum officinale All. うゐきやう

50. Oedopodium

Violaceae. 菫菜科

51. Viola tricolor L. 三色菫

臺灣ニ於ケル分布

(甲) 栽培植物ノ部

〔甘藷〕

臺北廳頂内埔庄　明治四十五年二月十二日　澤田兼吉

〔桑〕

臺北廳溪洲　大正六年三月九日　藤黒與三郎

〔木藍〕

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

臺北廳頂內埔庄		明治四十三年三月十四日	澤田兼吉
同	同	明治四十五年二月十三日	澤田兼吉
同	同	大正六年二月二十一日	藤黒與三郎
同	同	大正六年三月七日	藤黒與三郎

〔薄荷〕

臺北廳頂內埔庄	明治四十一年四月二十四日	藤黒與三郎

〔大豆〕

臺北廳頂內埔庄		明治四十三年三月四日	澤田兼吉
同	同	大正三年十二月一日	澤田兼吉

〔キャッサバ〕

臺北廳頂內埔庄	大正四年二月二十七日	藤黒與三郎

〔サンヘンプ〕

臺北廳頂內埔庄	明治四十三年三月十四日	澤田兼吉

〔ロゼル〕

臺北廳頂內埔庄		明治四十四年二月二十七日	澤田兼吉
同	同	明治四十四年三月十日	藤黒與三郎
同	同	大正六年二月十六日	藤黒與三郎

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

〔蕓薹〕

臺北廳頂內埔庄	明治四十五年一月二十二日	澤田兼吉

〔しろてうせんあさがほ〕

臺北廳頂內埔庄	大正六年二月二十一日	藤黑與三郎

〔白菜〕

臺北廳頂內埔庄	明治四十三年三月二日	藤黑與三郎
同　同	大正六年三月七日	藤黑與三郎

〔甘藍〕

臺北廳頂內埔庄	明治四十年四月二日	藤黑與三郎
同　同	明治四十一年三月十一日	藤黑與三郎
同　同	明治四十三年一月十二日	藤黑與三郎
同　同	明治四十三年一月二十日	澤田兼吉
同　同	明治四十三年三月八日	藤黑與三郎
同　同	明治四十三年三月十四日	澤田兼吉
同　同	明治四十三年三月二十八日	澤田兼吉

〔花椰菜〕

臺北廳頂內埔庄	明治四十五年一月二十五日	澤田兼吉

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

臺北廳頂內埔庄	明治四十五年四月十九日	藤黒與三郎
〈ちしや〉		
臺北廳頂內埔庄	明治四十一年二月十八日	藤黒與三郎
同　同	明治四十二年一月十五日	藤黒與三郎
同　同	明治四十三年一月二十八日	藤黒與三郎
同　同	明治四十三年三月十五日	藤黒與三郎
同　同	明治四十三年三月二十八日	澤田兼吉
同　同	大正二年三月六日	澤田兼吉
同　同	大正三年一月十日	藤黒與三郎
〈鵞仔菜〉		
臺北廳頂內埔庄	明治四十三年三月四日	澤田兼吉
〈芹菜〉		
臺北廳頂內埔庄	明治四十三年四月五日	藤黒與三郎
同　同	明治四十三年四月七日	藤黒與三郎
同　同	明治四十四年四月二十三日	澤田兼吉
みつば		
臺北廳頂內埔庄	明治四十三年四月五日	藤黒與三郎

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

臺北廳頂内埔庄		明治四十四年四月二十五日	澤田兼吉
〔オクラ〕			
臺北廳頂内埔庄		明治四十二年十二月二十五日	藤黑與三郎
同	同	明治四十三年一月五日	藤黑與三郎
同	同	明治四十三年二月十日	澤田兼吉
同	同	明治四十三年二月二十一日	澤田兼吉
〔蕃茄〕			
臺北廳頂内埔庄		明治四十三年三月十五日	藤黑與三郎
同	同	明治四十五年四月十九日	藤黑與三郎
〔蘿蔔〕			
臺北廳頂内埔庄		明治四十三年三月二日	藤黑與三郎
同	同	明治四十五年三月十八日	澤田兼吉
〔牛蒡〕			
臺北廳頂内埔庄		明治四十五年二月十日	藤黑與三郎
〔にんじん〕			
臺北廳頂内埔庄		明治四十三年二月二十八日	澤田兼吉

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

臺北廳頂內埔庄		明治四十三年三月十四日	澤田兼吉

〔馬鈴薯〕

同	同	明治四十三年三月二十一日	藤黒與三郎
同	同	明治四十四年一月二十五日	澤田兼吉
同	同	明治四十五年二月二日	藤黒與三郎

〔とうがらし〕

臺北廳頂內埔庄		明治四十三年二月十五日	藤黒與三郎
同	同	明治四十三年三月十四日	澤田兼吉
同	同	大正三年一月十日	藤黒與三郎
同	同	大正四年一月二十三日	澤田兼吉

〔葱〕

臺北廳頂內埔庄		明治四十五年五月十七日	藤黒與三郎

〔菜豆〕

臺北廳頂內埔庄		明治四十三年二月十四日	藤黒與三郎
同	同	明治四十三年二月二十八日	澤田兼吉
同	同	明治四十三年三月二日	藤黒與三郎

〔豌豆〕

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

臺北廳頂内埔庄　大正五年十二月二十一日　藤黒與三郎

〔豇豆〕

臺北廳頂内埔庄　明治四十一年二月十八日　藤黒與三郎
同　同　明治四十一年二月十五日　藤黒與三郎
同　同　明治四十一年三月二十六日　藤黒與三郎
同　同　明治四十三年三月二十八日　澤田兼吉

〔Dolichos sp.〕

臺北廳頂内埔庄　明治四十五年一月二十二日　澤田兼吉

〔茄〕

臺北廳頂内埔庄　明治四十三年一月十五日　藤黒與三郎
同　同　明治四十三年二月三日　藤黒與三郎
同　同　明治四十三年三月十四日　澤田兼吉
同　同　明治四十三年三月二十八日　澤田兼吉
同　同　大正二年一月十七日　澤田兼吉
同　同　大正三年一月十七日　藤黒與三郎
同　同　大正六年一月十六日　藤黒與三郎

〔ふゆあふひ〕

臺北廳頂內埔庄		明治四十三年三月十四日	澤田兼吉
同	同	明治四十三年四月七日	藤黑與三郎
同	同	明治四十四年四月二十五日	藤黑與三郎
〔格藍菜〕			
臺北廳頂內埔庄		大正六年一月九日	藤黑與三郎
〔おほみつばまめ〕			
臺北廳頂內埔庄		明治四十三年三月二日	藤黑與三郎
同	同	大正六年二月十六日	藤黑與三郎
〔Phaseolus trinervius〕			
臺北廳頂內埔庄		明治四十五年一月二十二日	澤田兼吉
同	同	明治四十五年一月二十二日	澤田兼吉
〔大菜〕			
臺北廳頂內埔庄		明治四十三年三月二十三日	澤田兼吉
同	同	明治四十五年四月一日	黃金
同	同	大正六年四月十一日	澤田兼吉
〔紫雲英〕			
臺北廳頂內埔庄		明治四十三年三月七日	澤田兼吉

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

臺北廳頂內埔庄	明治四十四年一月十四日	澤田兼吉

（時計草）

臺北廳頂內埔庄	明治四十五年一月八日	藤黒與三郎
同　同	明治四十五年二月二十八日	澤田兼吉

（矢車菊）

臺北廳頂內埔庄	明治四十五年二月九日	澤田兼吉

（つくばねあさがほ）

臺北廳頂內埔庄	明治四十一年二月二十九日	藤黒與三郎
同　同	明治四十五年二月九日	澤田兼吉

（藤菊）

臺北廳頂內埔庄	大正四年二月十七日	澤田兼吉
同　同	大正四年二月二十二日	藤黒與三郎

（向日葵）

臺北廳頂內埔庄	明治四十五年二月十四日	澤田兼吉

（風鈴佛桑花）

臺北廳頂內埔庄	大正六年二月十六日	藤黒與三郎

（佛桑花）

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

臺北廳頂内埔庄　明治四十四年十二月二十六日　澤田兼吉
同　同　大正六年二月十六日　藤黒與三郎

〔むぎわらぎく〕

臺北廳頂内埔庄　明治四十一年二月二日　藤黒與三郎
同　同　明治四十三年四月五日　藤黒與三郎

〔天人菊〕

臺北廳頂内埔庄　明治四十三年三月六日　澤田兼吉

〔百日草〕

臺北廳臺北　明治四十五年一月二十四日　澤田兼吉
同　頂内埔庄　大正四年十二月十六日　藤黒與三郎

〔きんせんくわ〕

臺北廳頂内埔庄　大正四年二月二十二日　藤黒與三郎

〔にちにちくわ〕

臺北廳頂内埔庄　明治四十五年二月二十日　藤黒與三郎

〔天竺牡丹〕

臺北廳頂内埔庄　明治四十四年十二月二十六日　藤黒與三郎

（乙）野生植物ノ部

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

〔うろこまり〕

臺北廳頂內埔庄　明治四十五年四月六日　藤黒與三郎

〔つるのげいたう〕

臺北廳頂內埔庄　明治四十三年三月七日　澤田兼吉

〔おをびゆ〕

臺北廳頂內埔庄　明治四十三年三月十一日　藤黒與三郎

〔はないばな〕

臺北廳頂內埔庄　明治四十三年三月七日　藤黒與三郎

臺北廳頂內埔庄　明治四十三年三月十二日　澤田兼吉

〔みぞかくし〕

臺北廳頂內埔庄　明治四十五年一月二十五日　澤田兼吉

〔しまつゆくさ〕

臺北廳頂內埔庄　明治四十三年三月七日　藤黒與三郎

同　同　明治四十三年三月十二日　澤田兼吉

〔こあかざ〕

臺北廳頂內埔庄　明治四十三年三月十五日　藤黒與三郎

同　同　大正七年二月二十五日　澤田兼吉

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

（しろばなせんだんぐさ）

臺北廳頂內埔庄　明治四十三年三月七日　澤田兼吉

同　同　明治四十三年三月十一日　澤田兼吉

（しまじわうぎく）

臺北廳頂內埔庄　明治四十三年三月十五日　澤田兼吉

（たいわんひよどり）

臺北廳頂內埔庄　明治四十三年三月十一日　藤黑與三郎

（おにたびらこ）

臺北廳頂內埔庄　明治四十三年三月十一日　澤田兼吉

（ときんさう）

臺北廳頂內埔庄　明治四十三年三月八日　藤黑與三郎

（ぶくりうさい）

臺北廳頂內埔庄　明治四十三年三月七日　藤黑與三郎

同　同　明治四十五年二月十二日　澤田兼吉

（うすべににがな）

臺北廳頂內埔庄　明治四十三年三月七日　澤田兼吉

同　同　明治四十年二月十二日　澤田兼吉

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

〔あれちのぎく〕

臺北廳頂内埔庄　明治四十三年三月七日　藤黒與三郎

〔はゝこぐさ〕

臺北廳頂内埔庄　明治四十三年三月七日　澤田兼吉

〔ちゝこぐさもどき〕

臺北廳頂内埔庄　明治四十三年三月七日　澤田兼吉

同　同　明治四十三年三月七日　藤黒與三郎

〔たかさぶろう〕

臺北廳頂内埔庄　明治四十三年三月七日　藤黒與三郎

同　同　明治四十三年三月十一日　澤田兼吉

〔あきのげし〕

臺北廳頂内埔庄　明治四十三年三月十一日　藤黒與三郎

〔ぢしばり〕

臺北廳頂内埔庄　明治四十三年三月七日　澤田兼吉

〔あつばにがは〕

臺北廳頂内埔庄　明治四十四年一月十五日　藤黒與三郎

〔たいわんにがな〕

臺北廳頂內埔庄　明治四十三年三月七日　澤田兼吉
同　同　明治四十三年三月七日　藤黒與三郎

〔きつねあざみ〕

臺北廳頂內埔庄　明治四十三年三月七日　澤田兼吉
同　同　明治四十三年三月七日　藤黒與三郎
同　同　明治四十三年三月十一日　藤黒與三郎

〔めなもみ〕

臺北廳頂內埔庄　明治四十三年三月七日　藤黒與三郎

〔のげし〕

臺北廳頂內埔庄　明治四十三年三月五日　澤田兼吉
同　同　明治四十三年三月七日　藤黒與三郎
同　同　明治四十三年三月十一日　藤黒與三郎

〔しまとさんさう〕

臺北廳頂內埔庄　明治四十三年三月七日　藤黒與三郎

〔むらさきむかしよもぎ〕

臺北廳頂內埔庄　明治四十三年三月十一日　澤田兼吉

〔をなもみ〕

臺北廳頂內埔庄　明治四十三年三月七日　澤田兼吉
同　同　明治四十三年三月十一日　藤黑與三郎

（たねつけばな）

臺北廳頂內埔庄　明治四十三年三月十一日　藤黑與三郎

（きだちこみかんさう）

臺北廳頂內埔庄　明治四十三年三月七日　藤黑與三郎

（えのきぐさ）

臺北廳頂內埔庄　大正五年二月二十五日　藤黑與三郎

（はひきび）

臺北廳頂內埔庄　明治四十三年三月十一日　藤黑與三郎

（禾本科一種）

臺北廳頂內埔庄　明治四十三年三月七日　澤田兼吉

（めはじき）

臺北廳頂內埔庄　明治四十三年四月七日　藤黑與三郎
同　同　明治四十三年四月十五日　藤黑與三郎

（唇形科ノ一種）

臺北廳頂內埔庄　明治四十三年四月七日　蘇　𢘆

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

〔はすのはかづら〕

臺北廳頂內埔庄　明治四十四年一月　藤黑與三郎

〔かたばみ〕

臺北廳頂內埔庄　明治四十三年三月七日　藤黑與三郎

〔おほばこ〕

臺北廳頂內埔庄　明治四十三年三月十一日　澤田兼吉

同　同　明治四十五年二月十二日　澤田兼吉

〔しろいぬたで〕

臺北廳頂內埔庄　明治四十三年三月十五日　澤田兼吉

〔すべりひゆ〕

臺北廳頂內埔庄　明治四十三年三月八日　藤黑與三郎

同　同　明治四十五年二月十二日　澤田兼吉

〔るりはこべ〕

臺北廳頂內埔庄　明治四十三年三月七日　澤田兼吉

〔さぎごけ〕

臺北廳頂內埔庄　明治四十五年二月九日　澤田兼吉

〔つぼくさ〕

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

臺北廳頂内埔庄　明治四十三年三月七日　澤田兼吉

〔ちどめぐさ〕

臺北廳頂内埔庄　明治四十三年三月七日　澤田兼吉

〔せり〕○

臺北廳頂内埔庄　明治四十三年三月七日　澤田兼吉

〔うゐきやう〕

臺北廳頂内埔庄　明治四十三年二月二十八日　澤田兼吉

同　同　明治四十三年三月四日　澤田兼吉

分布　獨逸、露西亞、諾威、佛蘭西、英吉利、伊太利、白耳義、北米合衆國、印度、日本、臺灣

記事

一、臺灣ニ於ケル本菌ノ發生時期ハ十一月ヨリ五月迄ニシテ其最モ激甚ナルハ一月ヨリ三月ナリ此一月ヨリ三月ニ至ル期間ハ北部臺灣ニ於ケル最モ濕潤ナル雨期ニ相當シ本菌ノ蔓延ハ濕潤ナル天候ニ支配セラル、ヲ知ルヘシ

而シテ四月中旬ヨリ五月ノ候ハ雨期終了ノ時期ナルト高溫ナルトニヨリ本菌ハ殆ント繁殖ヲナサスシテ只以前侵サレタル株ニ菌核ヲ發見スルニ止マル

二、余ハ明治四十三年一月ヨリ明治四十五年ニ至ル間約二十回ニ亘リ寄主植物相互ノ接種試驗ヲ行ヒ且ツ同一所ニ於テ侵サレ居タル寄主植物相互ノ關係ヨリシテ前記百有餘種ノ植物ハ明カニ本菌ニ侵サルヘキ寄主植

物ナルヲ知レリ

三、菌核ヨリ生スル子囊盤ハ室内ニテモ形成セシメ得又發生地ヲ翌年ノ發生時期ニ精視搜索スル時ハ多數ノ子囊盤ヲ發見シ得之レヲシヤーレ内ニ置キ時々其蓋ヲ取リ去ル時ハ微音ヲ發スルト同時ニ霧ノ如ク胞子ヲ噴出スルヲ認メ得ルナリ子囊盤ハ野外ニ於テモ斯ノ如ク胞子ヲ噴出飛散セシメ風ノ助ニヨリ能ク胞子ヲ遠所ニ到達セシムルヲ得ルモノナリ

四、本菌ノ多クノ寄主植物上ニ本菌ノ侵害ト關係ナク又ハ本菌ノ被害シタル部分ニ Botrytis cinerea Pers. 菌ノ生スルヲ屢々發見ス此 Botrytis cinerea 菌ハ Sclerotinia Fuckeliana de Bary. 菌ノ分生胞子時代トシテ知ラレ又 S. Libertiana Fuck. 菌又ハ S. Trifoliorum 菌ノ分生胞子時代トシテ知ラレタリ而シテ Hamburg, Behrens, Humphrey, Frank 氏等ノ如ク本菌ト Botrytis 菌ノ關係ヲ說クモノアリ又 de Bary, Cooke, Smith 氏等ノ如ク兩著ノ關係全クナキコトヲ說クモノアリ余ハ兩者ノ關係ニ就テ研究シタル所ニ於テハ左記ノ如ク全ク無關係ナルヲ知レリ

(a) 幾回トナク菌核病菌ヲ植物上ニ接種シタルモ其植物ノ腐敗スルマデ一回モ Botrytis 菌ノ發生ヲ認メス

(b) 菌核病菌ノ子囊胞子ヲ數回植物上ニ接種シタルモ嘗テ Botrytis 菌ノ發生ヲ認メス

(c) 菌核病菌ノ子囊胞子ヲ肉汁寒天培養基、植物煎汁寒天培養基ニ培養シタリシモ一回モ Botrytis 菌ノ發生ヲ認メス

(d) 菌核病菌ノ菌絲ヲ肉汁寒天培養基及植物煎汁寒天培養基ニ培養シタリシモ一回モ Botrytis 菌ノ發生ヲ認メス

(e) 時期ヲ變ヘ數多ノ培養基ニ Botrytis 菌ノ胞子ヲ培養シタルモ菌核病菌ヲ培養シタル如キ狀態ヲナサス且ツ菌核ハ甚タ小形ニシテ菌核病菌ノソレト全ク異ナレリ

(f) 菌核病菌ト Botrytis 菌トヲ別々ニ培養シテ得タル菌核ヲ濕氣ヲ帶ヘル砂中ニ置キ二百有餘日ヲ經過セシニ菌核病菌ノ菌核ニハ子嚢盤ヲ形成シタリシモ Botrytis 菌ノ菌核ヨリハ子嚢盤ヲ生セス猶約一ケ年ヲ經テ遂ニ Botrytis 菌ノ菌核ハ何等子嚢盤ノ形成ヲ見スシテ腐敗シタリキ

(g) 濕室內ニ於テ同時ニ萵苣ノ葉上ニ Botrytis 菌及菌核病菌ノ胞子ト菌絲ヲ接種シタリシニ菌核病菌ヲ接種シタル葉ニハ綿ノ如ク多量ニ菌絲ヲ生シテ蔓延迅速ナリシモ Botrytis 菌ヲ接種シタル葉ニハ極メテ短キ菌絲ヲ僅カニ認メ得且ツ其蔓延緩慢ニシテ之レニ於テノミ Botrytis 菌ノ分生胞子ヲ生セリ

(h) 屋外ニ於テ植物上ニ Botrytis 菌ノ胞子ヲ接種シタルモ褐色同心輪ヲ示セル病斑ヲ生シ菌核病ノ病斑ト全ク異レリ

五、Shaw 氏 (The Genus Rhizoctonia in India) ハ印度ニ於テ Bhizoctonia Napi West. 菌ヲ發見シ記述セシモ之レ恐ラクハ我菌核病菌ニシテ其冬季期ニ發生スルコト、病徵(記載及寫眞)、菌核ノ形成場所及培養基上ニ形成セラレタル狀、菌核ノ大サ其組織、分生胞子時代、其寄主植物等全ク符合セリ

病名

和名 (甘藍)菌核病　(ちしや)菌核病

英名 Sclerotiose of Lettuce, Lettuce drop, Lettuce wilt.

六七　桑椹菌核病菌

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

Sclerotinia Shiraiana P. Henn.

Hennings, P. - Engl. Bot. Jahrb. Bd. XXVIII. p. 258., 1900.
Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. XVI. p. 722., 1902.
Shirai, M. - 最近植物病理學. p. 378., 1903.
Yamada, G. - 植物病理學. p. 357., 1904.
Kawakami, T. and R. Suzuki. - 臺灣農作物病害目錄. 其一. p. 37., 1908.
Ideta, A. - 日本植物病理學. p. 338., 1909.
Hara, K. - 桑ノ菌核病（農業園. 第五卷. 第十二號. p. 40.）1911.
Miyake, I. - 桑ノ菌類ニ就テ（蠶業試驗場報告. 第一卷. 第五號. p. 306.）1916.

病徵　果實穗ヲ侵シ其全部又ハ一部白色ニ變シテ假令充分成熟スルトモ決シテ本來ノ着色卽チ紫黑色ニ變スルコトナク花被肥厚スルヲ以テ果實穗ハ稍々膨大ス故ニ其一部侵サレタルモノハ侵サレタル部分ノミ白色ニ肥厚シ侵サレサル部分ハ紫黑色トナリテ細ク後罹病部ノミ殘存セシメラル丶ニ至ル猶此病果ハ後地上ニ後テ菌核ノミ殘存シテ他ノ組織ハ悉ク腐敗シ去リ翌春菌核ヨリ檐子體ヲ生シテ繁殖ス此病害蔓延スルトキハ種子ノ收量ヲ著シク減殺ス

病原菌　白色ナル病果ヲ切斷シテ顯微鏡下ニ檢スレハ其內部ハ悉ク不規則ニ太リ曲レル無色ノ菌絲ノ錯綜ニヨリテ組成セラレ其菌絲ノ直徑ハ一二—二八ミュ−アリ而シテ花被又ハ子房內ノ空隙ニハ直徑約三ミュ−ノ細長ニシテ短キ分枝ヲ有スル菌絲ヲ含ミ其短分枝ノ頂ニハ分生胞子ヲ形成ス

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

子嚢盤ハ黒色ナル菌核ヨリ數本生シ柄ヲ有シ飴色ヲ帶ヒタル肉色ナリ筒狀又ハ椀狀ヲナシ黒褐色ニシテ細毛ヲ生ス盤ハ栗色、平滑、直徑〇・五—一・〇セメ、アリ柄ハ圓柱狀ニシテ彎曲シ長サ三—五セメ、直徑一—二ミメ、アリ　其上方ハ銹色ノ細毛ヲ生シ下方ハ淡色稍平滑ナリ子嚢ハ圓柱狀棍棒狀ニシテ頂端鈍頭、基部ニ漸細シ八胞子ヲ一列ニ含ミ大サ七〇—一〇〇×八—一〇ミユーアリ

子嚢胞子ハ橢圓狀兩端鈍頭無色大サ六—八×四—五ミユーアリ

側絲ハ絲狀ニシテ顆粒體ヲ含ミ暗色ニシテ直徑三ミユーアリ

寄主植物

桑（廣東種及在來種）(Morus alba L., Morus acidosa Gr.) ノ果實ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳溪州　大正六年三月九日　藤黒與三郎

分布　日本、臺灣

病名

和名　桑椹菌核病、きつねのわん

核菌亞族 (Subord. Pyrenomycetineae.)

肉座菌群 (Fam.-Group Hypocreaceales.)

肉座菌科 (Fam. Hypocreaceae.)

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

紅茸寄生菌亞科 (Subfam. Hypomyceteae.)

角狀蟲生菌屬 (Genus Torrubiella.)

六八　茶樹角狀蟲生菌

Torrubiella brunneola Sawada.

Sawada, K. - 臺灣總督府農事試驗場特別報告第九號、一一〇頁、一九一四

Sawada, K. - Tokyo Bot. Mag. Vol. XXVIII. No. 330. p. 4., 1914.

病原菌　子座ハ介殼蟲ヲ全ク被ヒ褐色乃至帶紫褐色ニシテ饅頭狀ヲナシ若キモノニアリテハ帶白色ナリ綿狀ニシテ直徑一—二ミメアリ　子座ノ上ニ子嚢殼ヲ形成ス子嚢殼ハ直立又ハ斜立シ單又ハ二三癒着スルモノアリ一子座上ニ一—六箇ヲ生ス帶紫黃褐色乃至褐色ニシテ卵狀圓錐形乃至長圓錐形若キモノハ其頂端飴色ヲ呈ス　高サ〇・五—一ミメ、直徑〇・三—〇・五ミメアリ

子嚢ハ叢生シ纖細ナル圓筒形ニシテ無色先端稍厚膜ニシテ圓頭大サ四二〇—七六〇×五—七ミューアリ　内ニ四—八箇ノ子嚢胞子ヲ含ム子嚢胞子ハ絲狀ニシテ子嚢ト等長、無色單胞ニシテ顆粒體ヲ含ミ幅一—一・五ミューアリ子嚢内ニ並列シ稀ニ多少螺旋狀ナルコトアリ

寄主植物

茶樹葉上ニ寄生スル介殼蟲ちやのながかひがらむし (Chionaspis Theae Mask.) 及 Aspidiotus sp. 及 はまいぬびはニ寄生スル Aspidiotus sp. ニ寄生ス

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳蟾蜍山　大正二年二月十二日　澤田兼吉　藤黒與三郎

同　同　大正三年二月二十四日　澤田兼吉

同　同　大正三年三月一日　澤田兼吉

分布　臺灣

記事

本菌ハ瓜哇產ノ Torrubiella lateo-rostrata Zimm. ニ最モ近シ然レトモ瓜哇ノ子座ハ直徑六ミ、メ、アリテ我菌ノソレヨリ遙カニ大形ナリ又瓜哇種ノ子囊殼ハ高サ〇・四―〇・八ミ、メ、基部ノ直徑一五〇ミューアリトスルモ我菌ニアリテハ高サ〇・五―一ミ、メ、アリ又直徑〇・三―〇・五ミ、メ、アリテソレヨリ大ナリ又瓜哇種ニアリテハ一子座上ニ無數ノ子囊殼ヲ生スルモ我菌ニアリテハ多クトモ五六箇ニ過キス又瓜哇種ノ子囊ハ大サ四〇〇×四ミューアルモ我菌ニアリテハソレヨリ遙カニ大形ニシテ大サ四二〇―七六〇×五―七ミューアリ又瓜哇種ハ一子囊內ニ八胞子ヲ含ムモ我菌ニアリテハ四―八胞子ヲ含ム

和名　茶樹角狀蟲生菌

六九　きじらみ角狀蟲生菌

Torrubiella Psyllae Sawada.

Sawada, K. - Tokyo Bot. Mag. Vol. XXVIII. No. 330. P. 6., 1914.

病原菌　子座ハ扁半球狀ニシテ圓狀初メ白色ニシテ稍綿狀、後黃褐色稍革質トナル直徑一―二・五ミ、メ、アリ其周圍

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

ニ白色ニシテ微カニ放射狀ニ見ユルHypothallusヲ周ラス子嚢殼ハ子座ノ上ニ又ハHypothallusノ上ニ群生又ハ散生シ一子座上約十五箇迄ヲ生ス圓錐形ニシテ頂端鈍頭、直立又ハ斜立シ黃褐色又ハ帶紫黃褐色平滑ニシテ基部僅カニ白色ヲ呈ス大サ六〇〇—七一〇×二五〇—二八〇ミューアリ　子嚢ハ無數叢生シ纖細ナル圓筒形ニシテ無色、頂端厚膜圓頭ナリ三—七箇（普通五—六箇）ノ子嚢胞子ヲ含ミ大サ四六〇—五〇〇×六—七・五ミューアリ子嚢胞子ハ絲狀ニシテ長サ子嚢ト殆ント等長ニシテ直徑一・五—三ミューアリ兩端鈍頭、顆粒體ヲ含ミ無色單胞、後ニ至リテ多數ノ隔膜ヲ生シ其節間長サ三—八ミューアリ

寄主植物

たいわんいちご（Rubus taiwanianus Matsum.）ノ葉裏ニ寄生スルきじらみの一種（Psylla sp.）ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂内埔庄　大正二年二月十九日　澤田兼吉　藤黑與三郎

同　同　大正三年三月一日　澤田兼吉

分布　臺灣

記事

一、本菌ハ Aequatoria 產 Torrubiella tomentosa Pat. ニ最モ近シ然レトモ後者ノ子嚢殼ハ有毛ナルコト、子嚢胞子ハ細クシテ直徑一ミューナルコト及子嚢胞子ノ節ハ長クシテ一〇ミューナルコト等ニヨリテ異ナリ又後者ハ昆蟲及蜘蛛ニ寄生スルモノニシテ我菌ノ木虱ニ寄生スルト異ナレリ

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

二、本菌ヲ採集セシ場所ニ近ク茶樹ノ介殼蟲上ニ T. brunneola 菌ヲ得タルモ其子座ノ大サ、色彩、一子座上ニ生スル子嚢殼ノ數及其色彩、子嚢及子嚢胞子モ全ク異ルモノナリ

和名 さじらみ角狀蟲生菌

癌腫病菌亞科 (Subfam. Nectriae.)

稻馬鹿苗病菌屬 (Genus Lisea.)

七〇 稻馬鹿苗病菌（第八圖版、一五—二二）

Lisea Fujikuroi Sawada.

SYN. *Fusarium heterosporum Nees.*

Sawada, K. - 臺灣菌類資料. 第十四.（臺灣博物學會々報. 第三十一號）1917.
Hori, S. - 農事試驗場成績. 第十二報. 第一卷.
Hori, S. - 農作物病學. p. 114., 1908.
Kawakami, T. and R. Suzuki. - 臺灣農作物病害目錄. 其一. p. 5. 1908.
Ideta, A. - 日本植物病理學. p. 785., 1911.
Bokura, U. - 作物病害豫防驅除法. p. 219., 1912.
Sawada, K. - 臺灣農事報. 第六十三號. p. 16., 1912.

病徵 主ニ水稻ノ莖ヲ侵シ臺灣ニ於テハ第二期作ニ甚シク發生シ第一期作ニハ例年殆ント之レヲ見ス、苗ノ時代

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

ヨリ收穫期ニ至ルマテ常ニ發生シ全島ニ於テ甚シキ損失ヲ與ヘ而シテ或品種ハ本田ニ約七割ノ被害ヲ蒙リシコトアリ苗代時代ニアリテハ苗ノ二三寸ニ伸長シタル頃ヨリ現ハレ罹病苗ハ健苗ヨリ丈高ク纖細ニシテ淡綠色ナリ三葉ヲ有スル健苗ノ草丈平均六寸二分ノ時ニ罹病苗ハ高サ平均八寸八分アリ更ニ其葉片ノ大サヲ比較スルニ

	最下葉		中葉		最上葉	
	長サ	幅	長サ	幅	長サ	幅
健苗	分 五・九〇	分 〇・七八	分 二九・〇〇	分 〇・九六	分 四三・〇〇	分 〇・八八
罹病苗	六・二〇	〇・七二	三三・〇〇	〇・七八	五二・〇〇	〇・六九

ニシテ罹病苗ノ葉ハ常ニ幅狹クシテ長シ此罹病苗ハ漸次枯死シ去リ侵害程度ノ弱キモノハ生存シテ本田ニ挿挾セラルヘシ

本田ニ於テハ此侵害程度ノ弱キモノ及挿秧ニ際シテ接種セラレタルモノカ病徵ヲ現ハシ二番除草ノ頃ヨリ著シク認メラル是等ノ罹病株ハ苗ノ時代ニ於ケルト等シク葉及草丈ハ健苗ヨリ著シク長クシテ淡綠色ヲナス其兩者ノ草丈スルニ健全株カ平均二尺四寸六分アル時ニ罹病株ハ平均三尺四寸七分アリ又罹病株ハ分蘗少ク例ヘハ一本植ノヲ比較場合ニ就テ觀察スルニ健全株ハ平均二十本五分ニシテ罹病株ハ平均七本二分ナリ(蕃禾)又他ノ品種(東水)ニ就テ調査スルニ健全株ハ平均十九本四分ノ分蘗ヲナセシニ罹病株ニアリテハ平均十本四分ナリキ是等ノ罹病株ハ漸次ニ枯死シ出穗期迄生殘リタルモノハ健全株ヨリ數日早ク出穗ス然レトモ登熟充分ナラス例ヘハ穗ノ長サヲ比較スルニ健全株ニアリテハ平均六寸八分五厘ナルニ罹病株ニアリテハ六寸六分二厘アリテ短ク又一穗ノ籾ノ粒數ニ就テ比較スルニ健全株ニアリテハ平均百〇五粒七分ナルニ罹病株ノ穗ニアリテハ八十五粒七分ナリキ猶其粒

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

數內ノ粃ノ率ヲ見ルニ健全穂ニハ只五粒アリタルニ罹病株ノ穂ニハ三十二粒二分アリタリ

本島ニ於テ此罹病株ヲ稻公ト稱ス之レ男穂ノ意ニシテ登實セサルヲ意味シ內地ニ於テハ方言男苗ト稱スルト等シ此罹病株ノ節ヨリハ無數ノ鬚根ヲ生シ恰モ螟蟲ニ侵サレタル株ニ見ル如クナレトモ本病ニ罹レルモノハ全ク蟲ニ侵サレタル形蹟ヲ認ムヘカラス而シテ其ノ節部ニ淡紅白色ノ黴ヲ生ジ遂ニ枯死セシメラル此枯死セル苗ノ表面ニハ後ニ至リテ一面ニ淡紅白色ノ粉末ヲ生ジ葉ハ多少紫紅色ヲ帶ブ此枯死セル苗ニハ秋ニ入リテ其節部又ハ葉鞘ノ緣邊又ハ表面ニインキ色卽チ藍黑色ノ細粒ヲ夥シク群生ス之レ子囊胞子時代ニシテ淡紅白色ノ粉末ハ分生胞子時代ナリ

病原菌　擔子梗ハ菌絲ヨリ短ク兩叉又ハ三叉分枝シ幾回トナク反復シ其極枝ハ大サ一二—二四×三—四ミューアリ頂銳頭ヲナシ其頂ニ分生胞子ヲ單生ス

分生胞子ハ初メ單胞ニシテ無色、平滑、倒卵狀乃至倒棍棒狀ナリ後稍彎曲セル紡綞形トナリ先端銳頭、一端稍鈍頭ヲナシ一、三、五等ノ隔膜ヲ生ジ無色平滑ナリ此單胞分生胞子ノ大サハ六—二〇×三—四・五ミュー紡錐形有隔胞子ハ大サ二九—五六×三・二—四・五ミューアリ共ニ發芽管ニテ發芽ス

子囊殼ハ表生ニシテ群生シ帶紫黑色又ハ藍黑色、其概形球狀又ハ卵狀ニシテ表面ニ凹凸アリ大サ二四〇—三六〇×二二〇—四二〇ミューアリ、其殼壁ヲ構成スル細胞ハ多角狀ニシテ大サ一二—一六×八—一四ミューアリ

子囊ハ多數叢生シ無色薄膜、圓筒狀ニシテ基部ニ漸細シ頂圓頭大サ九六—一二〇×八—一二ミューアリ 內ニ一列ニ八胞子ヲ含ム

子囊胞子ハ無色長橢圓形ニシテ頂圓頭、基端圓頭乃至鈍頭ヲナシ中央ニ隔膜ヲ有シ隔膜ニ於テ縊レヲナサザルカ

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

或ハ僅ニ縊レヲナスモノアリ大サ一二―二四×六―九ミューアリ

寄主植物

稲（Oryza sativa L.）ノ桿及葉鞘ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內埔庄		明治四十三年九月二十九日	藤黑與三郎
同	同	大正三年九月十五日	藤黑與三郎
同	同	大正三年十月二十四日	藤黑與三郎
同	同	大正四年十月五日	藤黑與三郎
同	同	大正四年十月二十日	澤田兼吉
同	同	大正五年六月二十八日	藤黑與三郎
同	同	大正五年九月十九日	藤黑與三郎
同	同	大正五年十月二十二日	藤黑與三郎
同	同	大正五年十月二十九日	藤黑與三郎
同	同	大正五年十一月九日（子嚢胞子時代）	藤黑與三郎
同	同	大正五年十一月十一日（子嚢胞子時代）	藤黑與三郎
同	同	大正六年十月二十五日	澤田兼吉
臺中廳大甲	・	大正二年十月二十一日	藤黑與三郎

臺中廳	東勢角	大正五年十月七日（子嚢胞子時代）	藤黒與三郎
同	新社	大正五年十月七日	藤黒與三郎
同	石崗	大正五年十月八日	藤黒與三郎
同	大坑庄	大正五年十月五日	藤黒與三郎
同	臺中	大正五年九月三十日	藤黒與三郎
同	樹仔脚庄	大正五年十月五日	藤黒與三郎
同	大里杙	大正二年十月十一日	藤黒與三郎
同	同	大正五年十月五日	藤黒與三郎
同	阿罩霧	大正五年十月五日	藤黒與三郎
同	南門口庄	大正五年十月一日	藤黒與三郎
同	坑仔內庄	大正五年十月二日	藤黒與三郎
同	溪湖	大正二年十月十一日	藤黒與三郎
同	海埔厝庄	大正五年十月一日	藤黒與三郎
同	員林	大正五年十月二日	藤黒與三郎
同	三條圳	大正五年十月二日	藤黒與三郎
同	東山庄	大正五年十月二日	藤黒與三郎
同	二八水	大正五年十月二日	藤黒與三郎

臺中廳　鼻仔頭　大正五年十月二日　藤黒與三郎
南投廳　草鞋墩　大正五年十月三日　藤黒與三郎
同　三集々　大正二年十月十七日　藤黒與三郎
同　埔里社　明治四十三年十月十一日　澤田兼吉
臺南廳　關帝廟　明治四十二年八月　澤田兼吉

分布　日本、臺灣

記事

一、Lisea屬ニハ既知種類十二種アリ然レ共本菌ニ符合スヘキモノヲ見ズ又稻上ニ本菌ノ發見セラレタル記事ヲ見ス故ニ之カ發見者タル藤黒與三郎氏ノ姓ニヨリテ如上ノ學名ヲ考定セリ

二、本菌ノ分生胞子時代ヲ Fusarium heterosporum Nees. ニ當テ、記錄セラル、モ此 Fusarium heterosporum Nees. 菌ハ種々ノ植物卽チ玉蜀黍、Secale Cereale, Spartina stricta, Glyceria fluitans, 麥類、稻其他ノ子實ヲ侵スモノトセラレ又 Lolium perenne ノ芽ヲ侵スモノトセラレ混同セラレタルモノ、如ク思ハレ而シテ其子嚢胞子時代ヲ Gibberella Saubinetii ナリトセラル、外國ニ於テ稻ノ莖ニ寄生シタル記事ハ Felix von Thuemen氏ノ Die Pilge der Reispflanze ニ見エ墺國ニ於テ一八八七年生活セル稻ニ發見セリトアリ我國ニ於ケル馬鹿苗病菌ト等シキモノナルヤ否ヤ明カナラサレトモ氏ハ之レヲ稻ノ子實ヲ侵ス菌ト同一ノモノトシテ取扱ヘリ稻ノ子實ヲ侵ス Fusarium菌ハ臺灣ニ於テモ發見セラル然レドモ馬鹿苗病菌トハ異レル種類ナリ Fusarium heterosporum Nees. 菌ハ果シテ稻ヲ侵シテ馬鹿菌病ヲ起スヤ否ヤハ疑ハシク既ニ出田新氏著日

本植物學病理學、三宅市郎氏著、東京帝國大學農科大學紀要第二卷第四號ニ記スル所ナリ

三、稻馬鹿病菌ノ誘因ノ一トシテ堀正太郎氏ハ萌芽シタル種子ヲ播下スルトキニ多ク發病スト記スルモ臺灣ニ於テハ第一期作卽チ種子ヲ萌芽セシメテ播下スル場合ニ例年殆ント全ク發病セズ反之第二期作卽チ種子ヲ萌芽セシメズシテ播下スル場合ニ例年夥シク發生ス

四、又同氏ハ天候濕潤ナル時ニ多ク發病スト記スルモ北部臺灣ニ於ケル第一期作苗代時代ニハ降雨期ニシテ一二ケ月繼續シテ降雨アリ遂ニ日光ヲ見ザルコトアル甚シキ濕潤ナル時期ニ於テ殆ント全ク發病ナク第二期作苗代時期卽チ乾燥スル季節ニハ甚シク發病ス又第二期作苗時期ニ例年乾燥シテ苗代面ニ龜裂ヲ生ズル如キ年ニハ發病多クシテ大正六年ノ如ク降雨多ク苗代面ノ乾燥セザル如キ年ニハ發病極メテ少ナシ而シテ農民モ經驗上ヨリ斯ク曰フヲ常トス

五、臺灣ニ於ケル第二期作苗代苗取法ハ苗代ヲ乾燥セシメテ苗ヲ引キ拔キ殆ント全ク根ヲ附着セシメズ葉先ヲ切リ去リテ揷植ス其場合ニ苗ノ根元ノ切斷セラレタル部分ニ胞子着生シ接種セラルルモノニシテ本田ニ於テ普通苗代時代ニ於ケルヨリ甚シク發病ス

第二期作苗ヲ第一期作法卽チ鋤取リ法ニテ採苗スレバ第二期作法ニヨリテ採苗セル場合ヨリ著シク發病ヲ減ズ又第二期作苗取法ニヨル健苗ノ根元ニ本菌ノ胞子ヲ附着シテ揷植スルトキハ悉ク感染シテ顯著ナル病徵ヲ呈シ且ツ病原菌ノ胞子ヲ形成ス是等ノ事實ハ之レヲ證明スルモノナリ

病名

和名　稻馬鹿苗病

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

赤黴病菌屬 (Genus Gibberella.)

七一　麥赤黴病菌

Gibberella Saubinetii (Mont.) Sacc.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. II. p. 554., 1883.
Lindau, G. - Handb. der Pflanzenkrankh. Bd. II. p. 203., 1908.
Hara, K. - 小麥ノ赤黴病ト稻ノ節黑病（農業國．第四卷．第十二號）1910.
Stevens, F. L. and J. G. Hall. - Diseases of Economic. Plants. p. 376., 1910.
Ideta, A. - 日本植物病理學. p. 899., 1911.

病徵　穗ヲ侵ス被害穗ハ初メ其一部分侵サレ褐色シテ腐レ漸次其隣接セル部分ニ擴ガリ遂ニハ穗ハ全ク侵サレ穎花梗、穀粒ハ皆褐色枯死セシメラル被害穗ノ穎ノ間ヨリ又ハ小穗ノ基部等ニ桃紅色粘質ノ胞子塊ヲ生ジ更ニ進ンデ穎芒等ノ表面藍黑色ノ細點ヲ群生ス

此病害ハ北部臺灣ニ於テ蔓延甚シク南部臺灣ニ於テハ被害少ナシ之レ天候ニヨリテ左右セラレタルニ由ルモノニシテ卽チ北部臺灣ハ麥類栽培期間ハ雨季ニ相當シ霖雨繼續シテ多濕ノ時期ニシテ反之南部臺灣ハ乾燥期ニシテ一二ケ月ニ亘リテ全ク降雨ナキコトアリ北部臺灣ニ於テハ屢々數割ノ被害ヲ蒙ルコトアル注目スベキ病害ナリトス

本病ハ小麥ニ於テ被害最モ烈シク稞麥及大麥ニ於テ比較的被害少ナシ

病原菌　擔子梗ハ密ニ多回分岐シ更ニ其節每ニ一―數箇ノ小分枝ヲ生ズ其小分枝ハ紡錘狀乃至卵橢圓狀ヲナシ隔膜ナク其頂端小突起ヲナシ無色大サ一六―二〇×四―一一ミューアリ　其頂ニ分生胞子ヲ單生ス分生胞子ハ披針形又

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

ハ長紡錐形ニシテ多少彎曲シ頂端殆ンド鋭尖基部ニ一小突起ヲ有シ無色平滑三―七箇ノ隔膜ヲ有シ普通隔膜ニ於テ縊レヲナサズ大サ二五―八〇×四―六・五ミューアリ

子嚢殻ハ表生ニシテ群生ス卵状、倒卵状等ニシテ表面平滑ナラズインキ色即チ藍黒色乃至帯紫藍黒色ニシテ叢生又ハ單生シ大サ二五二―三二〇×二〇〇―二四〇ミューアリ無數ノ子嚢ヲ包含ス

子嚢殻壁ヲ構成スル細胞ハ多角状ニシテ大サ一五―二一×九―一六ミューアリ　子嚢ハ棍棒状、無色、薄膜ニシテ大サ八八―一〇〇×一二―一七ミューアリ　八胞子ヲ含ム子嚢胞子ハ鎌形即チ斜形長紡錐形ニシテ兩端鈍頭ヲナシ多少彎曲シ三箇ノ隔膜ヲ有シ平滑無色ニシテ大サ二六―三二×五・五―六ミューアリ

寄主植物

小麥 (Triticum vulgare Vill.)

大麥 (Hordeum sativum Jessen. var. vulgare)

稞麥 (Hordeum sativum Jessen. var. hexastichon)

ノ穗ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

〔小麥〕

臺北廳	頂内埔庄	大正五年四月六日	藤黑與三郎
同	同	大正五年四月十二日	藤黑與三郎
同	同	大正五年四月十九日	澤田兼吉

臺北廳頂内埔庄		大正六年四月十日	澤田兼吉
同	同	大正六年四月十八日	澤田兼吉
同	同	大正六年四月二十四日	藤黑與三郎

〈裸麥〉

臺北廳頂内埔庄		大正六年四月十八日	澤田兼吉
同	同	大正六年四月二十四日	藤黑與三郎

〈大麥〉

臺北廳頂内埔庄	大正五年四月七日	藤黑與三郎

分布 英吉利、獨逸、北米合衆國、日本、臺灣

記事

Saccardo 氏ノ Gibberella Saubinetii 菌ノ記文ト余ガ麥類ノ穗ヨリ得タル菌トヲ比較スルニ子嚢殼ハ兩者殆ンド相符合スレドモ子嚢ハ前者ニ於テ大サ六〇—七六×一〇—一二ミューアリテ我菌ノ八八—一〇〇×一二—一七ミューアルニ比シ甚シク小形ニシテ又子嚢胞子ハ前者ニ於テ一八—二四×四—五ミューアルニ比シ我菌ニ於テ大形ニシテ二六—三二×五・五—六ミューアリ是等兩者ノ差違點ハ更ニ充分比較研究ヲ要スヘキ點ニシテ現今ニ於テ G. Saubinetii 菌ハ種々ノ植物上ニ寄生スルモノ含マレ又其分生胞子時代ナル Fusarium roseum 菌モ亦多數ノ植物上ニ得ラルヽモノ、集合的名稱ノ如ク考ヘラレツヽアルモノニシテ直チニ我菌ニ此學名ヲ襲用スルノ當レリヤ否ヤハ確メ難キモ該菌ガ小麥ニ寄生スル記事ノ存スル以上先ツ當分此學名ヲ用ヒ置

クコトトナセリ

病名

和名 麥類(小麥)赤黴病

英名 Wheat Scab.

白蟲生菌屬 (Genus Ophionectria.)

七二 三叉白蟲生菌

Ophionectria coccicola (E. et. E.) Berl. et. Vogl.

Berlese et Voglino. - Add. Syll. Fung. p. 218., 1886.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. IX. p. 996, 1891.

Zimmermann, A. - Centralb. fuer Bakt., Abt. II. Bd. VII. p. 874., 1901.

Rolfs, P. H. and H. S. Fawcett. - Fung. Diseases of Scale-Insects and Whitefly. p. 11., 1908.

South, F. W. - Control of Scale Insects in the British West Indies by means of Fungoid Parasites. p. 26., 1910.

Miyabe, K. and K. Sawada. - On Fungi Parasitic on Scale-Insects found in Formosa. (Journ. of Coll. of. Agric., Tohoku Imper. Univ., Sapporo, Japan. Vol. V. part 3. p. 84.) 1913.

Sawada, K. - 臺灣總督府農事試驗場特別報告. 第九號. p. 112., 1914.

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

Nishida, T. - 柑橘病害ト豫防法. p. 243, 1914.

Hara, K. - 果樹病害論. 附錄. p. 17, 1916.

SYN. *Nectria coccicola* Ell. et Ev.

Ellis, J. B. et B. M. Everhart. - Journ. Mycol. Vol. II. p. 39, 1886.

病徵及病原菌　擔子體（Sporodochia）ハ一介殼蟲上ニ普通一乃至二箇ヲ生シ球狀乃至倒卵狀ニシテ又先端ニ擴カリテ時ニ二三ノ鋭角ヲナセル突起ヲ作ルモノアリ灰白色乃至帶淡紅灰白色直徑〇・五—一ミメ、アリ其內部ハ念珠狀ナル菌絲ノ錯綜ニヨリテ組成セラル、擔子梗ハ單條ナル念珠狀ニシテ密ニ竝列シ其頂端ノ細胞上ニ各三箇ノ分生胞子ヲ形成ス此分生胞子成熟スルトキハ各々分離シテ脫落スルコトナク必ス擔子梗ノ頂端細胞ト共ニス故ニ分生胞子ハ普通三叉セル如ク認メラル

分生胞子ハ絲狀披針形ニシテ頂端鋭尖頭ニ終ル無色一六—二七箇ノ隔膜ヲ有シ隔膜ニ於テ縊レヲ有セス大サ一二四—二一〇×六—八ミユーアリ

子囊殼ハ一介殼蟲上ニ約十箇乃至十五箇ヲ生シ倒卵狀乃至長倒卵狀ニシテ頂凹陷シ栗褐色乃至帶暗褐色ニシテ高サ〇・五ミメ、直徑〇・三ミメ、アリ

子囊ハ叢生シ圓柱狀棍棒狀ニシテ頂端圓頭、無色ニシテ大サ二二五—二八〇×一九—二〇ミユーアリ　八胞子ヲ含ム側絲ハ多數存在シ無色絲狀ニシテ子囊ト殆ント等長ナリ、子囊胞子ハ圓柱狀棍棒狀、無色乃至藁色ヲ呈シ二〇—二四箇ノ隔膜ヲ有シ大サ七五—一三〇×六—八ミユーアリ

寄主

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

柑橘類ノ葉上ニ寄生スル

ひめくろかひがらむし (Parlatoria Zizyphus Lucas.)

ながかいがらむし (Lepidosaphes Gloveri Pack.)

まるかひがらむし (Aspidiotus Ficus Comst.)

みかんかひがらむし (Lepidosaphes citricola Pack.)

ニ寄生ス

外國ニ於ケル寄主

一 Aspidiotus ficus.

二 Chionaspis citri.

三 Lepidosaphes citricola.

四 Lepidosaphes Gloveri.

五 Parlatoria Zizyphus.

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳基隆	大正二年三月二十二日	新渡戸稲雄
同　古亭庄	明治四十四年四月二十五日	澤田兼吉
同　社皮庄	大正六年五月二十八日	澤田兼吉
宜蘭廳礁溪	大正二年五月十九日	澤田兼吉

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

新竹廳新埔	明治四十三年五月六日	藤黒與三郎
同　同	大正二年三月二十日	澤田兼吉
同　同	大正四年二月十八日	澤田兼吉
同　大茅埔	大正二年三月二十日	澤田兼吉
臺中廳神崗	明治四十四年八月八日	藤黒與三郎
臺中廳員林	大正三年二月十日	澤田兼吉
同　同	大正四年二月十六日	澤田兼吉
嘉義廳嘉義	大正二年五月一日	澤田兼吉
阿緱廳内埔	明治四十二年十一月七日	澤田兼吉

分布　南亞米利加、北亞米利加、西印度、日本、瓜哇、南亞弗利加、臺灣

記事

一、本菌ハ初メ北亞米合衆國フロリダニ於テ Scribner 氏カ採集セル子嚢胞子時代ヲ有スル標本ニ基キ西暦一八八六年 Ellis 及 Everhart 兩氏ノ研究ニヨリ Nectria coccicola ナル學名ヲ與ヘラレシカ後一九〇一年 Zimmermann 氏カ瓜哇ニ於テ其分生胞子時代ヲ發見セリ

二、北米合衆國フロリダニ於テ本菌ハ Lepidosaphes Gloverii 及 citricola ノ驅除上最モ有效ナルモノトシテ知ラレタリシカ本島ニ於テハひめくろかひがらむし (Parlatoria Zizyphus) 及ながかひがらむし (Lepidosaphes Gloverii) ヲ最モ能ク斃死セシム

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

三、我菌ハ Zimmermann 氏ノ記載ニ殆ント一致シ又子嚢胞子時代ハ Ellis 及 Everhart 兩氏ノ記スル所ニ殆ント一致スルモ只我菌ノ子嚢ハ著シク長シ

和名 三叉白蟲生菌

七三 四叉白蟲生菌

Ophionectria tetraspora Miy. et Saw.

Miyabe, K. and K. Sawada. - On Fungi Parasitic on Scale-Insects found in Formosa. (Journ. of Coll. of Agric., Tohoku Imper. Univ., Sapporo, Japan. Vol. V. Part 3. p. 85.) 1913.

Sawada, K. - 臺灣總督府農事試驗場 特別報告 第九號 p. 114., 1914.

Nishida, T. - 柑橘病害ト豫防法 p. 245., 1914.

Hara, K. - 果樹病害論 附錄 p. 18., 1916.

病徵及病原菌 擔子體 (Sporodochia) ハ球狀ニシテ灰白色、一介殼蟲上ニ普通四、五箇ヲ生シ直徑〇・三―〇・八ミメ、アリ 其內部ハ念珠狀ヲナセル菌絲ノ錯綜ニヨリテ組成セラル擔子梗ハ單條ナル念球狀ニシテ密ニ竝列シ其頂端ノ細胞ヨリ三―五箇普通四箇ノ分生胞子ヲ形成ス此分生胞子成熟スルトキハ必ス擔子梗ノ頂端細胞ト共ニ形成セラレタル儘脫落ス

分生胞子ハ圓柱狀披針形ニシテ先端銳尖無色ニシテ一二―二一箇ノ隔膜ヲ有シ大サ一〇五―一九〇×七―九・五ミユーアリ

子嚢殼ハ一介殼蟲上ニ四乃至十數箇ヲ生ス球狀倒卵狀乃至倒卵狀ニシテ灰白色乃至褐色高サ〇・五―〇・六ミメ、直

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

徑〇・五ミ、アリ子嚢ハ叢生シ棍棒狀ニシテ頂端圓頭、無色、八胞子ヲ含ミ大サ一四二―一七七×一七―二〇ミユーアリ側絲ハ多數存在シ絲狀ニシテ子嚢ト殆ト等長ナリ子嚢胞子ハ棍棒狀ニシテ頂圓頭、基端鈍頭ナリ無色乃至藁黄色ニシテ一一―一七箇ノ隔膜ヲ有シ大サ五〇―六四×六・五―七・五ミユーアリ

寄生

柑橘類ノ葉枝上ニ寄生スルひめくろかひがらむし(Parlatoria Zizyphus Lucas.)及ながかひがらむし(Lepidosaphes Gloverii Pack.)ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂内埔庄　明治四十四年三月十一日　藤黒與三郎

嘉義廳山仔頂庄　明治四十四年七月十日　澤田兼吉

分布　臺灣

記事

本菌ハ Ophionectria 屬ノ既知種類ト全ク異ルモノニシテ最モ近親ナルハ O. coccicola (E. et E.) Berl. et Vogl. ナリソレトノ區別點ハ左ノ如シ

一、本菌ノ分生胞子ハ擔子梗ノ頂端ニ三―五箇普通四箇ヲ形成スルモ O. coccicola 菌ニアリテハ殆ント常ニ三箇ヲ形成ス

二、本菌ノ子嚢及子嚢胞子ハ O. coccicola 菌ノソレヨリ著シク短ク殆ント其半バニ過キス

和名　四叉白蟲生菌

赤蟲生菌屬 (Genus Sphaerostilbe.)

七四 赤蟲生菌

Sphaerostilbe coccopila Tul.

Tulasne, L. R. et C. Tulasne. - Selecta. Fung. Carpol. III. p. 105., 1865.

Saccardo, p. - Syll. Fung. Vol. II. p. 513., 1883.

Rolfs, P. H. - Florida Agric. Expt. St. Bull. XXXXI.

Rolfs, P. H. and H. S. Fawcett. - Florida Agric. Expt. St. Bull. 94.

Fawcett, H. S. - Fungi Parasit. upon Aleyrodes Citri. p. 25., 1908.

South, F. W. - Control of Scale Insects in the British West Indies by means of Fungoid Parasites. p. 28., 1910.

Miyabe, K. and K. Sawada. - On Fungi Parasit. on Scale-Insects found in Formosa. (Journ. of Coll. of Agric., Tohoku Imper. Univ., Sapporo, Japan. Vol. V. part 3.) 1913.

Sawada, K. - 臺灣產介殼蟲ノ寄生菌（臺灣總督府農事試驗場特別報告 第九號）1914.

Nishida, T. - 柑橘病害ト豫防法 p. 247., 1914.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料. 第五（臺灣博物學會々報 第二十號）1915.

Hara, K. - 果樹病害論 附錄 p. 14., 1916.

SYN. *Microcera coccophila Dasm.*

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

Desmazières. - Ann. Sc. Nat. 1848. p. 359.
Tulasne, L. R. et C. Tulasne. - Selecta Fung. Carp. Tome III. p. 105., 1865.
Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. IV. p. 727., 1886.
Mc Alpine, D. - Fungus Diseases of Citrus Trees in Australia. p. 113., 1899.

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

病原菌

分生胞子時代—擔子體ノ形ハ種々ナレトモ大抵倒卵狀乃至長棍棒狀、深紅色乃至橙紅色ニシテ介殼蟲ノ周邊ヨリ一乃至數箇ヲ生ス長サ〇。五—一。五ミメ、アリ 此擔子體ハ介殼蟲ノ甲殼ノ緣邊ニ僅カニ生スル子座ヨリ生スルカ或ハ全ク子座ヲ缺キ密ニ束ネラレタル擔子梗ヨリ組成セラル、擔子梗ハ絲狀ニシテ長ク單條又ハ分枝シ甚タ屢々相隣接セル擔子梗ト互ニ短キ横線ニヨリテ結付ケラル普通一二—一四箇ノ隔膜ヲ存シ直徑三—四ミュー アリ 分生胞子ヲ頂生ス

分生胞子ハ長キ紡錘形ニシテ稍々彎曲シ兩端鎌狀ヲナシ無色（集合ニ於テ石竹色）平滑ニシテ五—一一箇ノ隔膜ヲ有シ兩端ノ細胞ハ屢々透明ニシテ極微細ナル顆粒體ヲ缺ケリ大サ七四—一三五×四—八ミュー アリ

子嚢胞子時代—子嚢殼ハ擔子體ノ基部又ハ其近傍ニ群生シ深紅色卵狀ニシテ頂廣短ノ突起ヲ有シ屢々二三箇癒合スルコトアリ大サ三四〇—四七〇×二五〇—三七五ミューアリ 子嚢ハ多數叢生シ圓柱狀ニシテ先端圓頭、無色ニシテ八箇（稀ニ六、七箇ヲ有スルコトアリ然レ共之レ異式ナリ）ノ子嚢胞子ヲ含ミ大サ一二〇—一四八×八—一二ミューアリ子嚢胞子ハ無色平滑ニシテ楕圓形乃至長楕圓形ヲナシ各中央ニ一箇ノ横隔ヲ有シ隔膜ニ於テ縊ヲナササルカ

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

或ハ時ニ多少縊ヲナシ大サ一二—二二×六—一〇・五ミューアリ胞子老熟スレハ多少紅色ヲ帶フニ至ル

臺灣ニ於ケル寄主

柑橘ノ葉及枝梢上ニ寄生スルながかひがらむし(Lepidosaphes Gloverii Pack.)ひめくろかひがらむし (Parlatoria Zizyphus Lucas.) まるかひがらむし (Aspidiotus Ficus Comst.) 等

あかうノ幹ニ寄生スル介殼蟲ノ一種

茶樹枝梢上ニ寄生スルみかんたまかひがらむし (Lecanium hemisphaericum.)

想思樹ノ幹ニ寄生スル介殼蟲ノ一種

たいわんやなぎノ枝ニ寄生スル介殼蟲ノ一種

せんだんノ枝幹上ニ寄生スル介殼蟲ノ一種

世界ニ於ケル寄主

1. Aleyrodes citri
2. Aonidia bullata
3. A. crenulata
4. Aspidiotus aonidum
5. A. ancylus
6. A. articulatus
7. A. Aurantii

8. Aspidiotus Camelliae
9. A. ficus
10. A. Hederae
11. A. Nerii
12. A. obscurus
13. A. perniciosus
14. A. tenebricosus
15. Asterolecanium pustulans
16. Chionaspis citri
17. C. theae
18. Dactylopius citri ?
19. Diaspis pentagona
20. D. sp.
21. Fiorinia fioriniae
22. Ischnaspis filiformis
23. Lecanium Oleae
24. L. sphaericum

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

25. L. viride ?

26. Lepidosaphes citricola

27. L. Gloverii

28. L. pomorum

29. Parlatoria Pergandii

30. P. Ziziphus

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳基隆	(柑橘)	明治四十四年三月二十八日	澤田兼吉
同　古亭庄	(柑橘)	明治四十四年三月二十八日	澤田兼吉
同　頂內埔庄	(柑橘)	明治四十四年二月二十四日	藤黒與三郎
同　同	(柑橘)	明治四十四年三月一日	藤黒與三郎
同　同	(柑橘)	大正二年一月三十日	澤田兼吉
同　同	(想思樹)	大正三年十二月十七日	藤黒與三郎
同　同	(せんだん)	大正六年五月二日	澤田兼吉
同　士林	(柑橘)	明治四十四年五月五日	澤田兼吉
同　草山	(柑橘)	明治四十四年五月五日	澤田兼吉
宜蘭廳蘇澳	(柑橘)	大正二年五月十九日	澤田兼吉

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

宜蘭廳白米甕	（柑橘）	大正六年五月二十五日	澤田兼吉
新竹廳大茅埔	（柑橘）	大正二年三月二十日	澤田兼吉
同　新埔	（柑橘）	明治四十四年一月一日	藤黒與三郎
同　同	（柑橘）	大正二年三月二十日	澤田兼吉
同　同	（柑橘）	大正四年二月十八日	澤田兼吉
同　双溪庄	（柑橘）	大正四年一月	川上瀧彌
同　北埔	（柑橘）	明治四十三年五月四日	藤黒與三郎
臺南廳蔴荳	（柑橘）	明治四十一年十月二十八日	澤田兼吉

世界ニ於ケル分布

歐洲—佛蘭西、英國、白耳義、伊太利、

亞弗利加—ナタール、トランスバール、西亞弗利加、ミーリッシアス、

亞細亞—印度、錫蘭、日本、臺灣、

濠洲—ニユーサウスエールス、クイーンスランド、

亞米利加—フロリダ、ヂョールヂア、フイラデルフイア、ポートリコ、キユバ、アラバマ、ジヤマイカ、アンチグワ、モントセラート・ドミニカ、セントルシア、セントビンセント、グレナダ、トリニダット

記事

一、本菌ハ世界ニ廣ク分布セラレ又多數ノ介殼蟲ヲ襲ヒテ斃死セシムル有益菌ノ一ニシテ臺灣ニ於テモ柑橘、

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

想思樹、楝、柳其他ヲ害スル介殻蟲ニ寄生シ殊ニ柑橘園ニ到リテ觀察スレハ此菌ニヨリテ無數ノ介殻蟲カ不絶驅除サレツヽアルヲ見ルヘク甚タ屢々一面ニ枝葉上ニ附着スル介殻蟲カ殆ント全部此菌ニヨリテ斃サルヽヲ見ルナリ

二、本菌ノ分生胞子ハ大小アルモノニシテ余カ撿セシ數十ノ標品中ニ胞子ノ長サ長キアリ短キアリ又幅廣キアリ狹キアリテ一定セス又外國ヨリ記述セラレタルモノモ亦著者ニヨリテ異ナレリ今左ニ外國ニ於ケル記載及余カ日本及臺灣ニ於テ得タル標品ニヨル分生胞子トヲ一表ニ掲クレハ

著者及産地	分生胞子（ミュー）	隔膜數
Mc Alpine（濠洲）	七五―一〇三×五・五―八・五	五―八
Desmazieres（佛蘭西）	七〇―一〇〇×四・〇―五・〇	三―五
Tulasne（佛蘭西）	六五×六・〇	五―七
Fawcett（北米合衆國）	七〇―一一二×三・五―六・〇	―
Ellis及Everhart（北米合衆國）	五六―六五×五・〇―六・〇	五―七
Sawada（北海道）林檎	七四―一〇八×四・〇―六・〇	五―九
同（盛岡）桃	九二―一二四×五・〇―六・五	七―一〇
同（靜岡）林檎	八九―九六×五・〇―六・〇	五―九
同（靜岡）柑橘	九五―一一七×六・〇―七・〇	五―九

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

Sawada	(臺灣)柑橘	一〇〇―一三五×五・五―八・〇	七―一〇
同	(臺灣)柑橘	九二―一〇六×五・五―六・五	七―九
同	(臺灣)茶	八五―一〇〇×六・〇―六・五	五―九
同	(臺灣)あかう	八二―九〇×四・〇―六・〇	七―八
同	(臺灣)想思樹	一〇四―一三二×六・〇―八・〇	七―一一

此表ヲ通覧スルニ各々大體ニ於テハ相近シトスルモ或者ハ甚タ大形或者ハ甚タ小形ニシテ是等ノ中ノ數箇ハ別種ナラサルカノ疑念ヲ抱カシム然レ共一葉上ヨリ得タル擔子體中ニテモ胞子ノ大小ヲ示スモノアリ又一箇ノ擔子體中ニテモ甚タ變化ニ富ムモノアリテ余ハ未タ是等ヲ區別スヘキ明確ナル點ヲ見出シ得ス

三、本菌ノ子嚢胞子時代ニ就テハ余ハ臺灣總督府農事試驗場特別報告第九號ニ記載シタル迄ハ只茶樹ニ寄生スル介殼蟲ニ僅カニ形成セラレタル子嚢殼ヲ發見シタルノミニシテ之レニヨリテ記載セシカ其後大正三年末臺北ニ於テ想思樹ノ樹幹ノ皮上ニ寄生セル介殼蟲上ニ多數發見シ之レヲ撿セシニ子嚢殼ハ充分成熟シ居リ前回ニ記載セシモノヨリ大形ナル子嚢胞子ヲ得、臺灣博物學會々報第二十號ニ之レヲ掲載シ置キタリキ其後大正六年五月宜蘭廳下ニ於テ柑橘ニ寄生セシひめくろかひがらむし上ニ稍々多數ノ子嚢殼ヲ得之レヲ撿セシニ臺北廳下ニテ得タル想思樹上ノ子嚢胞子ト殆ント相近ク寧ロソレヨリ大形ナリキ左ニ外國ニテ記載セラレタル子嚢胞子時代ト余カ撿セシモノトヲ一表ニ現シ比較センニ

著者及産地	子嚢殼（ミュー）	子嚢（ミュー）	子嚢胞子（ミュー）
Tulasne（佛蘭西）	——	六〇—八〇×六・五	一〇×五
Fawcett（北米合衆國）	三五〇—三九〇×三〇〇	七〇—九八×八—一三	一三—一八×七—九
Sawada（臺灣）茶	二六二—三六五×一九四—三一〇	七四—一一三×八—一一	八—一〇×四—六
同（臺灣）想思樹	三四〇—四七〇×二五〇—三七〇	一三〇—一四〇×八—九・五	一三—二〇×六—一〇
同（臺灣）柑橘	三四〇—四四五×二六〇—三七五	一三五—一四八×九—一三	一三—一三×六—一〇・五

茶樹介殼蟲上ニ得タル當時ハ Tulasne 氏ノ記文ニ一致シ想思樹及柑橘ノ介殼蟲上ニ得タルモノハ Fawcett 氏ノ記文ニ近シ余ハ是等三者ニ就テ經驗スルニ其子嚢胞子ノ大小ハ成熟程度ニヨリテ異ナリ只數箇ノ子嚢殼ヲ取リテ之レヲ撿シ胞子小形ナリトテ一時ニ之レヲ別種トナシ難ク再三標品ヲ更ヘテ精査スルヲ要ス余ノ最近ニ檢査セル柑橘ノ介殼蟲上ヨリ得タルモノ、内ニハ胞子小形ニシテ普通二〇×九ミュー アルヘキニ一二×六ミュー アルモノカ充分成熟シテ發芽シ居タルヲ認メタリ

分生胞子時代ニ於テモ亦子嚢胞子時代ニ於テモ成熟程度及乾濕、天候、營養等ニ支配セラレテ形ノ大小ヲ生スルモノナルヘケレハ余ハ我菌ハ歐米ニ繁殖シツヽアル Sphaerostilbe coccophila Tul. 菌ト同一ナリト認定ス

四、本菌ノ分生胞子ハ成熟シ水濕ニ遭ヘハ直チニ其場所ニ於テ發芽シ先ツ其數箇ノ細胞發芽シ漸次餘他ノ細胞發芽ス、其發芽管ハ基部ニ於テ稍々太ク漸次先端ニ向ツテ細ク直徑二—四ミューアリ 隔膜ヲ有シ分枝シテ長

ク伸長ス又子嚢胞子ハ成熟スレハ子嚢殼ノ孔口ヨリ縊出シ水濕ニ遭ヒテ其附近ニ或ハ他ニ流レテ發芽スルモ時ニハ子嚢殼內ニ於テ多クノ胞子カ發芽スルコトアリ子嚢胞子發芽スレハ其一胞又ハ二胞ヨリ發芽管ヲ生ス發芽管ハ直徑二—三・五ミュ・アリ隔膜ヲ有シ分枝シ長ク伸長ス

和名 赤蟲生菌

肉座菌亞科 (Subfam. Hypocreae.)

肉座菌屬 (Genus Hypocrea.)

七五 ぼたんたけ

Hypocrea lenta (Tode.) Berk. et Br.

Yasuda, A.—臺灣ノ菌類（理學界、第十五卷、第三號、一八頁）一九一七

寄主 木ノ上

臺灣ニ於ケル分布

嘉義廳關仔嶺（大正五年七月二十九日）酒井菊雄

分布 錫蘭、臺灣

和名 ぼたんたけ

麥角菌亞科 (Subfam. Clavicipiteae.)

黃疣蟲生菌屬 (Genus Hypocrella.)

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

七六 粉虱黃疣蟲生菌

Hypocrella Aleyrodis (Webb.) Sawada.

Sawada, K.-植物學雜誌. 第廿八卷. 第 330 號. p. 279., 1914.

Hara, K.-果樹病害論. 附錄. p. 20., 1916.

SYN. *Aschersonia Aleyrodis Webb.*

Webber, H. J.-Sooty Mold of the Orange and Its Treatment. p. 20., 1897.

Saccardo, P.-Syll. Fung. Vol. XIV. p. 991., 1899.

Rolfs, P. H. and H. S. Fawcett.-Fungus Diseases of Scale-Insects and Whitefly. p. 15., 1908.

Fawcett, H. S.-Fungi Parastic upon Aleyrodes Citri. p. 10. 1908.

Miyabe, K. and K. Sawada.-On Fungi Parasitic on Scale-Insects found in Formosa. (Journ. of Coll. of Agric. Tohoku Imper. Univ., Sapporo, Japan. Vol. V. Part 3. p. 76.) 1913.

Sawada, K.-臺灣總督府農事試驗場. 特別報告. 第九號. p. 123., 1914.

Nishida, T.-柑橘病害ト豫防法. p. 224., 1914.

SYN. *Aschersonia tahitensis Webb.*

Webber, H. J.-Preliminary Note of a Fungus Parasitic on Aleyrodes Citri. p. 363., 1894.

Swingle, W. T. and H. J. Webber.-The Principal Diseases of Citrus Fruits in Florida. p. 27., 1896.

SYN. *Hypocrella Raciborskii Zimm.*

Zimmermann, A.-Centralb. fuer Bakt. Abt. II. 1901. p. 875.
Saccardo, P.-Syll. Fung. Vol. XVII. p. 818., 1905.
Nishida, T.-柑橘病害ト豫防法. p. 251., 1913.

病原菌 子座ハ葉ノ表裏ニ生シ介殼蟲ノ體ヲ全ク包被シ扁半球形乃至半球形ヲナシ時ニ切頭ヲナスモノアリ帶黃白色乃至帶紅橙黃色ニシテ直徑一―三ミ、メ、アリ 革質ニシテ頗ル厚膜ナル菌絲（直徑三・五―八ミュー）ノ錯綜ニヨリテ組成セラル子座ノ周圍ニハ白色乃至帶白色ナル一―二・五ミ、メ、ノ幅ヲ有スル Hypothallus ヲ圍ラス又古キ子座ニハ之レヲ缺ケリ子殼ハ子座內ニ全ク埋モレ形不規則ニシテ表面ニ孔口ヲ開ク孔口ハ小ナル圓孔又ハ空隙ヲナス擔子梗ハ絲狀ニシテ分枝シ密ニ束ネラレ大サ五五―七〇×一ミューアリ 側絲ハ擔子梗ヨリ長クシテ毛狀長サ八五―一〇八ミューアリ胞子ハ紡錘形、無色、單胞ニシテ大サ一一―一三×一―一・五ミューアリ 粘着性ヲ帶ヒ胞子塊ハ普通橙赤色ナリ

子囊殼ハ子殼時代ニ於ケル子座上ニ後ニ特ニ形成セラル、小球狀ノ子座內ニ形成セラル此小子座ハ子殼時代ノ子座上ニ數箇乃至約五十箇形成セラレ其色普通黃白色乃至帶白橙黃色ニシテ直徑〇・五―〇・七ミ、メ、アリテ卵球狀又ハ球狀時ニ癒合的ナルモノアリ子囊殼ハ一小子座內ニ普通一箇時ニ二三箇形成セラレ全ク埋モレ孔口ハ表面ニ細點トシテ現ハル、ノミナリ卵狀ニシテ頂嘴狀ヲナシ黃褐色大サ三八〇―五〇〇×二一〇―二五〇ミューアリ 子囊ハ多數叢生シ圓柱狀ニシテ基部ニ少シク狹マリ頂端半圓形又ハ三角狀ニ肥厚セラル大サ一九五―二五五×一〇―一四ミューアリ子囊內ニハ初メ子囊ト稍々等長ニシテ纖細絲狀ナル八胞子ヲ形成スルモ後各胞子ハ三―八ミューノ距離ニ隔膜ヲ生シ最後ニ各節紡緟形トナリテ分離シ小胞子トナル小胞子ハ一子囊內ニ數百箇、無色、單胞、紡錘形、同

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

質ニシテ大サ一〇—一四×三—三・五ミューアリ

臺灣ニ於ケル寄主

柑橘類ノ葉枝上ニ寄生スル

ひめくろかひがらむし (Parlatoria Zizyphus Lucas.)

みかんのわたかひがらむし (Pulvinaria Aurantii Ckll.) 及ビ

ふとながかひがらむし (Lecanium longulum Dougl.) 及ビ

はまいぬびは (Ficus vasculosa) ノ葉裏ニ寄生スル Aleyrodes sp. ニ寄生ス

外國ニ於ケル寄主

1. Aleyrodis citri (フロリダ、キユバ)
2. Aleyrodis Howardii (キユバ)
3. Aleyrodis sp. (セイロン)
4. Lecanium sp. (セイロン)

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳基隆	大正二年三月二十二日	新渡戸稻雄
臺北廳頂内埔庄	大正二年十一月二十二日	澤田兼吉
同　同	大正三年十二月十四日	澤田兼吉
同　同	大正四年三月八日	澤田兼吉

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

宜蘭廳礁溪	大正二年五月十九日	澤田兼吉
同　宜蘭	大正二年五月二十日	澤田兼吉
新竹廳大茅埔	大正二年三月二十日	澤田兼吉
臺中廳關帝廳	大正二年四月二十七日	澤田兼吉
同　同	大正二年十月十三日	藤黒與三郎
同　同	大正六年七月十六日	藤黒與三郎
臺中廳五汴頭	大正四年二月十六日	澤田兼吉
同　北斗	明治四十四年七月七日	澤田兼吉
嘉義廳斗六	明治四十四年七月十三日	澤田兼吉
同　西螺	明治四十二年十一月十三日	澤田兼吉
同　同	明治四十四年七月四日	澤田兼吉
同　山仔頂	明治四十四年七月十三日	澤田兼吉
同　嘉義	明治四十四年七月十日	澤田兼吉

外國ニ於ケル分布

北米合衆國、キユーバ、錫蘭、爪哇、臺灣

記事

一、Webber氏ハ本菌ノ子殼時代ニ於ケル子實層面ニ多クノ側絲ヲ生スルヲ認メ其側絲ハ黑色ニ見ユル隔膜ヲ

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

生スルコトヲ著シキ特徴ノ如ク思考セリ余カ我菌ニ就テ觀察セシ所ニヨレハ此側絲ハ全ク隔膜ヲ有セサルモノアリ又有スル如ク見ユルモノアリテ一定セス之レヲ強度ノ顯微鏡ニテ觀察スルニ側絲ハ元光線ヲ屈折スル內容ヲ含容シ此時ニアリテハ隔膜ヲ有セサルモノトシテ見ラル然レトモ後ニ至リテ其內容減少シ所々ニ殘存シ恰モ硝子管ニ水滴ヲ點滴シタル如ク內容ト空所ト交互ニ不規則ナル間隔ニ容リ此時ニアリテハ隔膜ヲ有スル如ク見エ更ニ內容減少シタルモノハ全ク空トナル Webber 氏ノ觀察セルモノハ恐ラクハ內容ノ減少シタルモノヲ見誤リタルナルヘシ又此側絲ハ子實層內ニ於ケル部分即チ基方ニ於テ二三分岐スルモノアリ

二、擔子梗ハ單條ニシテ全ク分岐セザル如ク Webber 氏及其他ノ著者カ記錄セシモ之レヲ精細ニ檢査スレハ兩叉又ハ三叉ニ一乃至四回分岐スルヲ認メタリ

三、Zimmermann 氏ハ爪哇產 Hypocrella Raciborskii Zimm. ナル菌類ヲ發表セリ其記スル所ハ我菌ト殆ント一致シ只子囊胞子ハ絲狀ニシテ子囊ト等長幅二ミュー平行又ハ旋曲シ節ヲ有シテ分離セスト記セシカ之我菌ノ子囊胞子ノ發達順序ヲ觀察スレハ全ク我菌ト同一種ナルヲ思ハサルヲ得ス

和名 粉虱黃疣蟲生菌

粘穗菌屬 (Genus Balansia.)

七七 おきなはみちしば粘穗病菌

Balansia Andropogonis Syd.

Sydow, H. et P. et E. J. Butler. - Fungi Indiae Orientalis. (Ann. Mycol. Vol. IX. p. 395.) 1911.

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

Sawada, K. - 臺灣菌類資料. 第九. (臺灣博物學會々報. 第廿五號. p. 133.) 1916.

SYN: *Ephelis pallida* Pat.

Patouillard: Journ de Bot. 1897. p. 372.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. XIV. p. 1003, 1899.

病徵　花穗ヲ侵ス花穗ノ未ダ葉鞘內ニ包マル、間ヨリ白色ノ糊狀物ニ包被セラレ頓テ抽出セラル、モ穗カ開展スルコトナクシテ一本ノ長紡錘形ナル鎗形トナリ後漸次灰白色トナリ猶其表面ニ灰色又ハ暗灰色ノ斑紋ヲ現ハシ終期ニ至リテ其表面ニ黑色ナル疣ヲ生ス而シテ穗ハ全ク實ルコトナク枯死ス

病原菌　穗ノ表面ニ現ハル、暗灰色ノ斑紋ハ胞子層ニシテ胞子層ハ形不定ニシテ圓狀ナルアリ癒着形ナルアリ周圍稍々高クシテ皿狀ヲナシ後ニ至リテ黑色トナルコトアリ長徑普通〇・五―三ミメ、アリ

擔子梗ハ細クシテ分枝シ高サ六〇―一〇五ミユー直徑約二ミユーアリ分生胞子ハ無色絲狀ニシテ一端ニ向ツテ稍々太ク單胞平滑大サ一二―二〇×一―二・五ミユーアリ

胞子層ヨリ後ニ至リテ黑色扁半球狀ナル子座ヲ生ス、子座ハ群生又ハ散生シ一穗上ニ數箇乃至約三十箇ヲ形成ス黑色平滑ニシテ光澤ナク多少凹凸アリ之レヲ切斷スレハ內部ハ藁色ヲ呈シ直徑〇・五―一・五ミメ、アリ　子座ノ內部ヲ構成スル菌絲ハ太サ二―四ミユーアリテ互ニ癒着セリ

子嚢殼ハ子座內ニ埋マリ長卵狀ニシテ大サ二二〇―二五〇×一〇〇―一二〇ミユーアリテ孔口ヲ表面ニ開ク未タ成熟セルモノヲ得ス

寄主植物　おきなはみちしば (Andropogon aciculatus Retz.) ノ花穗

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂内埔庄		明治四十一年九月二十六日	藤黒與三郎
同	同	明治四十四年十一月九日	澤田兼吉
同	同	大正五年九月十一日	澤田兼吉
臺北廳景尾庄		明治四十一年七月十日	鈴木力治
同	同	明治四十一年九月二十九日	藤黒與三郎
同	深坑	明治四十一年七月十日	鈴木力治
同	頂双溪	明治四十二年七月五日	藤黒與三郎
臺中廳公館		明治四十四年八月八日	藤黒與三郎
花蓮港廳薄々社		明治四十四年六月六日	澤田兼吉

分布 トンキン、菲律賓、印度、臺灣

記事

一、本島ニ廣ク分布シ且ツ夏秋季ニ極メテ普通ニ發見セラル、モ子嚢殼ヲ形成スルモノ甚タ稀ナリ印度ニ於テモ本島ニ於ケルト等シク子嚢殼ヲ形成スルコト稀ナリト見エ Sydow 氏モ亦未熟ナルモノニ就テ記載セリ而シテ未タ子嚢胞子ノ記述セラレタルコトナシ

二、本菌ノ Ephelis 時代ハ西暦一八九七年 Patouillard 氏ニヨリ發表セラレ其學名ヲ Ephelis pallida Pat. トイフ Sydow 氏ハ其子嚢殼時代ヲ檢シ學名訂正ノ必要ヲ生シ Balansia pallida (Pat.) トナスヘキモノナレ共西暦

一八八七年 Winter 氏ノ既ニ Brasil ニ於テ Luziola peruviana ニ寄生スル菌ヲ發見シ之ニ Balansia pallida Wint. ナル學名ヲ命シタルモノアルニヨリ Patouillard 氏ノ舊名ヲ採用セスシテ新ニ Balansia Andropogonis Syd. ナル學名ヲ命シタルナリ

三、Ephelis 屬ノ菌カ寄生スル寄主植物ハ本島ニ多シ例ヘハ

ときはすゝき　(Miscanthus japonicus)
すゞめのこびえ　(Paspalum scrobiculatum)
のびえ　(Panicum crus-galli)
しますゝき　(Erianthus pollinoides)
おほぬかきび　(Panicum paludosum)
さゝくさ　(Lophatherum gracile)
テオシント　(Euchlaena luxurians)

是等ノ寄主植物上ヨリ得タル胞子ハ多少ノ大小アリト雖モ甚タ近似セルモノナリ然レ共未タ其同一種ナルヤ否ヤヲ確メ得ス

和名　おきなはみちしば粘穗病

擬黑穗菌屬 (Genus Ustilaginoidea.)

七八　むらさきわせをばな麹病菌（第八圖版、二三一—二七）

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

Ustilaginoidea Sacchari-narengae Saw.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料、第一（臺灣博物學會々報、第十五號、一九一四）

病徴　むらさきわせをばな（Saccharum narenga Hann.）ノ穂ノ一部ニ直徑約一―二ミメノ堅キ帶橄欖暗色ノ塊ヲ夥多群生ス其一粒ヲ取リテ精査スルニ概形輕氣球狀乃至洋獨樂狀ニシテ其基部ニ螽花ノ基部ノ白毛ヲ存シ且ツ其兩側ニハ穎ヲ附着ス此菌核ノ上面ニハ初メ灰白色ノ被膜ヲ被ムルモ頓テ破レテ帶橄欖暗色ノ粉末ヲ散ス

病原菌　菌核ハ輕氣球狀乃至洋獨樂狀、表面帶橄欖暗色ノ粉末ヲ生シ長サ三―四ミメ、幅一・五―三ミメアリテ堅シ之レヲ縱斷スレバ内部帶白色乃至クリーム色ニシテ堅ク其組織内ニ子房、花柱、蕋狀ニ分レタル柱頭、（雄蕋等花部ニ備ハルヘキ器關ヲ埋藏シ其色銹色ヲナセリ　菌核ノ上方ノ外層ニハ帶橄欖暗色ノ粉末ノ一層ヲ置キ其厚サ〇・五―〇・七ミメアリ之レ胞子ノ集層ナリ

内部組織ハ中央ニ近キ部分ハ菌絲緊密ニ壓集シテ成リ厚膜ニシテ普通三・五―四・五ミューノ直徑アリ　又胞子層ニ近キ部分ハ全ク組織狀ヲナシ其細胞ノ直徑ハ普通二―三・五ミューアリ其部分ノ上面ヨリ無色ノ菌絲（其上ニ胞子ヲ形成スヘキ）ヲ生ス其菌絲ハ無色ニシテ隔膜ヲ有シ直徑一―一・五ミューアリ其周圍ニ極微細ナル疣ヲ生シ其疣ハ胞子ヲ形成セシ柄ナリ胞子ハ橄欖暗色、球狀乃至卵狀ニシテ比較的大形ナル疣ヲ以テ被ハレ直徑四―五・五ミュー（普通四・五―五ミュー）アリ

寄主植物

むらさきわせをばな（Saccharum narenga Hann.）ノ穂ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

阿緱廳蕃薯藔溪州庄　明治四十年十二月十日　島田彌市

記事

菌核ノ表面ヲ濕布ニテ輕ク摩擦スルトキハ直チニ胞子層除去セラレテ内部ノ堅キクリーム色ノ平滑ナル菌核面ヲ現ハス此菌核ノ縱斷面ハ稻麴病菌（Ustilaginoidea virens (Cooke.) Takah.）ノ菌核ニ於ケル如キ平行セル菌絲ヲ見ス又胞子ノ成熟程度ヲ示ス所ノ色彩ニヨル層ヲ見ス

本菌ハ既知種類ニ全ク符合セス

七九　稻麴病菌

病名

和名　むらさきわせをばな麴病

Ustilaginoidea virens (Cke.) Takah.

Takahashi, Y. - On Ustilago virens Cooke and a New Sp. of Tilletia parasitic on Rice Plant. (Tokio Bot. Mag. Vol. X. No. 109.) 1896.

Hori, S. - 農作物病學. p. 121., 1904.

Yamada, G. - 植物病理學. p. 386., 1904.

Kawakami, T. and R. Suzuki. - 臺灣作物病害目錄. 其一. p. 3, 1908.

Miyake, I. - 我國ニ於ケル稻ノ菌類ノ研究（東京植物學雜誌. 第二十三卷. p. 140.）1909.

Miyake, I. - Stud. ueber die Pilze der Reispflanze in Japan. (Journ. of Coll. of Agric, Imper. Univ.

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

of Tokio. Vol. II. No. 4. p. 265.) 1910.

Stevens, F. L. and J. G. Hall. - Dis. of Econom. Plants. p. 354., 1910.

Ideta, A. - 日本植物病理學. p. 246., 1911.

Sawada, K. - 臺灣農事報. 第六十三號. p. 11., 1912.

Stevens, F. L. - Fungi which cause Plant Diseae. p. 214., 1913.

Butler, E. J. - Diseases of Rice. (Agric. Res. Instit., Pusa. Bull. No. 34. p. 30. 1913.

Hara, K. - 稻ノ病害. p. 66., 1918.

Butler, E. J. - Fungi and Disease in Plant. p. 228., 1918.

Reinking, O. A. - Philippine Econom. Plant Diseases. (Philippine Journ. of Science. Vol. XIII. No. 5 p. 226.) 1918.

SYN. *Ustilago virens Cooke.*

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. VII. p. 467., 1888.

Thuemen, F. von. - Die Pilze der Reispflanze. p. 13., 1889.

SYN. *Tilletia Oryzae Pat.*

Patouillard, N. - Bull. de la Soc. Mycol 1887. p. 124.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. IX. p. 286., 1891.

SYN. *Ustilaginoidea Oryzae* (*Pat.*) *Bref.*

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

Brefeld, O. - Untersuch. aus dem Gesamtg. der Mykol. Heft XII. p. 194., 1895.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. XIV. p. 431., 1899.

病徵　稻ノ子房ヲ侵シ一穗中普通數粒乃至十數粒ヲ侵スニ過キス粳ヨリハ糯ニ於テ被害多シ初メ被害籾ノ穎ハ少シク開キ內ヨリ淡黃綠色ノ肉塊ヲ生シ時ヲ經ルニ從ヒテ其肉塊ハ穎ヲ包被シ暗黃綠色トナリ表面ニ龜裂ヲ生ス其大サ健生籾ノ四倍トナルガ故ニ其重ミニヨリテ下垂ス

其大サノ大ナルト暗色ヲ呈スルトニヨリ圃場ニ於テ其發生ヲ容易ニ認メ得ベシ此病害發生ハ天候ニヨリテ支配セラル、モノ、如ク內地ニ於テハ之レヲ豐年穗ト稱シ豐年ノ年ニ發生ヲ見ルガ故ニ或ル意味ニ於テ其發生ヲ喜ブモノ、如シ臺灣ニ於テモ之レヲ稻母(Chiubu)ト稱シ內地ト等シキ意味ヲイフ

病原菌　罹病籾ヲ切斷スルトキハ心髓部白色ニシテ漸次外方ニ向ツテ淡黃色、橙黃色、黃綠色ヲナシ最外部ハ粉狀ニシテ帶暗黃綠色ナリ白色ナル心髓部ヨリ外方ニ向ツテ放射狀ヲナセル菌絲密ニ束ネラレテ稍々組織狀ヲナシ白色ナル部分ニハ胞子ヲ全ク見ス外方ニ向フニ從ヒテ該菌絲上ニ胞子ヲ形成ス故ニ其成熟程度ニヨリテ肉塊組織ノ着色ヲ異ニスルモノナリ而シテ最外部ハ胞子ト萎凋セル菌絲ノ存在スルヲ認ムベシ

胞子ハ菌絲ノ周圍ニ生スル小突起ノ上ニ形成セラレ概形球狀、卵狀、楕圓狀等ニシテ表面ニ比較的大ナル（胞子ノ大サノ割合ニ對シ）數多ノ疣ヲ布ケルヲ以テ不正形トナル單胞ニシテ帶暗黃綠色ヲナシ大サ四—六ミュー長形ナルハ七又ハ八ミューニ達スルモノアリ

寄主植物

稻（Oryza sativa L.）ノ子房ニ寄生ス

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳金包里	明治四十二年七月十二日	藤黒與三郎
同　頂双溪	明治四十一年七月十一日	藤黒與三郎
同　頂內埔庄	明治四十二年十月	澤田兼吉
同　同	明治四十二年十月二十九日	蘇　恙
同　同	明治四十二年十一月六日	藤黒與三郎
同　同	明治四十三年十月二十四日	藤黒與三郎
同　同	大正五年八月三日	澤田兼吉
同　同	大正五年十一月九日	藤黒與三郎
南投廳土城區	明治四十年十月二十七日	鈴木力治
同　同	大正二年十月十九日	藤黒與三郎
同　埔里社	大正二年十月十八日	藤黒與三郎
同　福興庄	大正二年十月十八日	藤黒與三郎
同　魚池	明治四十年十月三十日	鈴木力治
同　集々	大正二年十月十七日	藤黒與三郎
嘉義廳嘉義	明治四十一年十一月五日	澤田兼吉
同　同	明治四十一年十一月九日	澤田兼吉

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

嘉義廳嘉義	明治四十一年十一月	川上瀧彌
同　同	明治四十二年十一月十一日	澤田兼吉
嘉義廳水堀頭	明治四十一年十一月十一日	澤田兼吉
同　中埔	大正元年十月	川上瀧彌
臺南廳大目降、	明治四十四年十月二十五日	藤黑與三郎
同　大灣社	大正二年十月八日	川上瀧彌
阿緱廳阿里港	明治四十二年十一月五日	澤田兼吉
同　潮州	明治四十二年十一月七日	澤田兼吉

分布　北米合衆國（ルイジアナ）、印度、馬來、瓜哇、菲律賓、支那、日本、臺灣

病名

和名　稻麴病

英名　False Smut of Rice.　Lump Smut of Rice.

瘡狀菌科 (Fam. Dothideaceae.)

葉瘡菌屬 (Genus Phyllachora.)

八〇　ぎやうぎしば葉瘡病菌

Phyllachora Cynodontis (Sacc.) Niessl.

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

Sydow, H. et P. - Beitr. zur Kenntn. der Parasit. Pilze der Insel Formosa. (Ann. Myc. Vol. XII. No. 2. P. 111.) 1914.

寄主植物

ぎやうぎしば (Cynódon Dactylon L.) ノ葉ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳臺北　明治四十五年四月二日　藤黒與三郎

病名

和名　ぎやうぎしば葉瘡病

八一　あかう黒脂斑點病菌（第九圖版、一―五）

Phyllachora Fici-Wightianae Sawada.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料、第八、（臺灣博物學會々報、第二十四號）一九一六

病徴　葉ヲ侵シ病斑ハ黄綠色ニシテ多少葉脈ニテ限ラレテ多角狀ヲナシ直徑約三―五セメ、アリ　其上面ニ數箇乃至約十箇ノ漆黑色ニシテ光澤アル形不定ノ隆起卽チ子座ヲ生ス病斑部ハ永ク枯死スルコトナシ

病原菌　子座ハ葉ノ上面ニ生スレトモ極メテ稀ニ裏面ニモ生スルコトアリ裏面ニ生スルトキハ極メテ小形ナルモノヲ形成ス漆黑色ニシテ隆起シ光澤アリ形不定ニシテ長徑二―一五ミメ、厚サ約四一〇ミユーアリ擴大鏡ニテ之レヲ窺ヘハ其表面稍ミ粗面ヲナシ子嚢殻ノ孔口ハ極メテ微ナル突起トナリテ現ハル

子嚢殻ハ子座內ニ埋沒シタル空虛ヲナシ多數存在ス球狀乃至扁球狀ニシテ一孔口ヲ有ス高サ三四〇―三六〇ミユー

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

直徑二九〇—三六〇ミューアリ

子嚢ハ圓柱狀又ハ棍棒狀圓柱狀ヲナシ基方ニ漸細シ先端圓頭無色ニシテ大サ一二八—一四八×八—一三ミューアリ八箇ノ胞子ヲ一列ニ含ミ又別ニ無色ノ小胞子ノミヲ含ムモノアリ又兩者ヲ混合スルコトアリ無數ノ側絲ヲ介在ス側絲ハ長棍棒狀ヲナシ先端ニ向ツテ漸細シテ鈍頭ニ終ル單條ニシテ無色五箇ノ隔膜ヲ有シ長サ一〇八—一二四ミュー其太キ場所ノ直徑ハ八—九ミューアリ子嚢胞子ハ長楕圓形、無色單胞平滑ニシテ大サ一二—一五×六—七ミューアリ小胞子ハ一子嚢内ニ無數ニ生ズ無色短絲狀單胞ニシテ直大サ六—一六ミュー×一ミュー普通一二×一ミューアリ

寄主植物

あかう (*Ficus Wightiana* Wall.) ノ葉ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳北投　大正五年二月六日　藤黒與三郎

分布　臺灣

記事

Ficus 屬植物ニ寄生スル *Phyllachora* 菌ハ約二十五種アレドモ未ダ本菌ニ符合スヘキモノヲ見ズ

病名

和名　あかう黒脂斑點病

球殼菌群 (Fam.-group Sphaeriaceales.)

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

小球殼菌科 (Fam. Mycosphaerellaceae.)

黑腐病菌屬 (Genus Guignardia.)

八二　茶樹灰斑病菌

Guignardia Theae (Rac.) Bernard.

Bernard, Ch. - Sur Quelque Malad. de Thea assamica, de Kichxia, etc. (Bull. du Dept. L'Agric. aux Indes Neerland. No. 6.) 1907.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. XXII. p. 76., 1913.

Delacroix, G. et A. Maublanc. - Malad. des Plantes Cultiv. dans les Pays Chauds. p. 426., 1911.

Sawada, K. - 臺灣總督府農事試驗場. 特別報告. 第十一號. p. 132., 1915.

SYN. Laestadia Theae Racib.

Raciborski, M. - Parasit. Algen und pilze Javas. Theil I. p. 16., 1900.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. XVI. p. 456., 1902.

病徵及病原菌　古キ葉ニ生ジ病斑ハ灰色形不規則ニシテ微細ナル黑點ヲ散生ス之レ子囊殼ナリ子囊殼ハ主ニ葉表ニ生ズレドモ裏面ニモ生ズルコトアリ黑色ニシテ球狀乃至卵狀表皮下ニ生ジ孔口ニヨリテ外面ニ開ク大サ九六—一五〇×九〇—一三五ミューアリ　多數ノ子囊ヲ包藏ス子囊ハ叢生シ無色棍棒狀乃至棍棒狀紡錘狀ニシテ八箇ノ子囊胞子ヲ含ミ大サ四五—六三×一〇—一三ミューアリ　子囊胞子ハ無色單胞長橢圓乃至紡錘形ニシテ兩端圓頭或ハ稍鈍

頭ヲナシ一又ハ二箇ノ油球ヲ含ミ又ハ之ヲ含マザルモノアリ大サ一一—一九×五—六・五ミューアリ

寄主植物

茶樹（Thea chinensis Sims.）ノ葉ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

桃園廳茅仔埔　明治四十三年五月七日　藤黒與三郎

新竹廳斗換坪　明治四十三年五月三日　藤黒與三郎

分布　爪哇、臺灣

記事

我菌ノ子嚢及子嚢胞子ハ Raciborski 氏ノ記スル所ヨリ大形ナレトモ Bernard 氏ノ記載ニ殆ント一致ス

病名

和名　茶樹灰斑病

小球殼菌屬（Genus Mycosphaerella.）

八三　桑斑點病菌（第九圖版、一九—二一）

Mycosphaerella moricola Sawada. sp. nov.

病徵　病斑ハ充分成長セル葉ノ上ニ生シ葉裏ヨリ現ハレテ葉表ニ及ホシ初メ暗褐色ニシテ漸次褐色ニ變シ更ニ黃褐色トナル圓狀ニシテ直徑二—七ミメ、アリ散生又ハ群生シ病斑ノ周圍黃綠色トナリ早ク落葉ス

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

病原菌　子嚢殼ハ葉裏ニ生ジ黒色ニシテ表皮下ニ生ジ球狀乃至卵狀一孔口ヲ有シテ外面ニ開ク大サ五六―七五×五二―七一ミューアリ子嚢ハ棍棒狀乃至倒棍棒狀圓柱狀ニシテ彎曲シ無色ニシテ八胞子ヲ含ミ大サ二八―四三×八―一〇ミューアリ

子嚢胞子ハ紡錘形ニシテ多少彎曲シ中央ニ一隔膜ヲ有シ隔膜ニ於テ縊レヲナサズ無色ニシテ大サ一六―一八×三・五ミューアリ、側絲ヲ缺ク

寄主植物

桑（Morus alba L.）ノ葉ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

花蓮港廳拔仔庄　明治四十二年五月十日　澤田兼吉

分布　臺灣

記事

桑ニ寄生スル Mycosphaerella 屬又ハ Sphaerella 屬ノ菌類ニ二種アリ一ハ Mycosphaerella Mori (Fuck.) Lindau. 卽チ Sphaerella Mori Fuck. 菌ニシテ他ハ Sphaerella morifolia Pass. 菌ナリ而シテ人ニヨリテ此二者ヲ同種トナスモノアリ我菌ノ子嚢及子嚢胞子ハ共ニ前者ヨリ著シク小形ニシテ明カニ差違セリ

病名

和名　桑斑點病

八四　葱黑澁病菌（第九圖版、二二一―二二三、三〇）

Mycosphaerella Schoenoprasi (Rabh.)

Sawada, K. - 臺灣菌類資料. 第十五. (臺灣博物學會々報. 第三十四號. p. 1.) 1918.

SYN. Vermicularia Schoenoprasi Rabh.

Rabenhorst, L. - Herb. Myc. II. No. 346.

SYN. Gnomonia Schoenoprasi Ces. et de Not.

Cesati, V. et de Notaris, G. - Schema. p. 58.,

SYN. Sphaerella Schoenoprasi (Rabh.) Auersw.

Auerswald, B. - Myc. Europ. Syn. Pyr. p. 19.

Saccardo, P. - Syll. Fung. I. p. 522., 1882.

SYN. Mycosphaerella Schoenoprasi (Auersw.) Schroet.

Schoeter, J. - Kryptg.-Flora von Schl. Bd. III. Heft. 2. p. 339., 1908.

SYN. Phaeosphaerella Schoenoprasi (Rabh.) Hara.

Hara, K. - 葱ノ黑澁病ニ就テ (日本園藝雜誌. 第二十九年. 第二號.) 1917.

病徵 葉及花梗ヲ侵シ病斑ハ藁色ニシテ廣ク擴カリ遂ニハ全葉ヲ占ムルニ至ル其表面ニ群生又ハ散生セル小黑點ノ夥シク生スルヲ見ルヘシ臺灣ニ於テハ多ク冬期ニ發生シ若シ春季發生スルモノアレハ之レ冬季ノ遺物ナリ冬期ニ於テ甚シク發生シ葉ハ殆ド枯死スルコトアリ然シ多クハ古キ葉ヲ侵スヲ常トス故ニ採種畑ニ於テ被害甚シ

病原菌 子嚢殼ハ多ク群生シ一團數十乃至數百ヲ算スヘシ其集團ハ圓狀又ハ楕圓狀長サ一―五ミメ、アリ子嚢殼ハ

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

黑色卵球狀ニシテ表皮下ニ生シ大サ八三—一二〇×九〇—一二八ミューアリ孔口ニヨリテ外面ニ開ク孔口ハ圓形ニシテ直徑二〇—二四ミューアリ子嚢殼壁ヲ構成スル細胞ハ多角形ニシテ直徑六—八ミューアリ

子嚢ハ叢生シ洋梨狀乃至紡錘狀ニシテ直又ハ彎曲シ無色ニシテ大サ五六—七六×二〇—二八ミューアリ 其頂端ノ膜最モ厚ク厚サ四—八ミューアリ基部ニ向ツテ薄膜トナリ八胞子ヲ含ム

子嚢胞子ハ無色圓柱狀、兩端圓頭中央ニ近ク一隔膜ヲ有シ隔膜ニ於テ多少縊ヲナシ一方ノ細胞ハ他ノ細胞ヨリ短クシテ稍太シ少數ノ顆粒體ヲ含ミ大サ二二—三三×七—九ミューアリ

寄主植物

ねぎ（Allium fistulosum L.）ノ葉及花軸ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內埔庄	大正三年二月十二日	藤黑與三郎
同　同	大正五年三月二日	藤黑與三郎
同　同	大正六年四月十日	澤田兼吉
桃園廳桃園	大正三年二月十三日	澤田兼吉
同　同	大正四年二月二十日	澤田兼吉
臺中廳關帝廳	大正二年四月二十七日	澤田兼吉
花蓮港廳璞石閣	明治四十四年五月三十日	澤田兼吉

分布　歐洲、日本、臺灣

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

記事

一、出田新氏著、日本植物病理學第二百六十二頁及堀正太郎氏著農作物病學第二百二十二頁ニハ葱黒澁病菌ヲ Mycosphaerella Schoenoprasi ナル Schroeter 氏ノ學名ヲ採用シ其記載ニハ Sphaerella allicina (Fr.) Auersw. ヲ載セタリ誤マリナラザルカ

二、堀正太郎氏ハ同書ニ接種試驗ニヨリテ Macrosporium parasiticum Thuem. 菌ハ本菌ノ分生胞子時代ナルヲ知レリト記シ又近頃原攝祐氏ハ試驗ヲ行フコトナクシテ同樣ノ記事ヲ發表（日本園藝雜誌第二十九年第二號、一九一七）セリ然ルニ Macrosporium parasiticum 菌ニ就テハ既ニ西暦一八八八年宮部博士ノ精細ナル研究報文（On the Life-history of Macrosp. parasiticum, Thuem.）發表セラレ其子囊胞子時代ハ Pleospora herbarum ニシテ他ニ世代ヲ有セサルコト明カトナレリ

余ハ臺灣ニ於テ Macrosporium parasiticum 菌ガ侵シテ生ジタル病斑上ニ Pleospora herbarum 菌ノ生ジタルヲ認メ猶 Mycosphaerella Schoenoprasi 菌ト Macrosporium parasiticum ト相伴ハザルヲ常ニ觀察セリ

病名

和名　葱黒澁病

群房小球殼菌屬 (Genus Leptosphaerulina.)

八五　桑白星病菌（第九圖版、一五—一八）

Leptosphaerulina moricola Sawada. sp. nov.

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

病徵　病斑ハ成長セル葉ノ上ニ生シ小形ニシテ散生又ハ群生シ圓狀又ハ歪形ニシテ黃褐色乾燥凹陷シ其緣邊ハ紫褐色ヲナシ直徑一―五ミメアリ其上面ニ數箇ノ黑色ノ細點ヲ生ス

病原菌　子囊殼ハ葉ノ上面ニ生シ一病斑上ニ普通一乃至數箇ヲ生ス暗褐色球狀乃至扁球狀ニシテ大サ六六―八六×五二―八〇ミューアリ表皮下ニ生シテ一孔口ニヨリテ外面ニ開ク孔口ハ直徑二六ミューアリ、子囊殼壁ヲ構成スル細胞ハ多角形ニシテ二三層ヨリ成リ直徑六―七ミューアリ　子囊ハ楕圓形、長楕圓形又ハ倒卵狀ヲナシ稍ゝ彎曲シ其頂端ニ於テ厚膜ナリ無色大サ四〇―四五×一八―三〇ミューアリ　內ニ八胞子ヲ二三列ニ含ム、子囊胞子ハ長楕圓形乃至倒卵狀長楕圓形ニシテ煉化狀ニ橫ニ三箇縱ニ一乃至二箇ノ隔膜ヲ有シ隔膜部ニ於テ縊ヲナサス藁色ヲ帶ヒ大サ二一―二四×七・五―九ミューアリ

寄主植物

桑（Morus alba L.）ノ葉ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳林口庄　明治四十一年八月十七日　藤黑與三郎

分布　臺灣

記事

本菌ハ胞子藁色ニ着色セラルルヲ以テ西曆一九〇二年 McAlpine 氏ノ創設ニ係ル Leptosphaerulina 屬ニ納ムヘキモノニシテ此屬中高等植物ニ寄生スルモノ只一種卽チ L. australis McAlp. アルノミナリ然レトモ我菌トハ全ク異ナレリ又我菌ハ Pleosphaerulina Briosiana Poll. 菌ニ近シ然レ共我菌ノ子囊ハ其半ハニ過

キス又 Pleosph. Briosiana 菌ノ子嚢胞子ハ長橢圓狀紡錘形ニシテ三箇稀ニ四箇ノ横隔ヲ有スレトモ我菌ニアリテハ倒卵狀長橢圓狀ニシテ必ス三箇ノ横隔ヲ有スルヲ以テ異ル

病名

和名 桑白星病

多房子菌科 (Fam. Pleosporaceae.)

多房子菌屬 (Genus Pleospora.)

八六 葱葉枯病菌

Pleospora herbarum (Pers.) Rabh.

Rabenhorst, L. - Herb. Myc. Ed. II. 547.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. II. p. 247., 1883.

Winter, G. - Rabh. Kryptg. - Flora. von Deutschl., Oesterr. und der Schweiz. Bd. I. Abt. 2. p. 504., 1887.

Miyabe, K. - Life-History of Macrosp. parasit. Thuem. (Ann. of Botany. Vol. III.) 1889.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料. 第十五. (臺灣博物學會々報. 第三十四號. p. 3.) 1918.

SYN. Sphaeria herbarum Pers.

Persoon, Ch. E. - Syn. Fung. p. 79.

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

SYN. Macrosporium parasiticum Thuem.

Thuemen, F. - Myc. Univ. N. 667., 1886.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. IV. p. 537., 1886.

Kawakami, T. and R. Suzuki. - 臺灣農作物病害目錄. 其一. p. 22., 1908.

Ideta, A. - 日本植物病理學. p. 772., 1911.

SYN. Macrosporium sarcinula Berk.

Berkeley, M. J. - Ann. Nat. Hist. 125.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. IV. p. 524., 1886.

Duggar, B. M. - Fung. Diseases of Plants. p. 304., 1909.

病徵　葉及花軸ヲ侵シ病斑ハ紡錘狀楕圓形ニ擴カリテ帶紫煤色ヲ呈シテ枯死セシメ其處ニ煤色ノ黴ヲ密ニ布ク而シテ其黴ハ屢〻同心圈ヲ畫ク病斑ノ長サハ普通二―六セ、メ、アリ古クナルニ從ヒテ中央部ニハ黴去リテ灰色ヲ呈シ縱ニ裂孔ヲ穿ツコトアリ此場合ニ時ニ其附近ニ黒點(子囊殼)ヲ生スルコトアリ

病葉ハ病斑ノ上方部ハ黃變枯死シ或ハ病斑ノ部分ヨリ折レ時ニ被害甚シキコトアリ多少ナリトモ葱ノ栽培時間ニハ常ニ發生ス

病原菌

分生胞子時代ハ擔子梗ハ氣孔ヨリ叢生シ煤色圓柱狀ニシテ基部膨大シ多少彎曲シ四―七箇ノ隔膜ヲ有シ隔膜ニ於テ縊レヲナシ又縊レサルコトアリテ一定セス其頂端著シク膨大シ頂切頭ヲナス又更ニ其頂端ヨリ生長シテ再ヒ頂

膨大シ再三之レヲ繼續スルモノアリ單條又ハ時ニ分枝シ大サ四八—一二〇×五—八ミューアリ其頂端ニ分生胞子ヲ單生ス

分生胞子ハ多細胞ヨリ成レルヲ以テ從ツテ形不定ニシテ概形圓柱狀、棍棒狀、長楕圓狀、楕圓狀卵狀等アリ灰色乃至暗黃褐色ニシテ横ニ三—八箇ノ隔膜ヲ有シ猶縱ニ一—三箇ノ隔膜ヲ有シ隔膜ニ於テ縊レヲナシ胞子面ニ大ナル數多ノ瘤ヲ示シ數箇乃至二十箇ノ細胞ノ集團ヨリ成ル大サ三二—六八×一二—三二ミューアリ而シテ其表面ニ微細ナル疣ヲ布ケリ

子嚢胞子時代＝子嚢殼ハ病斑ノ古キ部分ニ黑點トシテ現ハレ散生ス表皮下ニ生シ煤褐色圓狀ニシテ直徑二〇〇—二六〇ミューアリ孔口ニヨリテ外面ニ開ク孔口ハ圓狀ニシテ直徑三五—四〇ミューアリ子嚢殼壁ヲ構成セル細胞ハ多角形ニシテ直徑一二—一六ミューアリ

子嚢ハ一子嚢殼內ニ約三十箇（子嚢殼ノ大小ニヨリテ異ナル）藏セラレ無色ニシテ棍棒狀基部狹マリテ屈又ハ直頂端圓頭八胞子ヲ含ミ大サ一三二—一六〇×二八—三二ミューアリ 側絲ハ無色絲狀ニシテ隔膜ヲ有シ大サ九〇—一四〇×四—五ミューアリ

子嚢胞子ハ二列又ハ之レニ近キ樣子ニ含マレ帶褐黃色五—七箇ノ横隔及一—二箇ノ縱隔ヲ有シ隔膜ニ於テ縊ヲナシ顆粒體ヲ含ミ大サ二八—三六×一三—一七ミューアリ其周圍ニ無色ナル膠質ノ層ヲ被ル其厚サ四—六ミューアリ子嚢胞子ヲ水中ニ置ケハ約二時間ニシテ發芽管ヲ生ス發芽管ハ直徑三—四ミューアリ

寄主植物

ねぎ（Allium fistulosum L.）ノ葉及花軸ニ寄生ス

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內埔庄	明治四十年四月二十八日	鈴木力治
同　同	明治四十一年二月十日	鈴木力治
同　同	大正五年二月二十二日	藤黑與三郎
同　同	大正六年四月十日	澤田兼吉
同　同	大正六年四月十三日（子嚢殻時代）	澤田兼吉
臺北廳深坑	明治四十一年九月二十九日	藤黑與三郎
新竹廳新埔	大正四年三月十八日	澤田兼吉
同　大湖	明治四十三年五月一日	藤黑與三郎
臺南廳鳳山	明治四十二年十一月八日	澤田兼吉
花蓮港廳吳全城	明治四十二年五月五日	澤田兼吉

分布　歐洲、南亞米利加、北亞米利加、西比利亞、日本、瓜哇、ニュージーランド、臺灣

記事

一、Pleospora herbarum (Pers.) Rabh. 菌ハ Macrosporium parasitium Thuem. 菌ノ子嚢胞子時代ナルハ既ニ宮部博士カ精細ナル研究ヲ行ヒテ確定セラレタル事實ナリ而シテ余カ茲ニ記載セシモノハ單獨ナル一病斑內ニ生ジタル兩者ヲ採リ記シタルモノニシテ斯クノ如キ事實ハ再三之ヲ實見セリ

二、原攝祐氏ハ日本園藝雜誌第二十九年第二號ニ此分生胞子時代ヲ Alternaria ナリトセシモ果シテ斯ク變更ス

ベキモノナルヤ疑ハシ葱ニ寄生スル Macrosporium 及 Alternaria 兩屬ニ納ムベキ菌類數種アリ一ハ我菌ニシテ他ノ一ハ胞子直徑稍ゝ我菌ニ似テ甚タ長ク頂細長ナルモノ他ノ一ハ胞子ノ幅著シク狹クシテ甚ダ長ク頂細長ナルモノナリ而シテ是等ハ Macrosporium parasiticum 菌ガナセル病斑ニ近似ノ病徵ヲ呈スルコトアリ猶一層ノ精査ヲ遂グル必要アルベシト思考ス

三、本菌ノ分生胞子及子囊胞子ノ發達狀態ヲ見ルニ宮部博士ガ既ニ記スル如ク初メ三箇ノ横隔ヲ生ジ後漸次ニ横及縱ニ數多ノ隔膜ヲ生ジ來ルモノナリ

四、Pleospora herbarum (Pers.) Rabh. 菌ハ多クノ植物上ニ屍物寄生的ニ生ズルモノナリトセラル、モ今日ハ恐ラク只一種ノ菌類ガ占有スベキ名稱ニアラズシテ混合的ノモノナラザルナキカ

病名

和名　葱葉枯病

凝集菌科 (Fam. Massariaceae.)

群房凝集菌屬 (Genus Pleomassaria.)

八七　シザル群房凝集菌（第九圖版、一二—一四）

Pleomassaria Agaves Sawada.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料、第十四、（臺灣博物學々會報、第三十二號、一二八頁、一九一七）

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

記載　葉ノ枯損セル部分ニ生ジ寄屍生活ヲナス寄主組織內ヲ迷走セル菌絲ハ無色ニシテ分枝シ隔膜ヲ有シ直徑三—四ミューアリ　子囊殼ハ數十箇群生シ葉ノ上面ニ生ジ表皮下ニアリテ孔口ヲ表面ニ現ハス子囊殼ハ黑色ニシテ球狀孔口ニ向ツテ少シク伸ビ殼壁ノ厚サ約三〇ミューアリ緻密ナル組織ヨリ成ル內ニ多數ノ子囊ヲ藏ス

子囊ハ棍棒狀ニシテ無色基部ニ向ツテ漸細シ大サ九〇—九五×一七—一八ミューアリ　八胞子ヲ含ム側絲ハ絲狀ニシテ無色子囊間ニ介在シテ子囊殼內腔ヲ充實ス其直徑四ミュー長サ一六〇ミューニ達ス

子囊胞子ハ黑褐色、長楕圓狀、兩端鈍頭又ハ圓頭ヲナシ三箇ノ橫隔ヲ有シ又縱ニ一又ハ二箇ノ隔膜ヲ有シ隔膜ニ於テ縊ヲ有ス大サ二〇—二一×八—九・五ミューアリ其周圍ニ無色膠質ノ被膜ヲ被ル

寄主植物

しざるあさ (Agave rigida Mill. var. sisalana Pers.) ノ葉ノ枯損セル部分ニ生ズ

臺灣ニ於ケル分布

阿緱廳阿里港　　大正六年八月三十日

記事

Pleomassaria 屬菌類中本菌ニ最モ近キハ Pl. allospora (Otth.) Jacz. ナリ然レ共其子囊ハ甚ダ長クシテ幅狹キ(一七五×一二—一三ミュー)ヲ以テ異ル

又本屬ニ合併セラレタル Karstenula 屬中ニテ本菌ニ近キモノハ Karst. dumorum Mouton ナリ然レ共其子囊ハ長クシ幅狹ク(一六〇—一七〇×九—一〇ミュー)又子囊殼ハ大形(1/2ミ、メ、)ナルニヨリテ異ル又 Agave 屬植物ニ寄生スル菌類ニシテ本菌ニ最モ近キ關係ヲ有スル Pleospora 屬ニ四種アリ然レトモ是等ハ總テ胞

子ノ隔膜ノ數多クシテ本菌ノ遠ク及ハザル所ナリ

和名　しざる群房凝集菌

時針菌科 (Fam. Gnomoniaceae.)

團聚菌屬 (Genus Glomerella.)

八八　樟黑斑病菌

Glomerella Cinnamomi Yoshino.

Yoshino, K. - 樟黑斑病（植物學雜誌第二十一卷、第二四八號、二二九頁）一九〇七

Ideta, A. - 日本植物病理學、六七三頁、一九一一

Sawada, K. - 臺灣菌類資料、第九、（臺灣博物學會々報、第二十五號）一九一六

病徵　枝梢及葉、葉柄等ヲ侵シ病斑ハ圓狀ニシテ直徑普通一―二ミメアリ　初メ帶紫褐色ニシテ漸次中央凹陷シテ其部分黑褐色トナリ更ニ其中央部褪色シテ褐灰色トナリ周圍黑褐色ヲナス古キ病斑ハ濕潤ナル時ニハ帶淡紅色ノ粘着性粉末ヲ生シ古キ病斑上ニハ病斑ト同色ノ稍ゝ隆起セル細點ヲ散生ス

北部臺灣ニ於テハ冬期甚シク發生スルコトアリテ十數年ヲ經過セル高サ約二間以上ニ達スル樹モ之レカ為メニ葉ハ殆ント落下シ枝梢ノ大半枯死セシメラル、コトアリ之レ北部臺灣ノ冬期ハ霖雨繼續シテ多濕ノ時期ナルヲ以テナリ

病原菌　病斑ノ寄主組織內ニ存在スル菌絲ハ初メ無色ニシテ後黃褐色ニ變シ隔膜ヲ有シ分枝シ直徑二・五―三ミュー

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

アリ

胞子層ハ初メ表皮下ニ生シ後表皮ヲ破リテ裸出シ密ニ擔子梗ヲ竝列ス擔子梗ハ無色、單條、直又ハ彎曲シ隔膜ヲ有セス大サ一六—二七×三・五—四ミューアリ頂ニ胞子ヲ單生ス、分生胞子ハ無色、單胞、平滑ニシテ長楕圓狀又ハ紡錘狀長楕圓狀、兩端圓頭又ハ鈍頭ヲナシ直又ハ稍ゝ彎曲セルモノアリ、中央ニ一核ヲ有シ大サ一〇—一八×四—六ミューアリ子嚢殼ハ表皮下ニ生シ褐色乃至暗褐色ニシテ直徑九二—一四〇ミューアリ孔口ニヨリテ外面ニ開ク子嚢ハ無色、棍棒狀紡錘狀乃至紡錘狀ニシテ頂端圓頭大サ五三—六七×八—八・五ミューアリ八胞子ヲ二列ニ藏ス

子嚢胞子ハ長楕圓形、無色、單胞、平滑ニシテ普通中央ニ一核ヲ有シ大サ一二—一三×五・五—七ミューアリ

寄主植物

樟（Cinnamomum Camphora N. et Eb.）ノ枝梢及葉ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內埔庄		明治四十四年十二月十八日	澤田兼吉
同	同	大正六年二月二十一日	藤黒與三郎
同	臺北	大正二年四月二十四日	澤田兼吉

分布　日本、臺灣

記事

一、我菌ハ吉野毅一氏ノ記事ニ全ク符合スレドモ只子嚢胞子ノ幅ハ我菌ニ於テ著シク廣シ之レ或ハ胞子ノ成熟程度ニヨルモノナラザルカ

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

二、本菌ニヨリテ起ル樟黑斑病ハ内地九州地方ニ於テハ春季五月頃ヨリ冬期卽チ十二月ニ至ル間ニ發生シ主ニ苗木ヲ侵スモノトセラルヽモ臺灣ニ於テハ事情好適スレバ殆ンド年中發生ス北部臺灣ニ於テハ發生最モ盛ンナルハ冬期ニシテ冬期ハ降雨期ナルガ故ニ數ケ月ニ亘リテ陰濕ナル天候繼續ス之レガ爲メニ此病菌甚シク蔓延シ被害大ナルコトアリ大正二年一二月頃ニハ臺北附近ニ大發生ヲナシ苗及定植十數年生ノ樹ヲモ被害シ枝梢甚シク枯死セシメラレ葉ハ落下シテ或ルモノハ殆ンド瀕死ノ狀ヲ呈セルモノヲ生ジタリキ

病名

和名　樟黑斑病

八九　草棉炭疽病菌

Glomerella Gossypii (Southw.) Edgerton.

Fujikuro, Y. - 草棉の炭疽病に就て（臺灣農事報、第七一號、二三頁）一九一二

寄主植物

わた（Gossypium herbaceum L.）

臺灣ニ於ケル分布

臺北

病名

和名　草棉炭疽病